

72
123

第 五 十 五 編

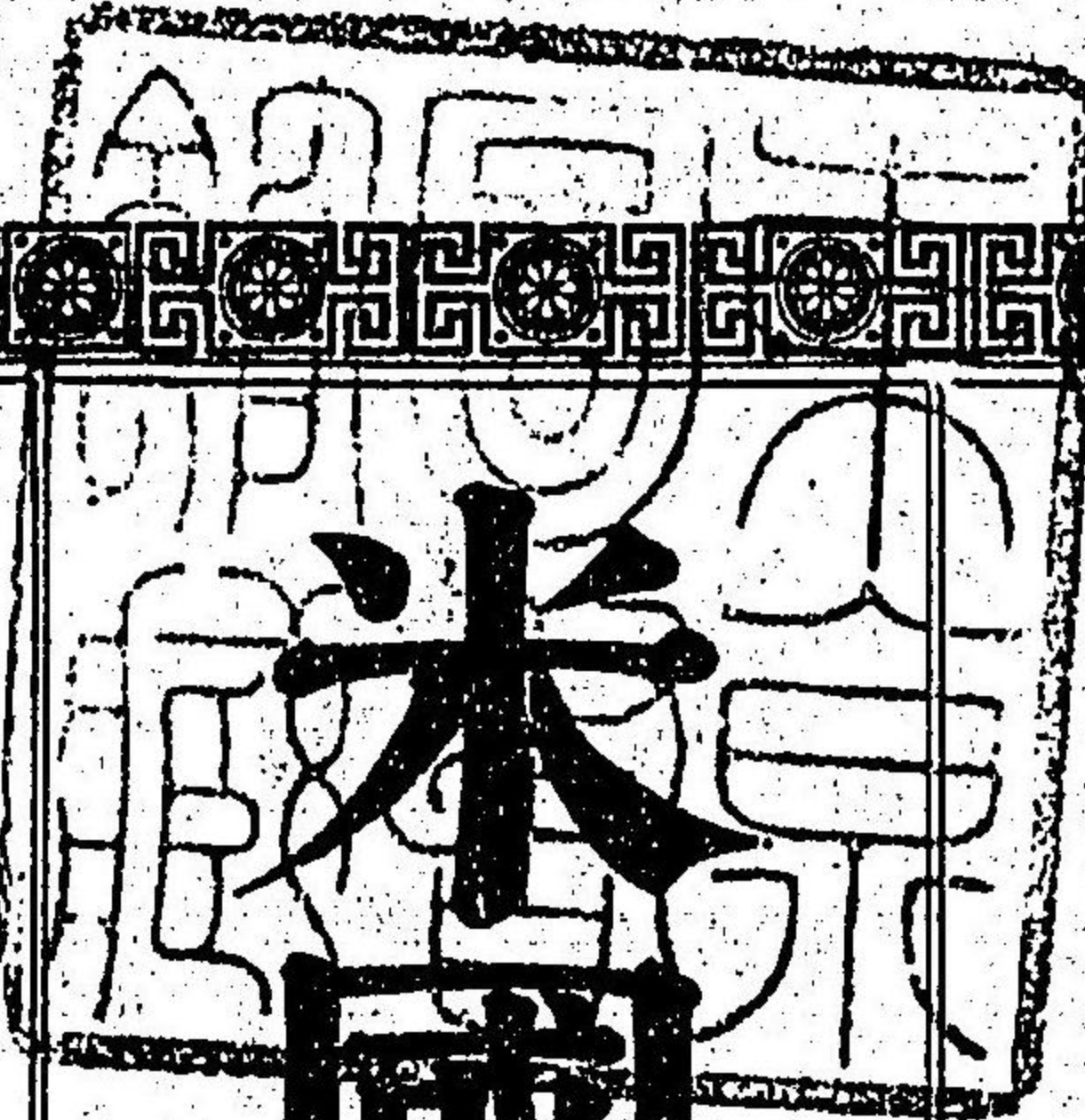
米國獨立戰史

全

澀江保著

東京博文館藏版





羽化生澁江 保著



米國獨立戰史 全

東京 博文館藏版

東洋文藝叢書

亞米利加十三州ノ人民本國ノ虐政ニ堪ユルヲ能ハズ兵ヲ擧ゲテ之ニ抗シ苦戰七年ノ後遂ニ其ノ羈絆ヲ脱シテ獨立共和國ヲ建ツルヲ得タリ現ニ西半球ニ雄飛シ歐洲各國ト相對峙スル所ノ北米合衆國是レナリ本書開卷ニ於テハ先ツ英國ガ米洲ヲアラ

序

今チ距ルル百二十年前亞米利加十三州ノ人民本國ノ虐政ニ堪ユルヲ能ハズ兵ヲ擧ゲテ之ニ抗シ苦戰七年ノ後遂ニ其ノ羈絆ヲ脱シテ獨立共和國ヲ建ツルヲ得タリ現ニ西半球ニ雄飛シ歐洲各國ト相對峙スル所ノ北米合衆國是レナリ本書開卷ニ於テハ先ツ英國ガ米洲ヲアラ
ドルニウフアウシドランド等ノ諸地ヲ發見シタルヲ叙シ次ニ其ノ後
ヴァージニアヲ建テジョージアムスタウンニ始メテ永久ノ殖民地ヲ爲シ
ルヲ叙キテ十三州設立ノ顛末英佛干戈ヲ殖民地ニ交ユル等ノ事ニ及
ボシ又第一編ニ於テハ本國ト殖民地トノ軋轢即チ革命ノ遠因近因ヲ
叙シ第二編ヨリ第八編ニ於テハ革命戰即チ獨立戰其ノ者ヲ述ベ第九編
ニ於テハ戰後ノ狀況及ヒ善後策ヲ記セリ而シテ發見者カボット殖民
者スミスラレロペソ及ヒ獨立ノ諸傑華盛頓フランクリンサファア
イツンハミルトンアマムスヘンリーハントリッヂ井ニ係ル義士ラフア
ニット

序

1929
1179

等數十名ノ小傳、其ノ苦心ノ狀モ亦卷中ニ収メリ、但シ論文中、各史家ノ意見ヲ採ルモノハ、皆人名、又ハ書名ヲ記シテ以テ其ノ出處ヲ明ニス。人名、書名ヲ記サルモノハ、生ノ愚見ト知ルベシ。

書中、獨立戰ノ際ニ於ケル英米兩國名家ノ小傳ヲ叙スルコ、米人ノ小傳ハ五號字ヲ以テシ、英人ノ小傳ハ六號字ヲ以テス。是レ固ヨリ彼レヲ親シミ、此レヲ疎ニスルニアラズ、本書ハ米人ヲ主トシ、英人ヲ客トシタルヲ以テナリ。

本書ノ引用書ハ左ノ如シ

バンシロント著『合衆國史』(Banerolt's History of the United States)

トマス、オー、ケーン商館發兌『米國革命史』(History of the American Revolution, from Thomas O' Kane)

フリーマン發兌『合衆國史』(J. A. Doyle's History of the United States,

Edited by Edward A. Freeman, D. C. L.)

パットン著『合衆國史』(J. Harris Patton's History of the United States)

バーンス著『合衆國史』(Barnes, History of the United States)

ワイコッフ著『世界之四文明』(Wikoffs, The Four Civilizations of the World)

スミス著『米國百名家』(H. A. Smith's One Hundred Famous Americans)

右ノ外、生ノ筆ニ成リタル『神童』『萬國百偉人』『雄辯法』『國民錦囊』
『萬國發明家列傳』モ亦參考ニ供セリ。

明治二十八年十二月

羽化生志るす

米國獨立戰史目次

小引

米國獨立前記

北亞米利加ニ於ケル英國ノ殖民地

第一章 發見及ヒ殖民……………六

附カボット父子及ヒサリ、ウチナルター、ラ
レノ傳

第二章 十三州……………一五

(一)ヴァージニア州附甲比丹スミスノ傳……………一五

(二)マサチューセッツ州。ニューハムプシア州。ロードアイランド

州……………一八

(三)コンネチクテカッタ州……………二六

(四)新約克州……………二九

(五)メリーランド州。デラウェア州。ペンシルヴァニア州

附ウヰリアム、メンノ傳……………三三

(六)南北兩カロライナ州……………四〇

(七)ジョージア州附慈善家オヴルツトプノ傳……………四一

第一編 米國獨立戰ノ原因

第一章 獨立戰ノ遠因……………五四

第二章 獨立戰ノ近因……………六六

(其一)助力令狀ノ印紙條例

附フランクリンノ傳ノバトリック、ヘン

リーノ傳ノ英國政界ノ偉人老ビット

ノ傳

第三章 獨立戰ノ近因……………一二二

(其二)英政府新稅ヲ賦課スル波士敦虐殺

附華盛頓ノ傳ノフアトソンノ傳ノヘ

ンリー、リーノ傳

第四章 獨立戰ノ近因……………一五三

(其三)波士敦人民、船載ノ茶ヲ海ニ投スル英政府、波士敦港

ヲ封鎖スル第一回大陸聯合議會費府ニ會ス

附ハミルトンノ傳

第二編 米國獨立戰ノ第一年^{一七七五年}

第一章 レキシントンノ戰(革命ノ亂始メテ

破裂ス)……………一七五

附米將アットナムノ傳

第二章 第二回大陸聯合議會ノ華盛頓、大元

帥ニ選ハル……………一八八

附マヨーン、アマムスノ傳

第三章 バンカー山ノ戰——米軍ヲユン、デロ
ガ堡ヲ陷ル……………一九四

附エサン、アールレン、アールノルドノ傳

第四章 米將モントゴメリー、モントリール
ヲ陷ル——クエベツクノ戰——モント
ゴメリーノ戰死……………二〇一

第三編 米國獨立戰ノ第二年^{一七七六}

第一章 英軍、波士敦ヲ退ク——英軍、モールト
リー堡ヲ圍ム……………二〇八
第二章 愛國者、獨立ノ檄文ヲ公ニス……………二二三
第三章 新約克附近ノ戰……………二二八
第四章 ツレントンノ戰……………二三五

第四編 米國獨立戰ノ第三年^{一七七七}

第一章 プリンストンノ戰……………二三六
第二章 ベニントンノ戰——アランダール
ノ戰——英軍、費府ヲ陷ル……………二三九
第三章 ゼアマンタウンノ戰……………二四二
第四章 第一回サラトガ戰——第二回サラト
ガ戰——英將バーゴイン降ル……………二四四

第五編 米國獨立戰ノ第四年^{一七七八}

第一章 佛國、米國ノ獨立ヲ承認ス……………二四八
第二章 モンマウスノ戰……………二五一
第三章 土蠻、米兵ヲ虐殺ス——佛國艦隊、ナラ
ガンセツト灣ニ着ス……………二五二

第六編 米國獨立戰ノ第五年^{一七七九}

第一章 南方ノ役 二五五
附ボートル、ジョンズノ傳

第二章 北方ノ役 二五六

第三章 海 戰 二五九

第七編 米國獨立戰ノ第六年^{一七八〇年}
 第一章 南方ノ役 二六二
英軍、チャールストンヲ畧スルカムデン
 ノ戰ニ王、民兩黨兵

第二章 大陸貨幣ノ發行ニ英國ノ危難 二六五

第三章 米將アーノルドノ内應 二六七

第八編 米國獨立戰ノ第七年^{一七八一年}
 第一章 南方ノ役 二七一
クローメンズノ戰ニ米將クローンノ退去

第二章 北方ノ役 二七五
叛將アーノルド、米軍ト戰フ

第三章 英將コーンウチリス卿、米軍ニ降ル
 米軍遂ニ最後ノ戰捷ヲ博ス 二七六

第九編 媾和并ニ善後
 第一章 英米兩國、巴里ニ於テ媾和條約ヲ結
 フ 二八一

第二章 國歩ノ艱難 二八八

第三章 合衆國憲法ノ制定 二八九

第四章 華盛頓、第一世大統領ノ職ニ就ク 二九二

第五章

黨派ノ争

.....1100

附米國獨立戦ニ關スル重大事件ノ表

米國獨立戦史目次畢

米國獨立戦史

羽化生 澁江 保著

引



十六世紀ノ初葉ヨリ、宗教改革ノ風雲、政治改革ノ激浪ト相結テ歐洲ノ
 天地ヲ震動シ、變々浩々漸ク大不列顛島ヲ襲フ。是ノ時ニ當リテ、ジョン・
 ノック大司祭(John Knox)一五〇五年(我カ永正二年乙丑)生レ、同七二年(我
 元龜三年壬申)死ス。蘇國有名ナル宗教改革家ナリ。ナルモノアリ。不勒
 斯比得教會ノ中耳ヲ執リテ、宗教上ニ於ケル根本的革新ノ説ヲ唱ヘ、上
 帝ノ外何モノモ宗教ノ元首タルベカラズト信セリ。而シテ其ノ徒ハ、彼
 ノクランマー(Cranmer)一四八九年(我カ延徳二年己酉)生レ、一五五
 六年(我カ明曆二年丙申)火刑ニ處セラレ。創立ニ係レル監
 督教會ガ基督新教ノ一派ニテアリナガラニ、猶賤劣ナル儀式ヲ重シ、
 偶像教ノ臭味ヲ帶ブルヲ見テ、甚之ヲ嫌忌シ、以爲ラク。是レ教會ノ神聖

小引

1

清教徒ハ米國獨立ノ原動力ナリ

チ汚スモノナリ。須ラク此ノ弊習チ一掃シテ往時ノ純潔ニ復セザルベカラズト。茲ニ於テミヅカラ清教徒ト名ケ、洗滌ノ大任チ負擔セリ。此ノ思想後年一轉シテ英國革命ト爲リ、再轉シテ米國獨立ト爲ル。故ニ英國革命ト米國獨立トハ、清教徒實ニ之ガ原動力タリシナリ。

清教徒ハ、最モ熱心ナル敬神家ニシテ、且ツ最モ熱心ナル自由家ナリ。宗教上ニ於テ、上帝ノ外、何モノナモ元首ト認メ能ハザルト同時ニ、政治上ニ於テモ亦自由平等ノ主義チ執リテ、上帝ノ外、何モノナモ元首ト認メ能ハザルモノナリ。然レドモ當時歐洲諸大國ノ帝王ハ、依然トシテ天主教チ信奉シ、新教チ信奉スル君主ハ、唯一ノ英王チ特ムノミ。而シテ英國ノ隆替ハ、一ニ新教國ノ運命ニ關スルガ故ニ、清教徒ハ、今ヤ兄弟牖ニ闕クノ時ニアラズト爲シテ、暫ラク運動チ見合ハセ、皇室ノ爲ニ虐待セラレ、モ、國家ト宗教トノ爲メニ忍耐チ旨トシタリキ。加フルニ、其ノ後、英國ニ君臨セルエリザベス女皇(Queen Elizabeth)一五五八年(我カ永祿元年戊午)即位。一六〇三年(我カ慶長八年癸卯)崩御。

清教徒米州ニ移住ス

ハ聰敏弘裕ノ人ニシテ、其ノ清教徒チ厭フノ念ハ、更ニ前諸王ニ減セサルニモ拘ハラズ、稍々之チ寛假シタリシカバ、清教徒モ亦敢テ運動ニ着手セザリシガ、女皇崩シ、酷薄ナルジェームス一世(James I)一六〇三年(我カ慶長八年癸卯)即位。同二年(我カ寛永二年乙丑)崩御。位ニ即クニ及ビ、帝王神權ノ説チ楯甲トシテ、痛ク自由ノ友チ窘メ、殊ニ清教徒ニ對シテ更ニ一層ノ虐待チ極メシカバ、清教徒ハ茲ニ至リテ始メテ堪ユルヲ能ハズ。以爲ラク、今徒ニ主義ノ爲メニ死センヨリ、寧ロ生命チ全フシテ主義チ弘布スルニ如カズト。是ニ於テ一千六百十年(我カ慶長十五年庚戌)去リテ和蘭ニ逃ル、モノ百餘名。左レド和蘭人ノ特質タル、射利ニ汲々トシテ他チ顧ミルコ暇アラズ。之ニ向テ自由チ説クモ、到底馬耳東風タルチ免カレザルガ故ニ、更ニ北米ナルマサチューセツツニ移住シ、プリマウスノ郊野ニ自由ノ空氣チ呼吸シ、不羈ノ生活チ營メリ。實ニ一千六百二十年(我カ元和六年庚申)ナリ。第一編第二章(二)マサチューセツツ州ノ部チ參看スベシ。爾來ロシヤ、イギリス、フランスハ、信教ノ自由チ得ンガ爲ニ、ロード、アイランドニ移住シ、同上、

米州ノ殖民地ハ自由家ノ選所ニ充テタルモノナリ

米主ノ人實ニ自由殖民地ノ骨子ナリ

米國獨立ハ偶然ニアラズ

ド、アイランド州ノウヰリアム、ペン亦同シク、ペンシルヴァニアニ移住セリ。部ヲ参看スベシ。同上、(三)ヲ参看スベシ。其ノ他、デラウエア州ノ如キ、メリーランド州ノ如キ、ジョージア州ノ如キ、皆自由家ノ避難所ニ充テタルモノナリ。以上叙述スル所ニ據レバ、北亞米利加ノ殖民ハ、自治ノ氣象ニ富ミ、他人ノ干渉ヲ厭ヘル人ヨリ成レルヲ知ルベシ。勿論全殖民悉ク然ルニアラズ。一攫千金ノ利ヲ罔セント欲シテ移住セルモノ亦多シ。然レドモ全殖民ヲ感化シ、之ガ氣風ヲ養成シタルハ、乙ニ在ラズシテ甲ニ在リ。辞ヲ換テ之ヲ言ヘバ、甲ハ實ニ全殖民地ノ骨子ト謂ハザルベカラザルナリ。然ルニ英政府タルモノ之ヲ察スルヲナク、此ノ自主ノ人ニ對スルニ、常ニ壓制ノ甚シキヲ以テセリ。米人ガ本國ノ羈絆ヲ脱スル、豈偶然ナランヤ。抑モ戦争ノ起ルハ、古來決シテ少ナシト爲サズ。而シテ名ヲ正義ニ假ルノ師モ亦頗ル多シ。然レドモ眞ノ義戰ナルモノニ至リテハ、殆ント絶無ト稱シテ可ナリ。獨リ英國革命ノ戰ト、米國獨立ノ戰トニ至リテハ、眞ノ義

詩傑華盛頓ヲ評ス

戰ト稱スベキカ。何トナレバ、此ノ二者ノ如キハ、純然國ヲ愛ヒ、民ヲ愛スルヨリ起レルモノニシテ、其ノ間ニ一點ノ私心ヲ挾マザレバナリ。英國ノ詩人バイロン(Byron)曾テ華盛頓ヲ嘆美シ、其ノ拿破崙ニ優レル萬々ニシテ、獨リシメンシナメスト並ニ稱スベキヲ謠テ曰ク。

Where may the wearied eye repose,

When gazing on the great,

Where neither guilty glory glows,

Nor despicable states?

Yes, one,—the first, the last, the best,—

The Cincinnatus of the West,

Whom envy dared not hate,

Bequeathed the name of Washington,

To make man blush there was but one.

千載ノ下、人
ナシテ奮起セ
シム

噫、彼ノ徒(華盛頓等米國獨立ノ偉人)ノ如キハ、之ヲ俯仰天地ニ耻ナザルノ人ト謂フベシ。其ノ清廉潔白ナル、之ヲ雪ニ比スベシ。千載ノ下、人ヲシテ奮起セシムルハ、此ノ徒ニアラズシテ誰レソヤ。
予ハ今米國獨立戰史ヲ草シ、次デ英國革命戰史ヲ草セントス。恨ムラコハ、倉卒稿ヲ脱シ、筆ノ以テ意ニ伴フ能ハザルヲ。將ニ他日ヲ待テ訂正セントス。讀者若シ條緒ノ整然ヲラザルヲ咎ムルコトナクンバ幸甚。

本 引

六

米國獨立前記

北亞米利加ニ於ケル英國ノ殖民地

第一章 發見及ヒ殖民

附カボット父子及サー、ウチルター、ラレーノ傳

一千四百九十七年 我カ明歴六年丁巳(足利
十一代將軍義隆ノ時) 威尼斯人シヨン、カボット(John Cabot)

英國始メテ北
亞米利加ノ地
ヲ發見ス

英國始メテ北
亞米利加ニ領
地ヲ得

シヨン、カボ
ット

ナル者、英王ヘンリー七世(Henry VII)ノ允可ヲ得テ、北亞米利加ニ航シ、
ノウフアウンドランド沿海ノ地ヲ發見セリ。之ヲ英國ガ亞米利加ニ於
ケル新地發見ノ嚆矢ト爲ス。其ノ子セバスタアン、カボット(Sebastian Cai-
bot)又屢、同洲ニ航シテ、南方遙カニ北カロライナニ至ルマデノ地方ヲ
發見シ、悉ク英國ノ有ニ歸セシメタリ。左レバ英國ハ、當時既ニ北米ニ於
テ、ラブラドルヨリ、アルベマールニ至ルマデノ廣大ナル版圖ヲ得、西班
牙、佛蘭西ト彼ノ地ニ鼎立ノ勢ヲ爲セリ。當時ノ習慣ニ據レハ、始メテ土地ヲ發見
シタル者ハ之ヲ領スルノ權アルナリ。然レ
ドモ未ダ殖民ノ計畫アラザリキ。西班牙ハ主トシテ北米ノ南部ヲ領シ、佛國ハ、北部ヲ領シ、
英國ハ、中部沿海ノ地ヲ領セリ。又和蘭ハ、デラウェア河
ヨリ、コッド岬ニ至ル迄ノ地ヲ
領シ、之ヲ新和蘭ト名ケタリ。

シヨン、カボットハ、威尼斯ノ商人ナリ。出生ノ年
月未詳英國ニ來リテ、プリストルニ住ス。プリストルハ當時
英國西部ノ大都會
ニシテ、商業最モ繁
盛ノ地ナリ。時ニ熱那ノ人閣龍(Columbus)ガ亞米利加發見ノ報、歐洲ニ傳播シタルヨリ、社會ハ一
時發見熱ニ浮カサレテ、宛ナガラ狂スルガ如ク、新世界ニ船舶ヲ送ラザル國ハ殆ンドアラザリキ。カボット
ハ、航海先鞭者ノ一人ナリ。カボット、發見ノ航海ヲ爲サント欲シテ、英王ヘンリー七世ノ允可ヲ請フ。王

米國獨立前記

七

發見及殖民

之ヲ允可ス。然レドモ王元來寄齒トモ云フヘギ人ナレバ、空モ航海ノ費用ヲ給セズ。却ツテ貿易ノ利潤五分ノ一ヲ獻スベシト命シ、且ツ勅スラク。「新地發見ノ曉、朕、汝等父子ニ其ノ通商ノ特權ヲ與フヘケレバ、之レニ代ヘテ、其ノ地ヲ悉ク朕ノ所領タラシムベシ」ト。カボット乃チ其ノ子セバスチアン等三名ヲ伴ヒテ、アリストル港ヨリ纒ヲ解キ、遂ニラブラドル加拿陀東北ノ半島ナリ。ニウニ達ス。實ニ一千四百九十七年、即チ閣龍ガ北米大陸ニ到リタル凡ソ十四箇月以前ニ在リ。カボット以爲ラク。「是レ必ラズ韃靼王ノ領地ナラン」ト。左レド上陸シテ、國旗ヲ建テ、英王ノ所領ト爲セリ。歸國ノ後、諸植ノ榮譽ヲ一身ニ荷ヒ、絹布若用ノ特許ヲ受ケ、「大艦隊長」ト稱セラレタリ。其ノ翌年ハ、死セリ。

セバスチアン、カボット

セバスチアン、カボットハ、一千四百七十七年我カ文則九年丁酉（足利八代將軍義政ノ時）アリストルニ生ル。夙ニ算術、幾何學、世界現狀論ヲ父ニ學ヒ、頗ル得ル所アリ。未ダ弱冠ナラザルニ、厭々父ニ從テ航海セリ。一千四百九十七年父ト共ニニウフアウンドランドヲ發見シ、ラブラドル、及びフロリダノ地ヲ探檢シ、其ノ後又屢々北米ニ到レルト本文既ニ記スルガ如シ。一千五百十二年我カ永正九年壬申（足利十二代將軍義植ノ時）西班牙王フェルナンド（Ferdinand）有名ナルフェルニ仕ヘ、同十五年我カ永正十二年乙亥（同上）西北ノ航路ヨリ亞細亞ニ到ラント企テシガ、王ノ崩御ニ會シテ果サズ。王ノ崩御ハ同十七年我カ永正十四年丁丑（同上）英王ヘンリー八世（Henry VIII）ノ爲メニ、三百人ヲ率ヒテ、ラブラドルニ到ル。左レド時正ニ初發ナルニモ拘ハラズ、氣候極甚寒ク、土地亦瘠セテ人

民ヲ移住セシムルニ足ラズ。止ムヲ得ズシテ、遠ク北カロライナニ至ルマテノ地方ヲ發見シ、之ヲ英國ノ有ト爲シテ、再ビ三百人ヲ率ヒテ歸レリ。尋テ復々西班牙ニ仕ヘテ、伯四、及びブラブラタ沿海ノ地ヲ探檢シ、同四十八年我カ天文十七年戊申（足利十四代將軍義輝ノ時）ニ至ルマテ、西班牙ノ按針手長タリ。同年英國ニ歸リテ、彌里プリストルニ住ス。攝政ソマーセット公（Duke of Somerset）ニテ英王エドワード六世（Edward VI）ニ薦ム。英王召シ見テ之ヲ喜ビ、之ニ英國按針手長ノ任ヲ囑シ、年金百六十六磅十三志四片ヲ賜フ。是ニ於テ、新ニ「イリヤント、アドヴェンチュラス」商業ヲ冒險會ト名クル會ヲ興シテミツカラ其ノ牛耳ヲ執リ、同五十二年（我カ天文二十一年壬子）（ルンペン、コムバニー）時）北方ニ航シテ、始メテ露國ト貿易ヲ開キ、露國社ナルモノヲ設立セリ。セバスチアン始メテ磁針ノ變化ヲ發見シ、世ヲ著ハス。磁針ノ變化トハ地方ニ由リテ同五十七年（我カ弘治三年丁巳）（桶狭間合戦ノ三年前）没セリ。
（以上カボット父子ノ小傳ハ、マットン著『合衆國史』、トマス、ホー、ケーン著『米國革命史』、マーン著『合衆國史』ニ據ル。）

航海家フロビシヤ

其ノ後、英國ノ航海家フロビシヤ（Frobisher）ナルモノ、カボットノ計畫ヲ追フテ、亞米利加ノ北方ヨリ亞細亞ニ到ラント欲シ、氷山ノ間ノ艱路ヲ航スルヲ數月。一千五百七十六年我カ天正四年丙子（長祿合戦ノ翌年）ヲ以テ、バフヰン灣ニ入

航海家ツレ

サー、ハムフ
リー、ギルバ
ート始メテ殖
民ヲ企ツ

ラレー亦殖民
ヲ企ツ

グ
ア
ー
ジ
ニア

リ、茲ニ石柱ヲ建テ、英王ノ所領ト爲ス旨ヲ宣言セリ。有名ナルサー、フ
 ンシス、ヅレ一キ (Sir Francis Drake) 英國ノ航海家、マゼラン海峡 南亞米利加ノ極南ニ在リ ヨリ太平
 洋沿岸ヲ經テ、オレゴンノ南部ニ航セシコトアリ。サー、ハムフリー、ギル
 バート (Sir Humphrey Gilbert) ニ至リテ、始テ殖民ヲ企テタリ。然レドモ不幸
 ニシテ風波ノ爲メニ妨ゲラレ、事成ラズシテ沈没セリ。實ニ一千五百八
 十四年 我カ天正十二年甲申ナリ。其ノ異父弟サー、ウチナルター、ラレー (Sir Walter
 Raleigh) 亦殖民ノ計畫ヲ運ラシ。二艘ノ船ヲ率ヰテ、北カロライナノ海岸
 ニ着シ、千里ノ沃野ニ到リテ、歸リテ之ヲエリザベス女皇ニ奏ス。女皇大
 ニ喜ビ、此ノ地ヲ名ケテヴァージニアト云フ。ヴァージニアトハ處女州
 ノ義ナリ。エリザベス常ニミヅカラ「ヴァージン處女々皇」ト稱シタルヲ以テ、我が名
 ニ因ミテ此ノ名稱ヲ附シタルナリ。管ニ然ルノミナラズ、ラレーハ、女皇
 ノ寵臣タルノ故ヲ以テ、女皇彼レニ同地殖民ノ特權ヲ與ヘケレバ、彼レ
 益々奮テ數多ノ移住民ヲローノ島ノ沃野ニ送レリ。然ルニ、移住民

ラレー、第二
回ノ殖民ヲ企
ツ

英兒始メテ米
洲ニ生ル

ハ地ヲ耕スヲ勉メズ、只黄金眞珠ノ類ノ採拾ノミヲ勉メケレバ、終ニ
 飢餓ニ迫リテ、如何トモスルヲ能ハズ。偶々ヅレーキ同地ヲ過リテ之ヲ
 憫ミ、船ニ載セテ、本國ニ送り還セリ。
 然レドモラレーハ、此ノ失敗ノ爲メニ毫モ挫折セラレズ。以爲ラシ、事ノ
 成ラザル所以ノモトハ、畢竟男子ノミヲ移住セシメタルニ由リテナリ」
 ト。依テ更ニ第二回ノ殖民ヲ企テ、家族携帶ノ移住民ヲ復タローノ島
 島ニ送りテ、茲ニ「ラレー市」ヲ建設シ、ジョン、ホワイト (John White) 其ノ
 知事ニ命セリ。幾モナクシテ、ホワイトノ孫生ル。是レ英兒ガ亞米利加ニ
 生マレタル濫觴ナリ。其ノ後、知事ハ供給ヲ得ント欲シテ本國ニ歸リケ
 ルニ、會々英西兩國干戈ヲ交ユルノ秋ニシテ、迅速ニ事ヲ辨シ難シ。止ム
 事得ズシテ、本國ニ留リ、三年ヲ經テ殖民地ニ歸リシニ、如何ナシタリケ
 ン、白人悉ク踪跡ヲ失ヒテ、一人ノ殘存スルナシ。願フニ土人ノ爲メニ
 殺害セラレシカ、若クハ引致セラレシナラン。ラレー既ニ此ノ計畫ノ爲

メニ二十萬磅當時ニ在リテハノ非常ノ大金ナリ金ヲ費シ、而カモ遂グル所ナカリシカバ、失望落膽シテ、殖民特許ノ權ヲ他人ニ讓レリ。時ニ一千五百八十九年我カ天正十七年己丑(小田原滅ナリ。)

サー、ウチナルター、ラレーハ、
タ、タ、タ、タ、
ノ小傳

サー、ウチナルター、ラレーハ、一千五百五十二年我カ天文二十一年壬子(足利十四代將軍義輝ノ時)英國アヅチンシヤ州ヘリスニ生ル。夙ニ初等教育ヲ父ニ受ケ、同六十八年我カ永祿十一年戊辰(足利義昭、オツクスフチードナルカリエル十五代將軍ノ職ニ就キタル年)大學ニ入りテ、哲學ニ、辯論學ニ、辯然頭角ヲ見ハセリ。然レドモ冒險ノ念切ナルヲ以テ、久シク留マルヲ能ハズ。十七歳ノ時、紳士ピントルメン、ウチレンチアス義勇軍ニ入りテ、歐洲大陸ニ赴キ、佛國ノ基督新教徒ノ爲メニ戰フ。五年有餘。歸國ノ後、ノリス將軍(General Norris)ニ和蘭征討ニ從テ、オレンジ公(Prince of Orange)ニ應援シ、同七十六年我カ天正四年丙子異父兄サー、ハムフリー、ギルバートニ米洲行ニ從フ。同七十九年我カ天正七年己卯(謙信卒去ノ翌)英國ニ歸リ、翌年愛蘭ノ叛徒鎮撫ノ軍ニ從テ功アリ。歸國ノ後、エリザベス女皇ノ寵幸ヲ得タリ。ラレー此ノ時、年尙壯。愛蘭總裁ノ推薦ニ由リテ宮廷ニ仕フ。一日、女皇市街ヲ逍遙セラルルニ際シ、途次偶々泥濘ノ場處ニ出テラレシカバ、暫ク行歩ヲ止メテ躊躇ハレシガ、折節彼ノ恰例ナルラレーハ、遙カニ此ノ休ヲ見ルヨリ、馳セ近ヨリテ、華麗ナル外套ヲ脱ギテ、泥土ノ上ニ布キ、女皇ヲシテ其ノ上ヲ通行セシメケルニシ、女皇歎息斜ナラズ。是レヨリラレーハ、俄カニ寵遇ヲ得テ、頃刻ノ間ニ立身出世シ

クリトツ。(羽化生著)『西洋文學者一口話』

爾來亞米利加殖民ニ從事シタル事ハ、本文既ニ記スガ如シ。時ニラレーハ、勳爵士ニ叙セラレ、近衛都督、式部長官、コーンウチナル中將ニ任シ、英國酒商ヲ許否スルノ特權ヲ受ケ。一千五百八十八年我カ天正十四年己未牙ノ大軍艦「インゲルンシール」號ヲ擊破スルヤ、ラレー與カリテ功アリ。女皇特ニ恩賞ヲ賜フ。同九十一年我カ天正十九年辛卯又西班牙ト海戰ス。然レドモ功ナシ。其ノ頃、ラレー、女皇ノ一女官ト懇懇ヲ通シ、送ニ之ヲ娶リタルヲ以テ、頗ル逆鱗ニ觸レタリ。同九十五年我カ文祿二年己未加ノ一國西部亞非利ニ航シ、ツリニバツドノ一島西印度ノ首府ヲ陷レ、翌年我カ慶長元年丙申西班牙征討ニ際シ、カナズノ府西班牙攻畧ニ武功ヲ顯ハシ、榮譽ヲ一身ニ荷ヒ、コーンウチナルナルセント、シアメーンニ封セララル。エッセツクス伯(Earl of Essex)女皇ノ寵臣ニシテ將軍ナリ。後年ノ滅アルヤ、ラレー亦與カリテ力アリ。而シテ女皇ノ崩御ニ至ルマテ其ノ寵遇ヲ全フシタリシガ、崩後ラレー廢立ヲ謀レト詔ユル者アリ。ツエームス一世ヲ捕ヘテ其ノ位ヲ廢シ、ヘンリー七世ノ曾孫ヲヤールス、スチエアートノ女アンベラチ王位ニ即カシメント謀レト詔ヒタルナリ。是ニ於テ忽チ官職ヲ削ガレ、獄裏ニ幽囚セラ

著ハメ所『萬國史』(History of the World)アリ。文章流麗、詩趣アルヲ以テ稱セラル。要スルニ、ラレーハ

爲リシカバ、ツエームス王ハ、其怒ヲ解カンガ爲メニ、ラレーヲ獄ニ下シ、舊惡ヲ名トシテ斬ニ處セリ。時ニ一千六百十八年我カ元和四年戊午

民ハ多ク生來ノ紳士ニシテ、嘗テ人生ノ辛酸ヲ嘗メタルコトナク、四肢ノ
 勞動ニ慣レズ。單ニ冒險致富ノ爲メニ、同地ニ到レルモノニシテ、囊中一
 タビ暖マラバ、錦衣ヲ故郷ニ歸ラントノ思考ナレバ、未ダ數月ナラザ
 ルニ、秋冷ニ逢フテ忽チ健康ヲ傷ヒ、死亡將ニ半數ニ垂ントシ、全死旦夕
 ニ迫レリ。人々失望シテ爲サン所ヲ知ラズ。只天ヲ仰テ嘆息スルノミ。偶
 々甲比丹スミス(Captain Smith)ノ來レルアリ、殖民ヲシテ九死ヲ出テ、
 一生ヲ得セシメタリ。

甲比丹スミス

スミス、名ハジョン(John)。一千五百七十九年^{我カ天正}七月己卯生ル。少時英國リンドンシヤ州ノ郷里ヲ出テ、
 蘭人自由ノ戰ヲ援ケ、四年ノ間力ヲ盡シタルノ後、深林ニ入りテ、小亭ヲ營ミ、茲ニ狩獵乘馬ヲ事トシ、兵
 法ヲ鍛練セリ。既ニシテ佛國ニ到ントス。途ニ土耳其人ト匈牙利ニ接戦シ、又草賊ノ爲メニ路銀ヲ奪ハレ、
 乞兒ト爲リテ餓死ヲ免カル、コトヲ得タリ。舟行、伊太利ニ赴カントシケルニ、颶風俄ニ起リテ、將ニ覆没
 ノ禍ニ罹ラントス。舟中ノ人、スミスガ「異教徒」^{天主教徒ヨリ言フナリ。スナルヲ以テ颶風ノ原因ト爲シ、}
 之ヲ海ニ投ス。スミス殆ント溺死セントセシカド、一岩島ニ泳ギ着キタルヲ以テ、辛フシテ生命ヲ全フス
 ルコトヲ得タリ。カックケンボス著「合衆國史」ニハ、スミス、舟中ニテ、數名ノ乘客ニ粗暴ノ舉動、其ノ後土耳其
 ナ爲シ、彼等ノ爲メニ海中ニ投セラレタリトアリ。孰レカ眞ナルヲ知ラズ。

スミス、殖民
地ヲ安泰ナラ
シム

ニ到リシニ、回教徒ガ婦人連ヲ害セント欲シテ、基督教國ノ武士ト闘ハント望ムニ會ス。スミスミツカラ戰
 士ト爲リテ、順次ニ三名ノ回教徒ヲ殺セシカバ、捕ヘラレテ奴隷ニ賣ラレタリ。此時、其頭ハ刺ラレ、其頸ニ
 ハ鉄環ヲ嵌セラレシガ、久シカラズシテ、其主人ヲ殺シ、死人ノ裝ヲ爲シ、馬ニ鞭チテ露國ノ陣營ニ投セリ。
 スミス英國ニ歸リテ後、參事會員ノ一人トシテ、米洲殖民地ニ到ル。即チ本文記ス所ノ殖民ガ危念存亡ノ
 秋ナリキ。是レヨリ以後ノ事ハ、下文ニ述ベシ。スミスハ、一千六百三十一年^{我カ寛永}八月辛未ニ死セリ。彼レハ
 サリ、ウナルター、ラレント共ニ米洲英領殖民地重ナル建設者ノ一人タリシナリ。
 スミス先ツ殖民ニ勸メテ、一堡ヲ築キ、以テ敵ヲ防ガシメ、又數箇ノ小舎
 ヲ建テ、以テ冬ニ備ヘ、懦夫ハ、驅リテ勞働ニ就カシメ、且ツ之ニ伐木ヲ
 教ヘ、佞人ハ其望ニ任カセテ本國ニ歸ヘシ、チエサビーノ灣ヲ探檢シテ
 土人ト和親ヲ結び、數多ノ供給ヲ得、土人ノ我レニ敵スルモノハ、之ヲ征
 服シテ以テ殖民地ヲ安泰ナラシメタリ。

スミス、土人
ノ爲メニ颶風
ヲ豫メニ避セ
ル

スミス、探檢ノ旅行中、偶々土人ノ爲メニ颶撃セラレ、擒ニセラレタルコトアリ。泰然トシテ懷中ナル磁石ノ用
 ナ説キ、日月星辰運行ノ理ヲ明ニセシカバ、土人舌ヲ捲キテ其ノ智ヲ驚嘆セリ。スミス更ニ一層土人ヲ驚カ
 シメント欲シ、彼等ニ向テ言ヘラク。明日必ラズ某處ニ某物品ヲ發見スベシト。而シテ殖民地ヘ書翰ヲ

酋長ノ女ホカ
ホンダス

送りテ、其ノ處ニ其ノ物品ヲ置カシム。土人果シテスミスノ言フガ如クニ、之ヲ發見シケルニゾ、益々驚
キテ、スミスヲ鬼神ト爲シ、之ヲ尊崇スルコト一ト方ナラス。甲ノ種族ヨリ、乙ノ種族ニ伴ヒ、乙ヨリ丙、
丙ヨリ丁ト、次第ニ彼レヲ送りテ、終ニ酋長ホーハタン(Powhatan)ノ許ニ到リシガ、ホーハタン之ニ死刑
ヲ命シケル。舊記ノ傳フル所ニ據ルニ、當時刑吏ハ、スミスヲ石ニ枕セシメ、一撃ノ下ニ之ガ生命ヲ奪ハント
シタリシガ、會々酋長ノ末女ホカホンダス(Pocahontas)奔リ出テ、身ヲ以テスミスヲ覆ヒ、泣テ其ノ助命ヲ
乞ヒケルニゾ、土人ノ之ガ爲メニ感動セラレテ、スミスヲ許シ、交趾ヲ約シテ、シエームスタウンニ送り遣セ
シト云フ。ホカホンダス成長ノ後、英國ノ殖民シヨン、ロルフ(John Rolfe)ナルモノニ嫁シテ一子ヲ産ケ、
其人ト共ニ一タビ倫敦ニ赴キシガ、病ニ罹リテ死セリ。

(二)マサチユセツツ州。ニウハムシア州。

ロードアイラント州

新英蘭

マサチユセツツ州。スミス又探檢ノ途次、今ノ所謂メイン州、マサチユ

セツツ州ノ海岸ニ到リ、其ノ北方一圓ノ地ニ新英蘭ノ名ヲ與フ。

清教徒ノ移住

一千六百二十年我カ元和六年庚申ノ秋、無慮一百名ノ清教徒英國ヨリ『メイフラワ』

プリマウス殖
民地

號ト名クル一小船ニ搭シ、來リテ茲ニ永久ノ移住ヲ爲ス。是レ同地ニ於
ケル永久殖民ノ濫觴ナリ。ソモ此ノ清教徒ハ既ニ小引ニ述ベタルカ如
ク、信教ノ自由ヲ得ンガ爲メニ、英王シエームス一世(James I)ノ壓制ヲ避
ケテ、先ツ和蘭ニ逃レ、和蘭ヨリ更ニ米洲ニ移住シタルモノニシテ、初メ
ハドソン河畔ニ居ヲ定メント思考セシガ、暴風ノ爲メニ妨ゲラレテ、豫
期ノ如キヲ能ハズ。終ニコツド岬マサチユセツツニ在リニ着セリ。是ニ於テ、十二月二十
一日ヲ以テ上陸シ、茲ニ移住ノ地ヲトシテ之ヲプリマウスト名ク。プリ
マウスハ、マサチユセツツ州ノ東海岸ニ在ルナリ。

此ノ殖民ハ凡
テ英國ノ中等
社會ニ屬ス

トツクザギール(De Tocqueville) 佛國ノ政
治記者曰ク。此ノ殖民徒ハ凡テ英國ノ中等
社會ニ屬セリ。故ニ其ノ米洲ニ至リテ、相團結スルヤ、華族ヲモ有タズ、平
民ヲモ有タズ、將々富者ヲモ有タズ、貧民ヲモ有タザル一種特別ノ社會
ヲ現出シ、而シテ人員ノ比例以外ニ、多量ノ才智ヲ有セリ。蓋シ此ノ清教

徒ハ、一人トシテ、相應ノ教育ヲ受ケザルモノナク、多クハ才能智識ヲ、以テ歐洲ニ知ラレタルモノナリ。(トツクヱギール著「米國平民政治」Democracy in America)

古來未曾有ノ政体

夫レ既ニ同等人士ノ一團體タリ。是ヲ以テ何人モ之ガ元首タルコト能ハズ、且ツ何人ヲモ元首ニ戴クコト好マズシテ、遂ニ古來未曾有ノ政体ヲ生セリ。抑モ西曆紀元ノ前後ヨリ、志士往々純平タル平民政治ヲ組織セント望マザルコアラズ。然レドモ徒ニ空想ニ止マリテ之ヲ實際ニ行フコト能ハズ、又行ヒ得ベクモアラザリキ。何トナレバ、社會ハ常ニ少數ノ賢者ト、多數ノ愚者トヨリ成ルガ故ニ、甲ハオノヅカラ乙ヲ支配シテ、國家ノ權柄ヲ握リ、財政ヲ掌ルベケレバナリ。斯ル場合ニ在リテ、甲若シ爲政ノ任ヲ固辭シタラシムハ、乙ハ無識ニシテ之ヲ負擔シ能ハザルヲ以テ、社會ハ忽チ無政府ノ悲境ニ陥ラン。歐羅巴、亞細亞ニ於テ、純平タル平民政治ヲ組織シ能ハザルハ、辭ヲ換ヘテ言ヘバ、多數ノ愚者ヲシテ少數

ノ賢者ヲ支配セシムルノ政体ヲ組織シ能ハザルハ、畢竟此ノ理由アルヲ以テナリ。

十七世紀(即チ清教徒移住ノ際)ニ當リテ、若シ英國人民ノ多數ガ清教徒ノ才量ヲ有シタランニハ、清教徒ハ、自國ニ於テ多數政治ヲ組織スベキガ故ニ、敢テ米洲ニ移住スルノ必要ハナカリシナラン。然ルニ實際ニ於テ、多數ハ清教徒ノ如キコト能ハズ。隨テ多數政治ヲ組織シ能ハザルヲ以テ、清教徒ノ遺憾言フベカラズ。是ニ於テ亞米利加ノ荒野ニ移住シ、牛角ノ人々ノミヨリ成リタル團體ヲ作リテ以テ目的ヲ達スルコトヲ得タリ。

又英國ニ殘レル清教徒モ、此希望ヲ本國ニ達スルコトニ汲々トシ、一時(一千六百四十年^{我カ寛永十}乃至六十年^{我カ萬治})ハ之ヲ遂ゲ得タリト雖モ、^{英國革命}多數ノ愚者、固ヨリ少數ノ智者ヲ支配シ能ハザルヲ以テ、終ニ再ヒ舊時ノ政体ニ復セリ。

清教徒給メテ
ブルマウスニ
理想ノ政體ヲ
設立ス

十三州

サテプリマウスニ移住シタル清教徒ハ、婦人小兒ヲ合セテ一百一名。其ノ中四十一名ハ、丁年以上ノ男子ナリシカバ、此ノ四十一名相會シ多數ノ投票ニ由リテ、一名ノ知事ト、七名ノ屬官トヲ定メ、而シテ之ニ行政事務ヲ委テリ。又立法事務ハ、已レ等ミヅカラ之ニ任スルコト爲セシニ、當初ハ、人員僅少ナルヲ以テ、皆一同ニ其ノ任ニ當ルコトヲ得タリシガ、未ダ久シカラザルニ、人口忽チ増加シテ、一同相會スルコトヲ得ザリシカバ、又多數ノ投票ニ由リテ代議士ヲ選ビ、之ニ立法事務ヲ委テタリ。是レ則チプリマウスニ於ケル代議政治ノ起原ナリ。

マサチューセツ
ン灣殖民

一千六百二十八年我カ寛永五年戊辰ジョン・エンヂコット(John Endicott)ナルモノ、五人ノ夥伴ト共ニマサチューセツ灣近傍ノ地ヲ得、家族及ヒ其ノ他ノ人々凡ソ一百名ヲ率キテ、英國ヨリ纜ヲ解キ、サレムニ上陸シテ、茲ニマサチューセツ灣殖民ヲ組織ス。時ニ本國ニハ、チャールズ一世(Charles I)君

波士敦

アウ、ハムシ
ア州

臨シテ、亦信教ノ自由ヲ妨ケ、苛政多カリシカバ、清教徒ノ如キハ、争フテ移住セリ。

此ノ殖民地ノ人口漸ク増加スルニ從ヒ、他ノ殖民地ト有無相通シテ益々繁盛ヲ加ヘ、同三十年我カ寛永七年庚午波士敦ヲ建設セリ。波士敦ハ現ニ今合衆國第三ノ大都會ナリ。

ニウ、ハムシア州 清教徒ガ上陸後二年(一千六百二十二年我カ元和八年壬戌)サー・フェルデナンド・ゴーゼズ(Sir Ferdinand Gorges)及ビジョン・メーソン(John Mason)ナルモノ、メリマツク、ケチベツク兩河ノ間ニ位セル廣キ壤地ヲ新英蘭參事會ヨリ得テ、茲ニポーツマウス近傍ノ地ト、ダヴァートニ二三ノ漁業場ヲ設ケシガ、幾モナクシテ此ノ特許ヲ失ヒケレバ、メーソン更ニピスカタクア郡ノ西方ニ當レル地ヲ取リテ、之レヲニウ、ハムシアト名ケ、ゴーゼズ、東方ニ當レル地ヲ取リテ、之ヲメイソント名ク。然レドモ、

マサチユセツツ州ハ、メインチ分離セシムルチ欲セズ、ゴーゼズノ子孫ニ凡ソ六千弗ノ金チ與ヘテ、之チ州内ノ地ト爲セリ。故ニ一千八百二十年我カ文政三年庚辰（即チ合衆國第五世大統領ジエームス、モンロー [James Monroe] ノ時）ニ至ルマデ一州タラザリキ。

清教徒亦信教ノ自由ヲ禁ス

ロウシー、ウ
非リアムス

ロイド、アイランド州 抑モマサチユセツツ灣サレムノ人民ハ、信教ノ自由ヲ得ント欲シ、清教會ヲ建設センガ爲メニ米洲ニ來リタルモノナリ。然レドモ既ニ信教ノ自由チ得ルヤ、其ノ地ノ人悉ク我カ同宗徒ヲラシメシメテ欲スルガ故ニ、天主教徒若クハクエーカー宗徒ノ如キハ、悉ク之チ本國ニ送り還ヘシ、只清教會員ノミチ許シテ、留マリテ公務ニ與カラシメタリ。時ニロウヤ、ウ非リアムス (Roger Williams) ト名クル信心ニシテ、雄辯ナル年少宣教師アリ。ロウヤ、ウ非リアムスハ、一五九九年、我カ慶應四年己亥、英國州プロヴデンスニ死ス。熱心ナル清教ノ宣教師ナリ。 常ニ信教ノ自由チ説キ、社會ガ之ニ干渉スルノ非理

ナルチ論セリ。清教徒ハ、彼レチ以テ殖民地ノ治安チ妨碍スルモノト爲シ一千六百三十六年我カ寛永十三年丙子之ニ歸國チ命ス。時正ニ嚴冬。然レドモ、ウ非リアムスハ、氷雪チ冒カシテ、サレムヨリ荒野ニ逃レ、櫛風沐雨、飢寒チ凌グ。凡ソ三箇月ノ後、或ル土人ノ小舎ニ達スルヲ得タリ。土人意外ニ彼レチ歡待シ、ナラガンセツト灣ノ上ニ住スル酋長カノニコラス (Canonius) ナルモノ、彼レニ地チ與ヘテ、殖民ノ場處ニ充テシメシカバ、彼レ大ニ喜ビテ以爲ラシ。是レ必ラズ天恩ナリト。依リテ其ノ地チ名ケテ、プロヴデンスト云フ。プロヴデンストハ、天命ノ義ナリ。ウ非リアムス、是ニ於テ始メテ素志チ貫徹シ、凡ソ此ノ地ニ移住スル者ハ、眞ニ信教ノ自由チ得ベカラシメ、社會チシテ毫モ之ニ干渉スルノ權ナカラシメタリ。此ノ地漸ク發達シテ、ロイド、アイランド州トハ爲レルナリ。而シテプロヴデンスハ、今猶同州ノ首府タリ。

(三) エンチクナカツト州

英人、ウヰンザ
ニ殖民ス

コンチクナカツトハ、モト土語ニシテ、長河ノ義ナリ。州内、コンチクナカツト河ト呼ベル長河アルヲ以テ、此ノ名アルナリ。

一千六百三十三年 我カ寛永十年癸酉 即チ清教徒ガ米洲ニ殖民シテヨリ、凡ソ十一年ノ後、セー卿 (Lord Say) ブルツク卿 (Lord Brooke) ナド呼ベル人々、コンチクナカツトノ海産物ニ富メルヲ聞キ、ウチーウヰツク伯 (Earl Warwick) ヨリ讓ヲ受ケ、ウチーウヰツク伯ハ、新英蘭參事會ヨリ此ノ地ヲ得タルナリ。 甲比丹ウヰリアム、ホームズ (Captain William Holmes) ニ移住民ヲ属シテ、プリマウスヨリ、同地ニ送レリ。是レヨリ先キ、蘭人既ニ本州ノ一部ヲ得テ、ハートフナードニ一堡ヲ築キ、土人ト貿易ヲ開キシガ、今ヤ一小船ガ河上ニ溯リ來ルヲ見テ大ニ驚キ、此ノ樂土ヲ特有シ能ハザランヲ恐レ、砲口ヲ向ケツ、脅迫スラク「速ニ去レ、否ラズンバ一發ノ下ニ盛殺セン」ト。英人毫モ恐レズシテ堡前ヲ通航シ、今ノウヰンザイヨリ數哩ヲ距リタル處ニ移住セリ。英人ガコンチク

セーブルツク

ナカツト州ニ殖民シタルハ之ヲ權輿ト爲ス。

同三十五年 我カ寛永十二年乙亥 シヨ、ステール (John Steele) ナルモノ、ケムブリツヂチユセツ ヲ州ノ府 ヨリ、男女兒童合セテ六十人ヲ率テ來リテ、ハートフナードヲ建設シ、翌年「西 教 會」ノ「光」ト呼バレタルトマス、フリーカー上人 (Rev. Thomas Hooker) 信徒凡ソ一百名ヲ率テ來リテ、其ノ一部ハ、ハートフナードニ住シ、又一部ハ、スプリングフフィールドヲ建テ、他ノ一部ハ、ウエザースフフィールドニ住セリ。其ノ頃シヨ、ウヰンズロップ (John Winthrop) ト呼ベル少年 此ノ人ハ、殖民地ノ事務ヲ司ルガ爲メニ、セー卿、コンチクナカツト河口ニ一堡ヲ築キテ蘭人ヲ防ギ、セーブルツクヲ建設セリ。

(是レヨリ殖民ト、ピクナツド種族トノ間ニ戰爭アリ。所謂ピクナツド戰是レナリ。左レド今略ス。)

同三十八年 我カ寛永十五年戊寅 倫敦ヨリ、富裕ナル清教徒來リテコウ、ハヴン殖民地ヲ建設シ、法律トシテ聖書ヲ用ユ。

新英蘭同盟殖
民地

爾來新英蘭ノ殖民地ハ、日チ逐フテ繁盛ヲ加ヘ、同四十三年 我カ寛永二十年癸未 ニ

其ノ規約

於テハ、五十箇村以上ヲ有ツニ至レリ。然ルニ土人、蘭人、佛人ガ侵襲ノ憂
 少ナカラザリシカバ、殖民地相互ニ同盟シテ之ニ當ルヲ得策ト爲シ、
 リマウス、マサチユセツツ灣、コンチクチカツト、ニウ、ハヴンノ四殖民地
 相聯合シテ「新英蘭同盟殖民地」ナルモノヲ組織セリ。此ノ同盟凡ソ四十
 年ノ間連續シ、頗ル便益アリキ。

- (一) 内治ハ、各殖民地ノ自主ニ任カスベキ事
- (二) 戦争ノ起リタル場合ニハ、各殖民地ヨリ、人口ニ應シテ援兵ヲ出ス
ベキ事

(三) 同盟全體ノ事務ハ、一箇ノ議會ヲシテ之ヲ辦理セシムベシ。且ツ此
 ノ議會ハ、各殖民地ヨリ二名ノ委員ヲ出シテ、之ヲ組織セシムベキ
 事

北米合衆國ノ

此ノ同盟コソ眞ニ北米合衆國ノ萌芽ト謂フベク、爾來百三十三年ノ後、

萌芽

獨立ノ義旗ヲ擧ケタル彼ノ十三州同盟ハ、畢竟此ノ同盟ニ基ケルモノ
 ナリ。

此ノ清教殖民地ハ、純平タル平民政治ヲ建設シ、殆ント全ク主權ヲ有
 チ、知事ト兩議院トヲシテ之ヲ分有セシメタリ。今若シ共和政治トハ、
 多數政治ノ義ナリト爲スキハ、此ノ殖民地ハ、始メテ共和政治ヲ實際
 ニ行ヒ得タルモノト謂ハザルベカラズ。何トナレバ、希臘、羅馬及ヒ中
 古ノ所謂共和政治ハ、皆少數政治ナレバナリ。

(四) 新約克州。ニウ、ジヤ―セー州

新和蘭

新約克州 初メ英國ノ航海者ヘンリー、ハドソン (Henry Hudson) ガ、ハド
 ソン河ヲ發見シテヨリ、ハドソン河ノ發見ハ、一六〇九年、我カ慶長十四年己酉ニ在リ。和蘭ノ
 爲メニ、之ヲ發見シタルナリ。時ニ、ハドソン、今ノ新約克ニ入レリ。
 蘭人、デラウエア河乃至コツド岬ノ地ヲ領シテ、之ニ「新和蘭」ノ名ヲ與ヘ、
 且土人ト貿易ヲ開キ、數箇ノ堡壘ヲ築キテ以テ防衛ニ充ツ。而シテ其ノ

米國獨前記立

新安特堤

マンハッタン島ニ築キタルモノ、周圍ニハ、少許ノ小舎ヲ設ケテ之ニ居留ス。此ノ殖民地ヲ名ケテ新安特堤ト云フ。今ノ新約克市ハ此ノ新安特堤ノ發達シタルモノナリ。

(マンハッタン島ノ築造ハ、一千六百十四年九月甲寅^{我カ慶長十ニ在リ}ニ在リ。)

英軍、新州蘭ヲ攻略ス

一千六百六十四年^{我カ寛文四年甲辰}英王チャールズ二世(Charles II)皇弟ヨーク公

(Duke of York) 後ニ英王ジェームズ二世ニ新和蘭ノ全地ヲ賜フ。是レ其ノ副領タルヲ知

リツ、之ヲ賜ヒタルモノナリ。是ニ於テ、英政府ハ、ニコルス大佐(Colonel

Nichols)ニ命シ、軍艦四艘、精兵四百五十人ヲ率ヰテ出發セシメ、同時ニ又

新英蘭ニ委員ヲ送リテ、殖民地ヨリ援兵ヲ出サシム。マサチユセツツノ

殖民ハ之ヲ拒絶シタリ。然レドモ、コンチクナカツトノ殖民ハ、蘭人ト宿

怨アルガ故ニ、容易ク之ヲ承諾シ、援兵ヲ出セリ。同年八月英國艦隊ハ、新

安特堤港ニ進入シ、敵ノ動靜ヲ窺フニ、守備甚怠レルガ如シ。依リテ、書ヲ

送リテ降ヲ勸ム。新和蘭ノ知事スタブザント(Stuyvesant)ハ、剛毅ノ人ナ

新約克州、并新約克市

レハ、來書ヲ寸斷シテ其ノ無禮ヲ罵リ、死ヲ致シテ固守セントス。然レドモ蘭民固ヨリ英國ノ管下ニ屬セント願フガ故ニ、一人モ知事ノ命ニ應シ、拒戦セント望ム者ナク、全領遂ニ英軍ニ降レリ。是ニ於テ、其ノ領主タルヨーク公ノ名ニ因ミ、新安特堤、并ニ新和蘭全殖民地共ニ之ヲ新約克ト改稱セリ。今ノ新約克州、并ニ新約克市是レナリ。

英國ガ新約克ヲ奪ヒタル理由

抑モ英國ガ新約克ヲ掌握シタル所以ヲ考察スルニ、三箇ノ理由アルガ如シ。當時和蘭ガ海上及ヒ商業上ノ大敵タルヲハ、恰カモ其ノ前世紀ニ、西班牙ガ是レ等ノ大敵タルニ同シ。故ニ英國タルモノハ、鶴ノ目鷹ノ目以テ間隙ト口實トヲ求メ、苟クモ之レアルハ、直ニ之ニ乘シ、口實ヲ設ケテ以テ彼ノ國ノ權力ヲ剝ギ、利益ヲ奪ハントス。是レ其ノ一ナリ。新約克ガ他國ノ版圖タル間ハ、英國ハ南北殖民地ヲ聯合統一スルヲ能ハズ。是レ其ノ二ナリ。新約克港ハ、海岸第一ノ良港ニシテ、ハドソン河ハ、毛皮貿易第一ノ大路ナリ。是レ其ノ三ナリ。英國ハ、此ノ三

理由アルガ故ニ、蘭人ヨリモ早ク此ノ地ヲ發見シタリト云フナ辭柄トシテ、之ヲ奪取シタルナリ。史家ドイル(Doyle)曰ク「英政府若シ米洲ノ殖民地ガ他日相聯合シテ本國ニ抗スルヲ前知シタランニハ、寧ロ新約克ヲ依然蘭領ノマヽニ放棄シテ、彼レ等ノ聯合ヲ防ギシナラン。然ルニ、之ヲ前知セザリシヲ以テ、只新約克ノ爲メニ、我カ貿易ヲ妨碍セラレシヲ恐レ、遂ニ之ヲ奪ヒシナリ」ト。夫レ或ハ然ラン。然レドモ米國ノ革命豈必ラスシモ地理ノ如何ニ關センヤ。ドイルノ此ノ論ノ如キ、蓋シ是ニ似テ非ナリ。

ニウ、ジャージー州 ニウ、ジャージー州ハ、モト新和蘭ノ一部ナリ。夙ニ一千六百十八年我カ元和四年戊午ベルゲンニ互市場ヲ設ケタリト云フ。ヨーク公ガ新和蘭ヲ領スルニ及ビテ、ハドソン、デラウエア兩河間ノ地ヲバークリー卿(Lord Berkeley) 英國有名ナル船隊長及ヒ、サー、ジョージ、カーテレット(Sir George Car-

ニウ、ジャージー州

熱心ナル王黨ニシテ、チャールズ二世ノ爲メニ盡シタリ。ニ與フ。是レ則チ今ノニウ、ジャージー州ナリ。而シテ其ノニウ、ジャージー州ト名スル所以ハ、カーテレット曾テ英吉利海峡ナルジャージー島ノ知事タリシニ由リテナリ。

(五) マリーランド州、デラウエア州、ペンシルヴァニア州

附ウヰリアム、ペンノ傳

メリーランド州 英王ジョージ一世、其ノ子チャールズ一世ノ御宇ニ、天主教徒ヲ虐待シ、酷刑ニ處セラル、モノ少ナカラズ。時ニバルチモリア卿ジョージ、カルヴァート(George Calvert, Lord Baltimore)ナルモノアリ。深ク其ノ不幸ヲ憫ミテ之ガ救済ノ法ヲ設ケント欲シ、先ツ外務大臣ノ職ヲ辞シテ、天主教ニ入り、是レ迄ハ基督新教徒タリ米洲ニ行キテ、ニウファウンドランドヲ彼レ等ノ避難所タラシメントシタレドモ、氣候寒クシテ移住セシ

バルチモリア、天主教徒ノ爲メニ避難所ヲ設ケ

ムルニ適セズ。更ニヴァージニアニ到リテ、其ノ北部ノ地ヲ相スルニ、氣
候温和ニシテ、殖民ニ適セリ。依リテ歸リテ、之ヲナヤールス王ヨリ賜ハ
リ、皇后ヘンリエッタ、マリー(Henrietta Maria)(佛王ヘンリー四世ノ女ニシテ、英ノ名ニ
王ナヤールス一世ノ皇后ナリ)、
因ミテ、メリーランドト名ク。會々バルチモリア卿死セシカハ、其ノ子第
二世バルチモリア卿シーシル、カルヴァート(Cecil Calvert)父ノ遺志ヲ繼
ギ、一千六百三十四年^{我カ寛永十一年甲戌}、彼ノ地ニ天主教徒ヲ移シテ、信教ノ自由ヲ
享ケシメタリ。左レバ、メリーランド州ノ殖民ハ、ロイド、アイランド州ノ
殖民ト其ノ起因ヲ同フスルナリ。

此ノ殖民地ノ特許狀ハ、ヴァージニアト其ノ性質ヲ異ニシ、荷クモ自
由人タルモノハ、皆立法ノ權ヲ有セリ。而シテ同四十九年^{我カ慶安二年己丑}、
テ信教自由案ヲ議決シタリ。

瑞典人始メテ
デラウエア州 瑞典王ガスタヴァス、アドルフアス(Gustavus Adolphus)新世

特許狀

瑞典人始メテ
デラウエアニ

移住ス

界ニ殖民地ヲ建設シテ以テ歐洲基督新教徒ノ避難所ヲラシメント欲
シ、蘭人ピートル、ミニユイツツ(Peter Minuit)ニ囑シ、一千六百三十八年<sup>我カ寛永十
五年戊寅</sup>、ウヰルミントン附近ノ地ニ凡ソ五十人ノ瑞典人及ヒ芬蘭人^{フランドル}ヲ
移住セシメ、其ノ地ヲ名ケテ新瑞典ト云フ。是レ則チ今ノデラウエア州
ニ於ケル永久殖民ノ濫觴ナリ。是レヨリ先キ、蘭人此ノ地ヲ購ヒテ殖民
ヲ爲シタルイアリ。然レドモ土蠻ノ爲メニ殘滅セラレシガ、今ヤ瑞典人
ノ之ニ移住スルヲ見テ、自國ノ權利ヲ犯スモノト爲シ、異議ヲ唱ヘテ止
マズ。左レド十七年ノ間ハ、平和ノ歲月ヲ送りシガ同五十五年<sup>我カ明曆
元年乙未</sup>、
和蘭ノ知事スタヴザント^{第三十頁參看}斷然新瑞典ヲ擊テテ之ヲ降シ、改メテデ
ラウエアト稱ス。瑞典人其ノ苛政ヲ恐レテ、次第ニヴァージニア、又ハメ
リーランドニ移轉セリ。同六十四年^{我カ寛文四年甲辰}、英王チャールズ二世、コンチン
チカットヨリ、デラウエアニ至ル迄ノ全殖民地ヲ皇弟ヨーク公ニ賜ヒ
ケレバ^{第三十頁參看}、英軍、蘭人ヲ降シテ、遂ニデラウエアヲ英領ト爲セリ。

蘭人瑞典人ヨ
リテラウエア
ヲ奪フ

デラウエア英
國ノ有ニ歸ス

瑞典人給メテ
ペンシルヴァ
ニアニ殖民ス

英領ト爲ル

船メテペンシ
ルヴァニアト
稱フ

ウヰリアム、
ペン

ペンシルヴァニア州 瑞典人ガ新瑞典今ノデアラウエアニ殖民スルヤ、又其ノ範圍ヲ北方ニ擴ゲテ、今ノペンシルヴァニアノ一部、即チ費府ヨリ數哩ヲ距リタル地ニ殖民ス。是レペンシルヴァニア州殖民ノ濫觴ナリ。既ニシテ蘭人之ヲ瑞典人ヨリ奪ヒ、又其ノ後、英人之ヲヨーク公ノ所領トシテ蘭人ヨリ奪ヘリ。

爾來ペンシルヴァニアハ、新約克政廳ノ管轄ニ屬シテ、只デラウエアノ西部トノミ稱ヘシガ、チヤールス二世ノ時、ウヰリアム、ペン(William Penn)ニ賜ハリテヨリ、始メテペンシルヴァニアト稱フルニ至レリ。

ウヰリアム、ペンハ、一千六百四十四年我カ正保元年甲申倫敦ニ生ル。有名ナルクエーカー宗徒ナリ。父チサー、ウヰリアム、ペント云フ。英國ノ艦隊長タリ。ペン幼時クエーカー宗徒ノ眞實ナルヲ見テ頗ル感動スル所アリ。其オックスフォード大學ニ入ルヤ、嶄然トシテ頂角ヲ見ハス。然レドモ學生ノ法服ヲ着スルヲ嫌忌シ、同志相謀リテ、之ヲ着用セル者ニ迫リ、強テ之ヲ脱ガシメシカバ、其ノ科ニ依リテ、退學ヲ命セラレタリ。父

怒リテ彼レチ家ニ歸ラシメズ。既ニシテ心漸ク和ラギ、彼レニ海外漫遊ヲ命シ、以テ早晚クエーカー主義ヲ改メシメントス。ペン是ニ於テ佛伊兩國ヲ經歷シ、同六十四年我カ寛文四年甲辰國ニ歸リテ、リンコルンズ、イン法學校ニ入り、二年ノ間法學ヲ修メ、聖テ愛ニ關送ラレテ、父ノ封邑ヲ管理セシガ、偶々コーク郡愛蘭ノ郡名ニ於テ、クエーカー宗ノ領袖トマヌ、ロー(Thomas Lee)ノ演説ヲ聽キシヨリ、宗教熱再ビ心中ニ其ノ度ヲ高メ、各地ヲ奔走シテ、力ヲ弘布ニ盡セリ。

(當時ノ社會ハ、クエーカー宗ヲ蛇蝎視シ、目スルニ政府頗爾宗ヲ以テセリ。ペンノ父ハ艦隊長ハ、世俗的功名家ナルガ故ニ、ペンノ飽ク迄モクエーカー宗ヲ信奉スルヲ見テ、且ツ憤リ、且ツ怒ヲ失ヒ、再三之ヲ斷念スベシト勸ム。ペンモト孝心深キ人ナレバ、父ノ意ニ逆ラフニ忍ビズ。然レドモ本心ノ命令ハ固ヨリ背クベキニアラザルヲ以テ、愈チ決シテ父ノ怒ヲ犯シ、平然トシテ其ノ家ヨリ逐ハレ、富貴ヲ辭シテ流浪ノ身ト爲レリ。左レド、母ハ深ク彼レヲ憫ミ、竊カニ衣食ノ資ヲ給シタリト云フ。)

然ルニ、其ノ既教忌諱ニ觸レタルガ爲メニ、捕ヘラレテ獄ニ送ラレ、父ノ勢力ニ由テ、一旦放免セラレ、英蘭ニ歸リタルモ、一著書ノ事ヨリ、復々幽囚ノ身ト爲リ、獄中ニ於テ『無十字無帝王』(No Cross no Crown)ト題スル書ヲ著ハセリ。此書ハ、苦惱ノ利益ヲ説キタルモノニシテ、氏が著作中ノ重モナルモノナリ。

(此ノ時、倫敦僧正ハペンヲ脅迫スラク、「足下若シ改宗セズンバ終身監獄ノ刑ニ處セラレム」。ペン自若トシテ答フヲク、「果シテ然ラバ、予ハ只年賦ヲ以テ墓所ヲラシメントス」ト。)

出獄ノ後、政府ハヘンニ海軍ノ要職ヲ授ケントシ、又ハ王寵ヲ得ハシメント既キ、其ノ他諸種ノ名利ヲ以テ彼ヲ誘ヒ、改宗セシメント勉メシカド、彼レ一切之ヲ拒絕シ、依然弘教ニ從事セシガ、クエーカー宗徒ノ集會ニ、演説ヲ爲シタルヲ以テ、二三ノ同志ト共ニ又捕ヘラレテ、審問ヲ受ク。ヘン一々辨解ヲ爲シ、且ツ官ヘラク。「法廷ハ、決シテ予ガ上帝ヲ拜スルノ權利ヲ奪フヲ得ズ」ト。陪審ハ、無罪ノ決議ヲ爲シ、之ヲ法廷ニ申達シタリ。然レドモ法廷ハ、氏ヲ刑ニ處セザレバ止マザラント欲シ、固ク執リテ聽カズ。陪審ニ向テ「有罪ノ決議ヲ爲サル間ハ、飲食ヲ爲ス可能ハズ」ト脅カセリ。左レド陪審ハ、二晝夜間絶食ノ後、再ヒ無罪ノ決議ヲ申達セシカバ、法廷ハ止ムヲ得ズシテ一旦氏ニ無罪ヲ宣告シ、更ニ法廷侮辱ノ科ヲ以テ罰金ヲ命ジ、且罰金ニ代ヘテ之ヲ獄ニ投セリ。然レドモ幾モナクシテ父ヨリ罰金ヲ納メケレバ、氏遂ニ許サルトナリ得タリ。

既ニシテ、父病ニ暇子、漸ク危篤ナラントス。名利ノ念次第ニ海ヲギケレバ、ヘンニ歸宅ヲ許シ、我カ家財ヲ讓リテ死セリ。ヘンハ、數度ノ幽囚ニ懲リ果テケレバ、一ツニハ、自己ノ爲メニ、又一ツニハ、自己ト同シク艱難ニ遭遇シタル我カ朋友ノ爲メニ、新世界ニ避難所ヲ求メント欲シ、父ガ政府ニ貸シ附ケタル六萬磅ノ金ニ代ヘテ殖民地ヲ得ント請フ。英王チャールズ二世ハ、當ニ財政ニ困難セルガ故ニ、喜テ其ノ請ヲ允可シ、テラツエア河以西ノ地ヲ與フ。是レ則チ今ノヘンシルヴァニア州ナリ。

ヘン此ノ地ヲシルヴァニアト名ク。然ルニ英王ハ、改メテ之ヲヘンシルヴァニアト名ケシメタリトゾ。ヘンシルヴァニアトハ、ヘンノ林ト云フ義ナリ。ヘン又ヨーク公ヨリ、今ノテラツエア州ヲ買ヒ受ケタリ。

費府

是ニ於テ直ニ二千餘ノクエーカー宗徒ヲ移住セシメ、一千六百八十二年我カ天和二年我カ天和二年ニミヅカラ行キテ殖民ノ爲メニ歡迎尊崇セラレ、翌年瑞典人ヨリ壤地ヲ購ヒテ茲ニ一市ヲ建設シ、之ヲ費府ト名ク。費府トハ同胞相愛スルノ義ナリ。初メ費府ハ蕪穢タル深林ナリシガ、未タ一年ナラザルニ、戸數一百ニ餘リ、二年ニシテ、人口二千ニ過ギ、三年ニシテ新約克ガ五十年ニ於ケルヨリモ發達セリ。

立法議會

是レヨリ先キ、ペンガ殖民地ニ到ルヤ、第一着手トシテ、殖民ノ中ヨリ議員ヲ選ビニ立法議會ヲ組織シ、我カ權力ノ大半ヲ割テ之ニ讓リ、又他宗徒ヲ虐待スルヲ禁セリ。但シ氏ノ大望ハ、只管ニ殖民ヲ幸福ナラシムルニ在リキ。

ヘンノ末路

同八十四年我カ貞享元年我カ貞享元年甲子、ヘン、英國ニ歸ル。氏ハ、ヨーク公ノ親友ナリ。故ヲ以テ、公ガ王位ニ即クヤ、ハズニ世ト氏ハ王ニ向テ信數ノ爲メニ幽囚セラルト者ヲ許サレントナリ。且、多年獄妻ニ呻吟セルクエーカー宗徒ノ稱ス。

再ヒ天日ヲ仰グテ得タルモノ一千二百餘名ノ多キニ及ヒ、其ノ他舊兩教徒ノ被免ニ逐ヒタルモノ少ナカ
ラス。

革命ノ亂起リ、ジエームス二世ノ逐ハル、一六八八年(我カ元ヘンリカニ廢王ジエームス二世)ト謀テ通スト説
スルモノアリ。政府ハ無慘ニモヘンガ殖民地ノ權利ヲ剝奪シケレバ、憐ムベシ、ヘンハ、無罪ノ身ヲ以テ、
貧困ノ淵ニ沈ミ、一千七百十八年我カ享保ヲ以テ死セリ。
三年戊戌

(六)南北両カロライナ州

北カロライナ
殖民ノ濫觴

北^〇カ^〇ロ^〇ラ^〇イ^〇ナ^〇州 一千六百五十三年我カ承應
元年三辰 ヴァージニアノ殖民土地

ノ豊饒ナルト、氣候ノ温暖ナルトニ垂涎シテ南方ニ移住スルモノアリ。

是レ則チ北カロライナ州殖民ノ濫觴ナリ。其ノ後同六十三年我カ寛文
三年癸卯 英

王チャールズ二世、ヴァージニアヨリ、フロリダニ至ル迄ノ地ヲクラレ

ンドン卿(Lord Clarendon)王政復古ノ功臣ナリ。當時
首相(チャムペレン)及ヒ其ノ他寵遇ノ華族ニ賜ヒ、

且ツ王ノ名ニ因ミテ、カロライナト稱ス。チャールズ。羅旬語
ニ、カロラスト云フ。

南^〇カ^〇ロ^〇ラ^〇イ^〇ナ^〇州 是ニ於テ此ノ殖民地ヲ兩部ニ分チ、既ニ殖民セル部

南カロライナ
ノ殖民

分チアルベマール殖民地今ノ北カ
ロライナト名ク、一人ノ知事ヲ置キテ之ヲ管轄

セシメ、又他ノ部分ヲカータレット殖民地今ノ南カ
ロライナト名ク。一千六百七十

年我カ寛文
十年庚戌 英國ヨリ移住民ヲカータレットニ送り、同七十二年我カ寛文十
二年壬子 ナ

ヤールストンヲ建設ス。

初メ兩殖民地ハ、其ノ相懸隔シ、且各自ノ知事ヲ有スルコトモ拘ハラズ、之

チ一州ト爲シタリシガ、互相ノ間ニ常ニ軋轢ヲ生シ、領地并ニ
殖民トモ 爭論絶エザ

ルヲ以テ、一千七百二十九年我カ享保十
四年巳酉 遂ニ兩地ヲ分離シ、北カロライナ

州、及ヒ南カロライナ州ト改稱セリ。

(七)ジョージア州

附慈善家オッソルソープノ傳

夫レロードアイランドノ殖民ノ如キ、メリーランド、又ハペンシルヴァ

メニ建設シタル
殖民地州

慈善家オシル
ソープ

十三州

ニヤノ殖民ノ如キハ、皆本心ヲシテ束縛ヲ脱シ、自由ヲ得セシメンガ爲メニ爲シタルモノナリ。然ルニ貧民ヲシテ禁獄ノ苦ヲ免カレ、自由ノ身ト爲ラシメンガ爲メニ建設セラレタル殖民地アリ。即チ十三州ノ最後者ヨロリア是レナリ。

英王ジョージ二世(George II)ノ時ニ當リテ、負債ノ爲メニ獄裏ニ呻吟スルモノ無慮四千人以上ノ多キアリ。慈善家オシルソープ將軍(General Oglethorpe)之ヲ憫ミテ、負債主監禁ノ法ヲ廢センヲ勉メ、又資本ヲ抛テテ彼レ等ノ爲メニ避難所ヲ設ケント欲シ、一千七百三十二年我カ享保十年當時カロライナニ屬スルサザアナ河以南ノ地ヲ請フテ之ヲ避難所ニ充テ、茲ニ不幸ナル負債者ト、歐洲大陸ノ基督新教徒トヲ移住セシメ、王ノ名ニ因ミテ、其ノ地ヲジョージアト稱フ。是レジョージア州殖民ノ濫觴ナリ。而シテ其ノ殖民ノ年、即チ不幸ナル貧民ノ救助セラレタル年ハ、恰タカモ合衆國自由ノ開祖華盛頓ガ出生ノ年ナリシコソ面白ケレ。

シエームス、エドワード、オシルソープ將軍(General James Edward Oglethorpe)ハ、一千六百八十八年我カ元祿(一)倫敦ニ生ル。一千七百十年我カ寶永七年庚寅軍艦ニ入りテ少尉ニ任シ、其ノ後、ソーゼン公(Prince Eugene)ヲ下ニ、書記兼將トシ。同三十二年、ジョージア殖民地ヲ建設シ、又サザアナ府ヲ建設シ、(本文參看)其ノ後、復タ米洲ニ到リテ、當時西班牙ノ領地タルフロリダ州アリガスチンヲ得テ欲シテ成ラス。歸國ノ後、法廷ノ問フ所ト爲ル。然レトモ許シテ罪セラレザリキ。同四十五年我カ延享二年乙丑將ニ昇任シ、叛徒鎮撫ノ爲メニ米洲ニ到ル。功ナカリシヲ以テ、復タ軍法ノ問フ所ト爲ル。左レドモト罪スベキナキヲ以テ許サレタリ。同八十五年我カ天明死セリ。五年乙巳

十三州建設年表

州名	建設シタル國人	始メテ殖民シタル場處	同上ノ年
(一) ヴァージニア	英	人 シエームス、タウソン	一六〇七年
(二) 新 約 克 蘭	蘭	人 新安、特 堤	一六一四年
(三) ニウ、ジャージー	蘭	人 ベル、ケ	一六一八年
(四) マサチューセッツ	英	徒 プリマックス	一六二〇年
(五) ニウ、ハムシア	英	人 グヴァー、及ヒ ホーツマウス	一六二三年
(六) メーリーランド	英人	マルチモア卿部下ノ	一六三四年

米國獨立前記

十三州

四四

- (七) コンチネンカッタト……マサチニセウツノ活教……一六三五年
- (八) ロード、アイランド……ロジャール、ウヰリアムス……アログウヰテニス……一六三六年
- (九) デラウエア……瑞典人、及ヒ芬蘭人……〔ウヰルミンントン附近ノ地〕……一六三八年
- (十) ペンシルヴァニア……デラウエアノ瑞典人……一六四三年
- (十一) 北カロライナ……〔英ノクエーカー宗徒……費〕……府……一六八三年
- (十二) 南カロライナ……〔ヴァージニアノ移住人〕……一六七〇年
- (十三) ショーシア……英……一七三三年

殖民地ノ性質
即チ政治ノ
區別

(其一) 特許狀
政治

以上十三州其ノ成立チ同フセズ。隨テ其ノ政府ノ性質モ亦異ナリ、今之ヲ大別スルルハ、(第一) 特許狀政治(第二) 王權政治(第三) 所有主政治ノ三種ニ歸スルガ如シ。

(第一) 特許狀政治ハ、新英蘭ノ特有タリ。是レ新英蘭ノ殖民ハ、先ツ移住シタルノ後、英王ヨリノ特許狀ニ由リテ、土地ノ權利ヲ賦與セラレタリトノ意ニテ斯ク名クルナリ。然レドモ實際ニ於テハ、本國ノ許可ヲ待タズシテ、殖民地ヲ組織シタルモノ多シ。

(其二) 王權政
治

特許狀政治ノ諸州ハ、殆メド全ク獨立ノ姿ヲ爲シ、立法行政ヨリ宣戰媾和ノ事ニ至ルマデ、皆ミヅカラ之ヲ爲セリ。

(第二) 又殖民地ニ依リテハ、知事、參事會員共ニ勅選ニシテ、其ノ任免ニ王ノ隨意タルモノアリ。之ヲ王權政治ト云フ。王權政治ニ於テハ、判事及ヒ其ノ他ノ官吏モ亦王ノ命スル所ニシテ、殖民ハ只州會議員ヲ選舉スルノ權アルノミ。參事會ハ、宛ナガラ本國ノ貴族院ノ如ク、州會ハ、宛ナガラ衆議院ノ如シ。知事ハ不認可權ヲ有セリ。而シテ知事若シ兩院ノ決議ヲ認可スルトモ、王ノ允可ヲ得ザレバ、之ヲ法律ト爲スル能ハズ。ヴァージニア。新約克。ニウシヤ。セー。兩カロライナ。ジョージア。ノ如キハ、王權政治ニ屬スルモノナリ。兩カロライナト、ニウシヤ。セートハ、初メ王權政治ナリシヲ、後所有主政治ニ改メタルナリ。

(其三) 所有主
政治

(第三) 英王ヨリ、所有主ト名クル某々ノ人々ニ、土地ノ權利ト、一州ヲ建設スル權力トヲ與フル。之ヲ所有主政治ト云フ。所有主ハ、知事以下諸

官吏任免ノ權、立法議院設立ノ權、議員召集ノ權、及ヒ不認可權ヲ有シ、
 而カモ只王ニ對シテ責任ヲ負フノミ。左レバ、此所有主ハ、恰カモ歐洲
 中古ノ封建諸侯ト相髣髴タルナリ。ペンシルヴァニアノ如キハ、所有
 主政治ニ屬スルモノナリ。

以上二章ニ於テ、可及的簡單ニ、英國ガ米洲ヲ發見、殖民ノ濫觴、十三州
 殖民ノ顛末、及ヒ其ノ性質ヲ叙述シタリ。今ヤ米洲ニ於ケル英佛西等
 殖民互相ノ戰爭ヲ聊カ叙述シテ、此ノ米國獨立前記ノ編ヲ終ラン。
 米洲ニ於ケル英國ノ殖民地ト、佛、西諸國ノ殖民地トノ間ニ起リタル
 戰爭ノ大ナルモノ三ツアリ。(甲)ウヰリアム王戰、(乙)アン女皇戰、(丙)佛蘭
 西印度戰是レナリ。

(甲)ウヰリアム王戰 一六八九年(我カ元祿二年己巳) 至同九七年(我カ元祿十年丁丑) 乃 其ノ頃、英佛其ノ本國ニ
 於テ干戈ヲ接エタルヲ以テ、米洲殖民地ニ於テモ、亦互ニ干戈ヲ接エ

英國殖民地ト
 他ノ殖民地ト
 ノ戰爭

(甲)ウヰリアム
 ▲王戰

而シテ加拿陀、及ヒメインノ土人ハ、佛ニ左袒シ、アイロクサイス種族
 ハ英ニ應援シタリ。初メ佛軍ト、土人兵ト、加拿陀ヨリ來リテ、不意ニ新
 約克、及ヒ新英蘭ノ殖民ヲ襲ヒ、虐殺ヲ恣ニセシヨリ、英人怒リテ彼レ
 等ヲ攻撃シ、八年間ノ戰爭ノ後、遂ニ和ヲ講セリ、但シ自他共ニ地ヲ割
 ク等ノ事ナカリキ。

(乙)アン女皇
 戰

(乙)アン女皇戰 一七〇二年(我カ元祿十五年壬午) 至同十三年(我カ正徳三年癸巳) 英國其本國ニ於テ、佛蘭西、及

ヒ西班牙ニ向テ開戰ヲ宣告シタリシヨリ、米洲ニ於テモ亦戰ヲ開キ
 シガ、十一年間ノ連續ノ後、和成リテ、英國ハ、アカチアノ地ヲ得タリ。

(丙)佛蘭西、
 印度戰

(丙)佛蘭西、印度戰 一七五四年(我カ寶曆四年甲戌) 至同六三年(我カ寶曆十三年癸未) 乃 此ノ時ニ當リテ、英人ハ、長

サ一千哩ニ亘レル沿岸細長ノ地ヲ領シ、佛人ノ領地ハ、クエベツクヨ
 リ、ニウオルレアンスニ達シ、而シテ、英人宛ナガラ大舉シテ佛領ヲ襲
 フベキノ觀アリ。加フルニ二者境界線ノ事ヨリ爭ヲ生シ、均シクアレ
 ガニ、山以西、オハイオ河岸ノ地ヲ自家ノ所有ナリト主張シ、且ツ從

來三回ノ大戰ニ由リテ互ニ嫉惡ノ念ヲ増シケレバ、戰乱ノ旦夕ニ迫
 レルハ、世人ノ期スル所ナリキ。果セルカナ、佛人ハ、六十以上ノ兵營ヲ
 築キ、オハイオ河岸ニ於テ英國數名ノ測量師ヲ捕ヘ、ミアミー河畔ナ
 ル英國ノ兵營ヲ奪ヒ、英領内ニ三箇ノ堡塞ヲ築キケレバ、英人モ亦大
 ニ怒リテ干戈ヲ交ユルニ至レリ。之ヲ佛蘭西、印度戰ノ起因ト爲ス。但
 シ土人多ク佛人ニ與ミシタルヲ以テ、印度戰ノ名アルナリ。此戰爭九
 年間連續ノ後、英人ノ勝利ニ歸シテ和ヲ結ビ、佛國ハ、ミスシツピ
 以東ノ領地ヲ悉ク英國ニ與ヘ、但シニウフアウソンドラントノ南ニ當レル
 二小島ノミハ、漁獵場トシテ有テタリ。又西班牙ヨ
 リ英國ニフロリダヲ讓リ、佛國ヨリ西班牙ニ、ノウ、オルレアンス、及ビ
 ミスシツピ、河以西ノ領地ヲ悉ク讓レリ。

佛蘭西、印度
 戰ノ結果

佛蘭西、印度戰ノ間ニ、米人ノ戰死スルモノ無慮三萬。然レドモ殖民ハ
 殉公ノ志切ナルヲ以テ、毫モ他ヲ怨ムルコトナシ。又殖民地ヨリ出ス所

ノ軍費一千六百萬弗ニシテ、英吉利本國ヨリ出ス所ハ、僅ニ五百萬弗
 ニ過ギズ。是ヲ以テ米人ノ納税額ハ時ニ所得額ノ三分ノ二ニ位シク
 ルコトスラナキニアラス。左レド凡テ我ガ代議士ノ議決ニ基キテ納メ
 タルニ依リ、一人モ不平ヲ唱フルモノナク、殖民各、其ノ地ヲ異ニシ、其
 思想ヲ同シフセザルモ、平素ノ確執ヲ棄テ、協心戮力シテ只管國家ノ
 爲メニ盡シタリキ。英吉利本國ノ將校ハ、ミヅカラ恩トスルガ故ニ、傲
 然、殖民地ノ將卒ヲ處スルニ臣僕ヲ以テシ、米國老練ノ將ト雖モ、英ノ
 若士官ニ步ヲ讓ラザルヲ得ズ。而カモ甲ノ中ニハ、華盛頓ノ如キ、ゲ
 ヲノ如キ、モンゴメリノ如キ、スタークノ如キ、アールドノ如キ、
 モーガンノ如キ、プラットナムノ如キ、執レモ下文
 ニ傳アリ皆稀代ノ名將ニシテ、之
 ナ英將ニ比スルニ、遙カニ優レリト雖モ、寛大ノ長者ナルヲ以テ、別ニ
 脚ム所ナカリキ。

然レドモ、コハ固ヨリ其ノ外觀ノミ。人ハスベテ有情ノ動物ニシテ木

石ニアラザレバ、如何ナル温厚ノ君子モ、不正ノ待遇ヲ蒙ムリテ怒ラザルモノハアルベカラズ。况ンヤ、殖民地一般ノ人民ヲヤ。抑モ此ノ人民ハ、自由ヲ得ント欲シテ、遠ク異郷ニ骨ヲ埋メタルモノ、子孫ナリ。然ルニ彼ノ航海條例第一編ニノ如キハ、彼レ等ノ權利ヲ抑ヘテ其ノ囊中ノ物ヲ攫取スルノ感アリ。而カモ彼レ等ハ、漸ク本國ノ庇蔭ヲ仰カズシテ、独立的ニ思考動作スベキヲ知り、自家ノ力ノ強大ナルヲ悟リタレバ、——詳ニ言ヘバ、彼レ等ハ、ミヅカラ立法議會ヲ召集シ、兵士ヲ募リ、軍資ヲ給スルノ法ヲ試ミタレバ、——其ノ平民政治的思想益々腦裏ニ根底ヲ固フシ、自由ヲ愛スルノ念更ニ一層ノ激度ヲ加フルハ決シテ怪ムベキニアラザルナリ。然リ而シテ英國ハ此ノ人民ヲ馭スルニ壓抑不法ノ甚シキヲ以テス。其ノ遂ニ破裂ノ禍ヲ蒙ムリタルハ、蓋シ數ノ宜シク然ルベキ所ナラン。猶詳細ハ、次編ニ叙述スベシ。

英國累代諸王表

左ニ掲グル所ハ、エリザベス女皇ヨリ、今王ニ至ルマデ累代諸王ノ表ナリ。茲ニ載セテ參考ニ供ス。

王ノ名	即位ノ年	享年	治世
エリザベス	一五五八年	七〇歳	四四年
ヘンリー八世ノ女、母ハ、アン、ブツリン	以上チエードル家		
シエームス一世	一六〇三年	五九歳	二二年
(初メ蘇王シエームス六世)蘇國女皇メリーノ子ニシテ、蘇王シエームス四世ト、ヘンリー七世ノ女マリーガ	一六二五年	四八歳	二四年
レットトノ孫ニ當レリ。			
チャールス一世	一六四九年		
シエームス一世ノ子			
以上スチエアート家			

チャールス一世、死刑ニ處セラレテヨリ、英國一時共和政治ニ變シ、(一六四九年)、オリヴァー、クロムウェル、大統領ニ選マル。クロムウェルが大統領ニ選マレタルハ、一六五三年ニシテ、其ノ逝去ハ、同五八年、享年五十九歳ナリ。同年其ノ子リチャード、クロムウェル、父ニ繼テ亦大統領ニ選マレ、其ノ翌年職ヲ罷メラレ、久シカラズシテ王政ニ復ス。

チャールズ二世.....一六八〇年.....一六八五年.....五五歳.....一三五年

チャールズ一世ノ長子

ジェームズ二世.....一六八五年.....一六八八年位.....六八歳.....三年

チャールズ一世ノ次子(廢位ノ後、一七〇一年殞ス)

ウヰリアム三世.....一六八九年.....一七〇二年.....五一歳.....一三年

メアリー二世.....一六八九年.....一六九四年.....三三歳.....六年

ウヰリアム三世ハ、オレンジ公ウヰリアムノ子。母ハ、チャールズ一世ノ女メアリーナ。

メアリー二世ハ、ジェームズ二世ノ長女ナリ。ウヰリアム(後ニウヰリアム三世)ニ嫁セリ。

アン.....一七〇二年.....一七二四年.....四九歳.....一二年

ジェームズ二世ノ次女

以上スチュアート家

ジョージ一世.....一七一四年.....一七二七年.....六七歳.....一三年

ハノーヴァル選帝公ノ子。母ハ、ソフザ

(但シソフザハ、ジェームズ一世ノ女ナルエリザベスノ産ム所ナリ)

ジョージ二世.....一七二七年.....一七六〇年.....七七歳.....一三三年

ジョージ一世ノ子

ジョージ三世.....一七六〇年.....一八二〇年.....八二歳.....五九年

ジョージ二世ノ孫ナリ。一八一一年以後ハ、攝政政治タリ。

(此ノ王ノ時ニ、米國獨立戦起レリ。)

ジョージ四世.....一八二〇年.....一八三〇年.....六八歳.....一〇年

ジョージ三世ノ長子

ウヰリアム四世.....一八三〇年.....一八三七年.....七二歳.....七年

ジョージ三世ノ第三子

ヰンクトリア.....一八三七年

ジョージ三世ノ第四子ナルエドワードノ女

第一編 米國獨立戰ノ原因

第一章 獨立戰ノ遠因

プリマウス殖民地、本國ト
論争ノ端緒ヲ

幼稚ナル殖民地ノ漸ク成長ニ垂ントスルヤ、忽チ本國ト争ヲ生セリ。而シテ其ノ先鞭ヲ着ケタルハ、豫期ノ如ク、プリマウス殖民地ナリキ。夫レ同地ノ殖民ハ、政治、宗教ノ自由ヲ得ント欲シテ、遠ク萬里ノ波濤ヲ凌ギタルモノナレバ、其ノ一旦袂ヲ拂テ去リタル郷里政府ノ干涉ヲ被ムルヲ快トセズ。是ヲ以テ夙ニ一千六百三十六年我カ元永十三年丙子即チジョン・ハムデン「John Hampden」近日發兌スベキ拙著英革命史ノ中ニ詳ナリ國ガ「造船用費」ニ異議ヲ唱ヘタルノ年ニ於テ、何等ノ租税モ、我カ代議士ノ同意ヲ經ザレバ、一切之ヲ納ムベカラズトノ議ヲ決セリ。左レバ代議士ナケレバ納税ナシト云ヘル主義ハ、後年獨立ノ際ニ至リテ、始メテ之ヲ定メタルニアラズ。當時既ニ之ヲ確定シ、而シテ子孫常ニ之ヲ採用シタルナリ。然ルニ英國ハ全ク反對ノ主義

ヲ操持シ、國會ハ凡百ノ殖民地ニ租税ヲ課スルノ權アリト主張シタリシカバ、茲ニ葛藤ノ端緒ヲ開ケリ。

初メ殖民ガ本國議會ノ租税賦課權ヲ拒否シ、之ニ抵抗シタル所以ノモノハ、漸ク内治ニ干涉セラレシコトヲ恐レテナリ。然ルニ英國ハ内治干涉ノ權ヲ得ルニ重キヲ置カズシテ、歳入ノ源ヲ増殖スルニ重キヲ置キ、可及的其ノ膏血ヲ絞リテ、自家ノ囊中ヲ充タサント欲セシカバ、先ツ殖民地貿易ノ權ヲ壟斷スルヲ以テ、此ノ希望ヲ達スルノ初步ト爲シ、早クモ一千六百二十一年我カ元和七年辛酉ヲ以テ、

凡ソ殖民地ニ産スル烟草、及ヒ其ノ他ノ貨物ハ、先ツ英國ニ陸揚ゲシ、關稅ヲ納メタル後ニアラザレバ、之ヲ外國ノ港ニ運輸スルヲ許サズトノ規則ヲ定メ、其ノ後同五十一年我カ慶安四年辛卯有名ナル航海條例ヲ設ケテ、殖民地ノ輸出入品ハ、必ラス英國若クハ殖民地ノ船舶ニ積ミ込マザル可ラズト令シ、同六十三年我カ寬文三年癸卯世界各國ヨリ、殖民地ニ物品ヲ輸入ス

殖民地ノ直接貿易ヲ禁ス

航海條例

米國獨立戰ノ原因

ルヲ禁シ、只英國ヨリ英船ヲ以テ輸入スルヲ許ス旨ヲ令シ、同七十二年
我カ文十
二年王子自今甲ノ殖民地ヨリ乙ノ殖民地ニ運送スル砂糖、烟草、綿等ハ、悉
ク租稅ヲ賦課スベキ旨ヲ令セリ。是レ等ノ條例ニ據レバ、殖民ハ、凡テ他
國ト直接ニ貿易ヲ爲スヲ得ズ、英國トノミ賣買スルヲ得ベキノ定規
ニシテ、賣買ノ間ニ立チテ其ノ利ヲ占ムルハ獨リ英商ノミナリキ。左レ
ド殖民ハ、猶幸ニシテ製造ノ權ニ干涉セラレザリシヲ以テ、紡績ノ業漸
ク盛大ニ赴キツヽアリシガ、英國ノ議會ハ、此ノ狀況ヲ聞キテ大ニ驚キ、
言ヘラク、「殖民地ニ製造所ヲ建設スルハ服從ノ念ヲ減スルノ基ナリト」。
是ニ於テ又タ法令ヲ發シ、自今米洲殖民地ニ於テ製造セル毛糸、及ヒ毛
織布ハ、一切他所ニ運輸スルヲ禁シ、「二千七百三十二年我カ文十
七年王子當時新英蘭
ニ於テ夥多シク製造スル帽子ヲ外國又ハ他ノ殖民地ヘ輸出スルヲ禁
セシカバ、殖民地到ル處抵抗ノ精神ヲ喚起セザルハナカリキ。是レヨリ
先キ、新英蘭ノ人民ノ如キハ、平素勤儉ヲ旨トシ、製造、貿易、漁獵他州ニ冠

タルニ、以上ノ諸條例一タビ嚴行セラレテヨリ、三業共ニ巨害ヲ被ムリ
テ、殆ンド衰頽スベキノ勢ナレバ、且ツ驚キ、且ツ憂ヒテ、切齒扼腕ニ堪エ
ズ。相約スラク、自今止ムヲ得ザルノ場合ニアラザレバ、一切英國ノ製造
品ヲ購買セザルベシ。英商ニ過分ノ價ヲ拂ハンヨリハ、寧ロ奢侈ノ物品
ヲ使用セザルニ如カズト。家々相誓ヒテ、ミヅカラ織リ、敢テ衣服ヲ英國
ニ仰ガズ。節儉風ヲ爲シテ、麻布ヲ着スルヲ却テ名譽ト爲スニ至レリ。新
英蘭ノ人民ハ、又各種ノ會社ヲ設ケテ内國製造ヲ獎勵シ、其ノ紀念日ノ
一ツニ當リテ、三百餘名ノ少婦、波士敦共同館ニ會シ、其ノ日ヲ紡績ニ費
シ、ハーヴァード大學ノ卒業生ハ、愛國心ヲ固フセンガ爲メニ、學位授與
式ニ臨ムニ、内國製ノ綿服ヲ着用スベキヲ約セリ。然ルニ今ヤ帽子ノ輸
出スラ禁セラレシノミカ、同五十年我カ文十
三年庚午英政府ハ、殖民地ノ製造ヲ以
テ、本國ノ妨碍ト爲シテ、全ク之ヲ禁シ、背ク者ハ、之ニ五百弗ノ罰金ヲ課
スルニ至レリ。暴モ亦甚シカラズヤ。

南部ニ於テハ、斯ク貿易上ニ制限ヲ置カレタルモ利害ヲ感スルコトハ稍々少ナカリキ。是レ烟草、稻、藍青ノ如キ其ノ地ノ名産ハ、英人之ヲ購買セザルヲ得ズ。又製造品ノ如キハ、南部人民ノ長所コアラザレバナリ。

要スルニ、英人ハ、殖民地設立ノ當初ヨリ、殖民ヲ機械トシテ利害ヲ斷斷セント謀リタルニ、殖民ハ元來自由ヲ愛スル人々ノ子孫ナルヲ以テ、其ノ制限ニ甘スルコト能ハズ。惡感漸ク積テ遂ニ米國獨立ノ遠因ヲ爲セルモノナリ。

上文叙述スル所ノ外、他ニ米國獨立戰ノ原因ト爲レルモノ少ナカラス。左ニ其ノ一二ヲ掲ゲン。

シエロームス二世、暴虐無道。位ニ即テ、天主教熱信者ヲ體面ヲ裝ヒ、凡ソ英吉利本國ノ人民ヨリ、米洲殖民地ノ人民ニ至ルマデ、悉ク同教徒タ

シエロームス二世
暴虐無道

阿世ノ小人ダ
ツドリ

ラシメント欲シ、先ツ信教ノ自由ヲ許シテ、以テ從來英國教會ニ於テ、同教ノ儀式、教義ヲ用ユルノ禁ヲ解キタリ。既ニ此ノ禁ノ弛ブヤ、卒然自由信教ノ主義ヲ脱却シテ、壓制ノ甚シキモノニ變更シ、苟クモ天主教ヲ奉セザル者ハ、盡ク執ヘテ之ヲ刑ニ處セントス。然レドモ王モト民望ニ背ケルガ故ニ、容易ニ行ハルベカラザルヲ憂ヒタリキ。會、マサチューセッツ州ニ、ジョセフ、ダッドリー (Joseph Dudley) ナルモノアリ。熱心ナル民權家ナリシガ、元來阿世ノ小人ナレバ、王ノ意中ヲ察スルヤ否ヤ、欣喜雀躍、奇貨居シベシト爲シテ、忽チ王權黨ニ虎變シ、同州知事ノ任命アルマデ、暫ク其ノ代理者ニ命セラレタリ。是ニ於テ、出版ノ自由ヲ禁シ、エドワード、ランドルフ (Edward Randolph) ナルモノヲ擧ケテ、檢稿官ニ任セリ。ランドルフハ、殖民ヲ憎ムコト甚クシク、又殖民ヨリ憎マル、コトモ甚シキ人ナリ。然ルニ、英王元來殖民地議會ヲ蔑視シ、且ツ政治ニ暗クシテ、其ノ用ヲ知ラザルヨリ、ダッドリーニ委員狀ヲ與フ

米國獨立戰ノ原因

ルニ、議會ノ承認ヲ經ベキヲ忽セニシ、勿論承認ノ旨ヲ記入シテザ
リシカバ、殖民ハ、ダツドリ、以テ自由ノ内應者ト見做シ、ランドル
フハ、法廷ノ前ニ、『只利是從フ投機師』ナリト辨解シテ、幸フシテ法網ヲ
免カル、トテ得タリ。

シエームス又全殖民地ノ特許狀ヲ奪ヒテ、到ル處御料ヲラシメント
謀ル。是レヨリ先キ、サー、エドマンド、アンドロス (Sir Edmund Andros) 久
シク全英英蘭ノ知事タリ。此ノ人、王ノ意ヲ迎ヘテ、壓制ノ機關ト爲リ
シカバ、御覺エ殊ニ芽出タクシテ、忽チ非常ノ權力ヲ交付セラレ、課税
ノ權、參事會員任用ノ權、民兵指揮ノ權、印刷物禁止ノ權、教會監督ノ權
及ヒ殖民地ノ貿易ニ關スル制限法ヲ施行スルノ權悉ク一身ニ在リ。
而シテ是レ等諸權ヲ意ノ如ク實行シ得ベキガ爲メニ、二中隊ノ兵ヲ
有セリ。アンドロス能ク英王ノ意ヲ奉シテ民權ヲ壓迫シ得タリシカ
バ、王其ノ褒賞トシテ之ヲ判事長ニ任セリ。アンドロス依リテ益々人民

ツエームス、
特許狀ヲ奪ハ
ント謀ルル知
事アンドロス
暴虐亡狀

チ苦ムルノ策ヲ施シ、學校ヲ閉チ、公會ヲ禁シ、只市吏選舉ノ權ノミヲ
許セリ。又其ノ地ノ習慣ヲ棄テ、毫モ之ヲ顧ミズ。例ヘバ、從來手ヲ舉
ケテ天ニ訴フルヲ誓約ノ法ト爲セシニ、改メテ聖書ノ上ニ手ヲ置ク
ト爲シタルノ類是レナリ。此ノ聖書ノ上ニ手ヲ置クノ法ハ、清教徒
ガ偶像信徒ノ爲スベキ所トシテ嫌忌スルモノナリ。
アンドロス又地主ニ向テ、土地所有ノ名義ハ、今ヨリ無効ナリト告ゲ、
且ツ言ヘラシ、足下等ガ有スル特許狀ハ、今回沒收セラル、ニ依リ、所
有權モ亦消滅ニ歸セザルヲ得ズト。地主等大ニ其ノ不當ヲ憤リ、更ニ
印度ノ地券狀ヲ出シテ之ヲ示セシニ、アンドロス冷笑シツ、
「コハ熊爪ノ搔痕ホドノ價值モナシ」ト云ヘリ。
アンドロス又法ヲ設ケテ曰ク、何人モ知事ノ許可ヲ得ザレバ、殖民地
ヲ去ルベカラズ。市吏、及ヒ宣教師ハ、婚姻ノ儀式ヲ主宰スルヲ得ズ。
只波士敦ノ監牧師天主教ノ牧師ノミ之ヲ主宰スルヲ得ベシト。依リテ天主

教ヲ益々弘布セシメ、教會建築ノ費用ヲ人民ニ課シ、貧富長幼男女ニ論ナク、悉ク税額ヲ同フセリ。イプスウヰツチ名地ノ宣教師ヲヨソ、ワイヌ(Jhon Wise)怒ヲ犯シテ、租税ヲ不正ナリト論シ、之ヲ納ムベカラズト斷言シケレバ、忽チ縲縛ノ苦ヲ被ムレリ。ワイヌ又言論ハ、英人タル予輩ノ特權ナリト述ベケルニ、アンドロスハ、之ヲ否ミテ、「足下ハ只奴隸トシテ賣ラレザルノ權アルノミ」ト言ヘリ。ワイヌ遂ニ他人ト共ニ重キ罰金ヲ課セラレタリ。人アリ、アンドロスヲ諫メテ曰ク、「子ノ處置ノ如キハ、恐ラクハ、殖民地ノ繁榮ニ害アラシム」アンドロス答ヘテ曰ク、「殖民地ノ生存スルハ、確カニ陛下ノ損害ナリト」。

既ニシテ、アンドロスハ、ロイド、アイランド州ノ特許狀ヲ奪ハントス。ロイド、アイランド州其ノ要求ニ從ハズ。アンドロス、プロヴヰデンスロイド、アイランド州ノ首府ニ到リテ、殖民地ノ印綬ヲ毀テ、政廳瓦解スト宣言セリ。尋テ護衛兵ヲ率ヰテ、ハートフナードコンチクチカツト州ノ首府ニ至リテ、特許狀ヲ要求

ス。適々州會開期ナリキ。議員ハ陽ニ彼レヲ尊崇シ、應否ヲ議事ニ附シツ、故サラニ遅延シテ夜ニ至レリ。蠟燭ヲ点スルヤ、特許狀ヲ携ヘテ之ヲ卓上ニ置ケリ。アンドロス手ヲ延シテ之ヲ執ラントスルニ、不意ニ燭ヲ消スモノアリ。暗黒咫尺ヲ辨セズ。既ニシテ再ヒ燭ヲ點スルニ、特許狀ハ消失シテ痕跡ヲ留メズ。是レ愛國者ウヰリアム、ウチツヰウチウチリス大尉(Captain William Wadsworth)ガ執リ去リテ、檣樹ノ凹處ニ隠シタレバナリ。アンドロス滿面朱ヲ注ギ、怒聲ヲ發シテ曰ク、「現政廳速ニ閉ツベシ。特許狀ノ有無ハ復々問フヲ要セズ」ト、ミヅカラ議會ノ記録ヲ執リテ、記事ノ終ニ「大尾」ノ語ヲ書セリ。

此ノ檣樹ハ、爾來「特許狀ノ檣樹」ト稱セラレ、凡ソ五十年ノ間生存シテ、名木ノ一タリシガ、惜ムベシ、暴風雨ノ爲メニ覆サレテ枯死シタリ。左レド是レヨリ先キ、ハートフナードノ一婦人其ノ實ヲ播キテ新樹ヲ生セシカバ、市民、彼ノ女ニ請フテ之ヲ得、儀式ヲ備ヘテ之ヲ

老樹所在ノ地ニ移種シ、今ニ至リテ猶繁茂スト云フ。
 噫々アンドロスノ暴ヤ、眞ニ憎ムベク、恐ルベシ。左レド幸ニシテ虐主
 シエームスハ英民ノ爲メニ逐ハレ、オレンジ公ウヰリアム (William,
 Prince of Orange) 後ニ英王ウヰ
 リヤム三世 英王ノ位ニ即キシカバ、アンドロスノ虐政ハ
 茲ニ終チ告グルコト得タリ。

一千六百九十二年 我カ元祿
 五年壬申 ベンジャミン、フレッチャヤ (Benjamin Fletcher)
 ナル者、新約克ノ知事ニ任ス。此ノ人ハ軍人ニシテ、性擅横多慾ナリキ。
 此ノ時ニ當リテ、加拿陀ノ佛人屢々來寇スルガ故ニ、邊境兎角安穩ナ
 ルコト能ハズ。而シテ新約克ハ加拿陀ト相接スルニ依リ、各殖民地ハ協心
 戮力シテ新約克ヲ援ケザルベカラズ。是レ新約克ノ安否ハ殖民地一
 般ノ安否ニ大關係ヲ有スルヲ以テナリ。英政府ハ、此聯合チ一層鞏固
 ナラシメント欲シ、フレッチャヤヲシテ獨リ新約克民兵ノ司令官ヲ
 ラシムルノミニ止マラズ、兼テニウ、ウヤイセー、及ヒコンチナカッ

知事フレッチャ
 ヤー、コンチ
 ナカッ
 州民トノ葛藤

ト二州民兵ノ司令官ヲフレッチャヤ、フレッチャヤ、我カ威權ヲ行ハ
 レシメント欲シテ、先ツコンチナカットニ到レリ。然レドモ他州ノ
 知事ニ民兵司令ノ任ヲ委ヌルハ、取リモ直サズ、特許狀ノ與ヘタル民
 權ヲ犧牲トスルノ處置ナルガ故ニ、州民頗ル異議ナキコト能ハズ。適シ
 會開ケ、民兵亦操練ニ忙ハシキニ當リテ、フレッチャヤ、來着シタリシ
 ガ、州民ノ異議アルヲ聞キテ、故サテニ揚言スラク、「汝等、我カ意見ニ服
 從セザル限リハ、予ハ決シテ此ノ地ヲ去ラザルベシ」ト。民兵ノ將ニ練
 兵場ヨリ退カントスルヲ見テ、急ニ書記ニ命スラク、「陛下ガ予チコン
 チナカット民兵ノ司令官ニ任シ賜フタル勅書ヲ朗讀スベシ」ト。書
 記ノ之ヲ朗讀スルヤ、民兵ハ其ノ司令官ウチツウチニス (Vadsworth)
 ノ號令ニ從テ、各自ニ高ク太鼓ヲ鳴ラシ、書記ノ讀ム所ヲシテ毫モ聽
 クコト能ハザラシメリ。フレッチャヤ、怒リテ、大喝一聲「黙セヨ」ト叫ブ。太
 鼓ノ響頓ニ止ミケレハ、書記再ヒ勅書ヲ朗讀スルニ、ウチツウチ

ス復タ『太鼓！太鼓！』ト命シ、命ニ從テ、太鼓ノ響再ヒ起リ、聴クベカラズ。フレツチヤ一更ニ一層ノ怒聲ヲ發シテ『沈黙セヨ』ト云フ。然レドモウチツツウチニスハ、劍ヲ拔キ、進ミ來リテ、フレツチヤ一ヲ脅迫スラク。足下猶頑然沈黙ヲ命スルナラバ、予ハ日光ヲシテ足下ノ胸部ヲ貫キ輝カシムベシト。フレツチヤ一爲スベカラザルヲ知リテ新約克ニ歸レリ。

右ハ只一二例ヲ舉ケタルノミナレドモ、當時此ノ類例ハ枚舉ニ暇アラズ。相待チテ、米國獨立遠因中ノ最遠因トハ爲レリ。

第二章 獨立戰ノ近因

(其一)助力令狀—印紙條例

附フランクリンノ傳—パトリック、ヘンリー
ノ傳—英國政治界ノ偉人老ビットノ傳

英政府「助力令狀」ヲ發ス

佛蘭西、印度戰ノ終チ告グルヤ、米洲殖民ノ之ガ爲メニ費ス所一千六百萬弗。本國ヨリ出ス所ハ僅ニ五百萬弗ニ過ギズ。第四十九頁參看然レドモ英政府ハ、新ニ口實ヲ設ケテ言ヘラク。今回ノ戰爭ハ殖民地保護ノ爲メニ起セシモノナレバ、殖民地ハ須ラク之ガ費用ヲ負擔セザルベカラズト。是ニ於テ彼ノ航海條例ヲ嚴行シ、堅ク密賣ヲ防ガントノ思考ヨリ「助力令狀」ナルモノヲ發行シ、而シテ稅關ノ小吏此令狀ヲ楯甲トシテ、恣ニ私人ノ家宅若クハ市廛ニ闖入シ、密賣品ノ有無ヲ搜索シケレバ、家内ノ安全之ガ爲メニ攪破セラレ、私人ノ家復タ其ノ城堡タルヲ能ハズ。

一千七百六十一年我力賣場十一年辛未此ノ令狀ノ始メテマサチユセツ州ニ實施セラル、ヤ、人民痛ク激昂シテ抵抗ノ精神ヲ喚起シ、其ノ理否ヲ法廷ニ爭フ。時ニ檢事長ジョームス、オーチス(James Otis)ナルモノアリ。其ノ地位上固ヨリ令狀賛成者タルベシ。然レドモ其ノ人、正直ノ君子ナルガ故ニ、意ヲ枉ゲテ不正ニ從フヲ能ハズ、斷然職ヲ抛チテ人民ニ左

ジョームス、
オーチス

袒ス。英國黨ノ一辯護士彼レコ向テ難スラク「英國議會ハ主權者ナリ、苟クモ良民タル者ハ之ガ命令ヲ遵奉セザルベカラズ。足下何ノ見ル所アリテ此レコ背キ、彼レヲ助ケルヤ。彼レ絶叫スラク「否、予ハ上帝ヨリ賜ハリタル智能ヲ竭シテ、右手ニ此ノ類ノ苛法酷律ヲ卻ケ、左手以テ其ノ黨ノ小人コ抗シ、斃レテ後己マントス」ト。オーチヌス一タビ法廷ニ雄辯ヲ振ヒテヨリ、輿論爲メニ益々刺衝セラレ、抵抗ノ精神ハ遂ニ其ノ他ノ條例ニ迄モ及ボセリ。左レバ、ジョーン、アダムスアリ後ニ傳ハ言ヘラク「英國ノ虐政ニ對スル抵敵ノ念ハ、茲ニ始メテ起リタリ。我カ米國ノ獨立ハ、茲ニ始メテ生レタリ」ト。

(オーチヌスハ、一千七百二十五年我カ泰保生レ、同八十三年我カ天明死ス。十年甲申、十年乙巳、三年癸卯)

同六十四年我カ明和元年甲申英國ノ歲計三百萬磅許ノ不足ヲ生シ公債償却資本ヲ之ニ流用スルモ、猶若干ノ費途ヲ他ニ仰ガザルヲ得ズ。總理大臣グレングビル(Grenville)ハ、才識庸劣ニシテ、將來ヲ洞見スルノ明ナク、困却ノ

總理大臣グレングビル印紙稅賦課提出ス

餘リニ、米人ガ負擔ニ堪ユベキノ餘裕アルヲ見テ、輕率ニモ財源ヲ茲ニ得ント欲シ、三月十日此ノ議ヲ國會ニ提出ス。要証券印紙稅ヲ米人ニ課シ、彼レ等ヲシテ、國家全体ノ急務ニ應セシムルニ在リ。噫、此ノ恐ルベキ意見コソ驚天動地ノ革命ヲ起サシメタル一大近因トハナリス。

(二千七百六十三年我カ寛文三年癸卯) 四月總理大臣ピット卿、人心ノ全ク已レニ背ケルヲ悟リテ職ヲ辞シ、グレンウヰル其ノ後任ヲ襲グ。証券印紙條例ヲ發行シタルハ此ノ時ニ在リ。同六十五年我カ寛文五年乙巳七月ロツキンガム卿之ニ代リ、翌年我カ寛文六年丙午七月罷ム。是ニ於テ、グライフトン公(Duke of Grafton)ヲ以テ虛名ノ總理大臣ト爲シ、有名ナルピットハ、掌櫃官ノ名義ヲ以テ、實際ノ總理大臣タリ。然ルニ、幾モナクシテ、ピット病ニ罹リ、政ヲ執ルコト能ハズ。大藏大臣タウンゼント代リテ政ヲ執ル。同七十年我カ寛文十年庚戌一月、ノース卿、總理大臣ニ任ス。米國獨立戰ノ起レルハ、此ノ時ニ在ルナリ。猶委シクハ、後ニ至リテ知ルベシ。

然ルニ國會ハ、深ク思考ヲ費スニ及ハズシテ輕々シク之ヲ可決シケレバ、グレンヴヰル五月五日ヲ以テ、更ニ其ノ法案ヲ提出シケルニ、國會亦異議ヲ唱フル者甚少ナシ。グレンヴヰル是ニ於テ殖民地ノ各代表者ヲ召喚シテ、課税ノ旨ヲ通知シ、且ツ言ヘラク、當會期ニ於テハ、此ノ令ヲ發セザルベシ。足下等ミヅカラ之ヲ議決スルカ、又ハ或ル他ノ方法ヲ用非テ須ラク十萬磅ノ税額ヲ納ムベシト。

此ノ通知ノ米洲ニ達スルヤ、到ル處英政府ノ不法ヲ憤ラザルナク、抵抗ノ精神ハ其ノ頂上ニ達セリ。各州ノ議會ハ、異口同音ニ叫ブラク、「我が同胞ニ租税ヲ課スルノ權ハ吾人ノ外、他ニ有スルモノアルベカラズ」又論スラク、「近來英政府ガ我カ輸入品ニ租税ヲ課スルスラ、吾人ハ之ヲ以テ、我カ特權ヲ蠶食スルモノト爲ス。况ンヤ今回ノ課税ヲヤ。否、今回ノ課税ノ如キハ、吾人ノ特權ヲ蹂躪シ、吾人ヲ奴隸ノ悲境ニ陥ル、モノト謂ハザルベカラズ」ト。殖民地ノ感情既ニ斯ノ如シ、願フニ、同心一體ト爲リテ、

殖民、一同ニ
異議ヲ唱フ

以テ激シク本國政府ニ抵抗スベキハ、勢ノ免カレザル所ナラン。然レドモ、マサチユセツツ議會ノ如キハ、軟骨漢ハツチンソン(Hutchinson) マサチユセツツ州ノ副知事ナリ。後カニ英國ニ黨シタルヲ以テ、殖民ノ爲メニ斥ケラレ、英國ニ赴キテ、マロムアトニニ餘生ヲ送ル。著ハス所「マサチユセツツ州殖民地史」(History of the Colony of Massachusetts Bay)ハ、一七 一一年(我カ正徳元年辛卯)生レ、同八〇年、我カ安永九年庚子、死ス。ノ甘言ニ和グラレテ、根本的抵抗ヲ止メ、單ニ不如意ヲ理由トシテ之ヲ拒絕スルコト留マリタリ。其ノ他ヴァージニア、及び新約克以下ノ諸州モ亦拒絕ノ意ヲ決シ、各州多ク代表者ヲ英國ニ送りテ、証券印紙條例制定中止ノ儀ヲ請願セリ。名望アルフランクリン博士 本章ノ末ニ傳アリノ如キハ、ペンシルヴァニア州ノ代表者トシテ、倫敦ニ赴キ、他ノ代表者ト共ニ屢々總理大臣ニ見エテ情ヲ陳シ、辭ヲ盡シテ中止ヲ請ヒタレドモ、無情ナルグレンヴヰルハ、衰トシテ充耳ノ如ク、毫モ益スル所ナカリキ。

當時フランクリンハ、ペンシルヴァニア議會ニ書ヲ送りテ曰ク、「噫、驚クベキカナ、英人ヨ。彼レ等ハ、一人トシテ吾人ヲ臣民視シ、主權者ヲ以

テミヅカラ任セザルモノナシト。

グレング井ル
愈々証券印紙
條例案ヲ國會
ノ議ニ附ス

翌六十五年我カ明和二年乙酉二月、總理大臣グレンヅギル愈々証券印紙條例案ヲ英國議會ニ提出ス。時ニ議會ニモ二三ノ激シク反對スルモノアリ。コンウエー將軍(General Conway)メツクフナード市長(Alderman Beckford)ノ如キハ、英政府、殖民地ニ租稅ヲ賦課スルノ權ナシト論シ、パトリック大佐(Colone Pare)等ノ如キハ「英國ガ貿易ノ權ヲ壟斷シツ、殖民地ニ租稅ヲ賦課スルハ、不正ニシテ、且ツ不得策ナリ」ト論セリ。

パトリック大佐
課稅ノ不法ヲ
所以ナク

パトリック大佐ハ、癡キニ佛蘭西、印度戰ノ際、ウルフ大將(General Wolf)同戰ノ際、英軍ノ元帥ナリ。大ニ佛軍ヲ敗リ、ト共ニ戰テ功アリシ人ナリ。今ヤ衆議院送ニ全權ヲ授ス。左レド、己レハ戰死シタリ。ト共ニ戰テ功アリシ人ナリ。今ヤ衆議院議員ヲ難スルニ、殖民地ノ實況ニ明カナラザルヲ以テス。出納院長ナヤールス、タウエンセンド(Charles Townshend)論シテ曰ク「我が米洲ノ殖民ハ吾人ノ注意ニ依リテ移住シ、吾人ノ恩惠ニ依リテ成長シ、吾人ノ武威ニ依リテ保護セラレタルニアラズヤ。然ラバ、瓊少ノ費用ヲ抛ナテ

吾人ノ負擔ヲ輕クスルガ如キハ、固ヨリ其ノ當務ト謂フベク、喜デ之ヲ盡サソルベカラズ。然ルコ種々ノ口實ヲ設ケテ當務ヲ免レント謀ルハ如何ト。パトリック怒リテ答ヘテ曰ク「噫々足下ヨ。彼レ等ガ足下等ノ注意ニ依リテ移住セシトハ、ソモ何ノ囑語ツヤ。彼レ等ハ、足下等ノ注意ニ依リテ移住セシニアラズ、寧ロ其ノ壓制ニ依リテ移住セシナリ。詳ニ言ヘバ、彼レ等ハ、足下等ノ虐政ヲ恐レテ、遠ク荆棘ノ地ニ逃レ百難ニ遭ヒ、蠻夷ノ爲メニ苦メラレタリ。彼レ等ハ、足下等ノ恩惠ニ依リテ成長シタリト言フカ。否々、寧ロ足下等ガ等閑ニ附シタレバ、コソタリト言フカ。否々、彼レ等ハ、寧ロ足下等ヲ保護センガ爲メニ武力ヲ用非タリ。……」ト。

斯ノ如キ反對者ノアルニモ拘ハラズ、猶多數ノ議員ハ、議案ヲ贊成シタルガ故ニ、三月二十二日遂ニ五十ニ對スル二百五十ノ最多數ヲ以テ可

英國議會、証
券印紙條例ヲ
可決ス

決セラレ、其ノ後十日、貴族院ハ亦殆ント滿場ノ同意ヲ以テ之ヲ可決セリ。是ニ於テ殖民地ノ請願ハ、悉ク之ヲ卻下シ、證券印紙條例ハ、ジョージ三世ノ制可ヲ得テ之ヲ發表セリ。時ニ陛下ハ、瘋癲人ナリキ。

(但シ條例施行ノ期ハ十一月ナリ)

印紙條例發表ノ報、ヴァージニアニ達スルヤ、會々ヴァージニアノ議會ハ開會中ナリキ。議員ノ一人ニパトリック、ヘンリー後ニ傑ト呼ベル少壯辯護士アリ。當時米洲第一流ノ雄辯家トシテ、名ヲ遠近ニ知ラレタル人ナシ。今ヤ英政府ノ我カ殖民地ノ權利ヲ蹂躪セルヲ見テ、怒髮逆立シ、慷慨ノ言ヲ述ベテ會衆ヲ感動セシメ、議論漸ク歩ヲ進メテ「シーザー(Caesar)ニハ、ブルタス(Brutus)アリ、チャールズ一世(Charles I)ニハ、クロムウエル(Cromwell)アリ、而シテジョージ三世ト論及シ、尙語ヲ繼カントスル時「謀叛人ヨ、謀叛人ヨ」ノ叫聲各處ニ起リテ、演説ヲ妨碍セリ。是レ數名ノ英國黨議員ガ叫ビタルナリ。既ニシテ、ヘンリー更ニ語ヲ次デ言ヘラク、

ジョージ三世ニハ、此ノ覆轍ニ鑑ミザルベカラズト。

ヘンリー此ノ演説ヲ以テ議員ノ心ヲ刺衝シ、且ツ對英意見ヲ提出セリ。左レド議員ハ、悉クヘンリーノ如ク大膽ナルヲ能ハザルヲ以テ、此ノ意見ヲ緩和シ、之ヲ採用シタリ。然レドモ、英政府課税ノ權ナシト云フノ意ハ、歴然其ノ中ニ含メリ。

其ノ他ノ諸州モ亦奮起シテ對英ノ策ニ忙ハシク、就中マサチューセッツ州會ノ如キハ、六月六日ヲ以テ、檄ヲ各州ニ飛シ、來ル十月ノ第一火曜日ナ期シテ、新約克ニ總集會ヲ開キ、協同一致シテ迫害ヲ避クルノ法ヲ講セント勸メリ。此ノ招ニ應シテ新約克ニ會スルモノ九州他ノ四州ハ、議會ヲ召集スルノ困難ナリシヨリ、此ノ議熟議三週ノ末、英王陛下ニ一編ノ請願書ヲ呈シ、兩議院ニ送ニ止ミタリトシ一編ノ建白書ヲ提出スルコトニ決セリ。此ノ二書ノ要旨ニ云ク、吾人ハ、只我カ代議士ノ決議ニ從ツテ租税ヲ納ムベシ。然レモ道路遠隔セルヲ以テ、必ラズシモ英國議會ニ代議士ヲ出ダスヲ要セズ、我カ州會ノ決議ニ從

パトリック、ヘンリー、ヴァージニアノ議會ニ印紙條例ヲ論ス

ヴァージニア州會、英政府課税ノ權ヲ拒否ス

マサチューセッツ州會檄ヲ飛シテ總集會ヲ勸ム

英王ニ請願書ヲ呈シ議會ニ建白書ヲ出ス

殖民地協同聯合ノ組織

証券印紙紛來

助力令狀ニ印紙條例

ハ、足レリト。會員悉ク之ニ記名シ、之ヲ英國ニ送レリ。一説ニ云ク、只六人ノ人々ハ之ヲ州會ニ報告セリト。此ノ集會コソ殖民地協同聯合ノ權輿ト謂フヘク、他日ノ聯合議會ハ、實ニ此ノ集會ノ發達シタルモノナリ。

兎角スル間ニ、証券印紙ヲ積ミタル船舶來航シ、其ノ第一號函ハ既ニ上陸セリ。是ニ於テ人民ノ不平ハ頂點ニ達シ、波士敦ハ忽チ騷擾ノ中心ニ變セリ。是レヨリ先キ、殖民地ノ書記オリヴァー(Oliver)印紙配分ノ任ヲ命セラレシガ、八月十五日、多數ノ人々、彼レノ偶像ヲ木ニ吊シ、之ヲ絞刑ニ處スルト稱ヘ、警吏之ヲ制スルモ、更ニ其ノ命ニ從ハズ、言ヘタク、寧ロ死ストモ要求ニ應ジ難シト。黄昏ニ及ヒテ、多數ノ人々又此ノ偶像ヲ市廳ニ擲ヘ、三々ビ吶喊シテ輕蔑ノ意ヲ示シ、次ニ之ヲオリヴァーノ門前ニ擲ヘ、其ノ首（偶像ノ首）ヲ斷テ、以テ斬罪ニ處シタリト稱ヘ、門内ニ闖入シテ彼レヲ捕ヘントス。彼レ幸フシテ逃ル、ヲ得タリ。參事會依リテ暴動鎮撫ノ事ヲ民兵大佐ニ要メタルニ、大佐ハ、更ニ要求ニ應スヘクモアラズ、

是レ民兵ノ過半ハ暴動ニ加ハリタルニ由リナリ。オリヴァー恐怖震慄ニ堪エズ。其ノ翌朝ヲ以テ職ヲ辭セリ。初メオリヴァーノ職ニ在ルニ當リテ、苟クモ彼レヲ保護セント企ツルモノアレバ、暴徒ハ其ノ家ニ闖入セント脅カセシガ、今ヤオリヴァーノ後任ヲ襲ガントスルモノアレバ、亦之ヲ脅カセリ。凡ソ暴徒ガ人家ニ闖入スルノ法ヲ聞クニ、先ツ其ノ門前ニ狼火ヲ放チ、然ル後「自由及ヒ財産」ト叫ビツ、之ニ闖入シタリトゾ。暴徒ハ斯ク「乱暴」ヲ行フモ、毫モ制限スルモノナキガ故ニ、日ヲ逐フテ暴行ヲ恣ニシ。同月二十五日、收稅吏及ヒ登記吏ノ家ヲ襲ヒ、次デ知事ノ邸宅ヲ襲フ。知事既ニ逃レテ在ラズ。依リテ珍寶器財悉ク之ヲ破壊シ、延テ文庫ニ及ビ、惜ムベシ。殖民地創立以來ノ歴史ハ凡テ烏有ニ歸セリ。斯クテ暴行ハ日ヲ經ルモ止ムベキ色ナク、波士敦全市再ヒ荒野ニ變セラレシズ有様ナリケレバ、重モナル人々之ヲ憂ヒ、知事ヲ訪フテ謀ル所アリ。暴徒一切ノ罪ヲ不問ニ附スルヲ約シ、且ツ百方之ヲ慰諭シテ、始メ

米國獨立戰ノ原因

テ秩序ヲ恢復スルヲ得タリ。『新約克』於テハ、人民既ニ兵器ヲ携ヘテ、
 彼ノ印紙ヲ貯ヘタル一堡ヲ襲ハントス。司令官其ノ位置ノ支ヘ難キヲ
 察シ、州吏ノ手ニ印紙ヲ托シテ其ノ難ヲ防ケリ。其ノ他何レノ諸州ニ論
 ナク、苟クモ印紙ヲ上陸セシメタル場處ニ於テハ、多少此ノ類ノ騷擾ア
 ラザルハナカリキ。此ノ騷擾ニ連レテ、又一切英國ノ製造品ヲ廢止セシ
 トノ計畫モアリタリ。

英國内閣交迭

是ノ時ニ當リテ、英國ニ於テハ、總理大臣グレンヴヰル其ノ職ヲ辞シ、ロ
 ッキンガム侯 (Marquis of Rockingham) 其ノ後任ヲ襲グ。侯元來自由ヲ愛ス
 ル人ナレバ、殖民地ノ事務ヲコンウエー將軍ニ委ヌ。コンウエーハ、曩キ
 ニ口沫ヲ飛シテ、亞米利加ノ爲メニ辨シタル人ナリ。倫敦、リヴァプール
 マンチエスタ、バードミンガム、コウカツスル、グラスゴ、及ヒ其ノ商業
 大都會ノ地ノ市人モ亦貿易上ノ利益ヲ捨テ、請願書ヲ捧ケテ、コンウエ

英國議會對米
策ヲ論議ス

一ノ意見ヲ助ク。然レドモ内閣各大臣ハ以爲ラク。英政府ノ名譽ト權力
 トハ堅ク之ヲ維持セザルベカラズ。今若シ殖民地ノ激シキ抵抗ニ從フ
 ナラバ、恐ラクハ權力ヲ損傷セント。彼レヲ思ヒ此レヲ思フテ、困難ノ淵
 ニ沈淪セリ。グレンヴヰルハ、自由説ヲ不可トシ、論シテ曰ク。『英國ガ猶米
 洲ヲ有ツ所以ノモノハ、其ノ能ク斷乎トシテ殖民ノ要求ヲ斥クルニ由
 リテナリ。假リニ一步ヲ彼レニ讓ランカ。米洲獨立ノ端緒ハ茲ニ開クル
 ナラン。』コウゼント (Mugent) 即チ未來ノクレア卿 (Lord Clare) モ亦曰ク。
 『殖民ヲシテ嚴ニ我カ課税ノ權ヲ認メシメザルベカラズ。而シテ彼レ若シ
 印紙條例ノ爲メニ苦痛ヲ感スルナラバ、只哀訴歎願シテ其ノ廢止ヲ求
 メシムベキノミ』ト。是レヨリ先キ、有名ナル老ビット (Elder Pitt) ハ、病ヲ以
 テ久シク籠居シタリシガ、今ヤ國家ノ大事ヲ傍觀スルニ忍ビズ。強テ出
 テ、議場ニ列シ、前者ト全ク反對ノ主義ヲ執リテ、痛ク課税ノ不可ナル
 チ論シ、且ツ曰ク。『其ノ惡結果ヲ生スベキノ確証ハ、収録シテ我カ家ニ在

老ビット、殖
民ノ爲メニ辨

リ、予、若シ鈞臺ニ乘リテ、我が家ニ往復スルヲ許サル、ナラハ、携へ來リテ參考ニ供フベシト論スル所甚切ナリ。氏ハ固ヨリ立法、行政上ニ於テ、英國ノ主權者タルヲ信シ、大ノ小ヲ支配スベキヲ正當トス。然レドモ租稅ハ、モト人民ノ贈物ナレバ、政府ノ隨意ニ徵收スベキモノニアラズト云ヘリ。氏又論シテ曰ク、予ハ、却テ米人ガ抵抗スルヲ喜ブモノナリ。三千萬ノ人民若シ自由ノ何物タルヲ解セズ、徒ニ軟骨無腸ノ奴隸ノミナランニハ、其ノ他ノ人民ヲ奴隸ヲラシムベキノ機具ニ供セラル、ヤ必セリ。豈恐ルベキニアラズヤ。又曰ク、今若シ我レ直ニシテ彼レ曲ナリト假定センカ、我レ一撃ノ下ニ彼レヲ粉碎スル豈難シトセンヤ。然レドモ今回ノ事タル、直ニ彼レニ在ルヲ以テ、假令ヒ干戈ニ訴フルトモ、我レノ爲メニ危險ナリト謂ハザルベカラズ。良シヤ米洲ハ、仆ル、トモ、我カ損害ヲ蒙ルル決シテ鮮少ナラザルナリト。

ピットノ小傳

ピット(後ニチャタム伯「Earl of Chatham」)ハ、英國有名ノ政治家ニシテ、空前絶後ノ大雄辯家ナリ。一千

七百八年我カ寶永五年戊子英國コーンウォール州ホノックニ生ル。少時エトン大學ニ入りテ古學ヲ修メ、茲ニ始メテ將來雄辯家ト爲ルベキノ資料ヲ得タリ。年十八。オックスフォード大學ニ移リテ、修辭學ノ蘊奥ヲ極ム。初メ龍騎兵ノ士官タリ。然レドモ同三十五年我カ享保二年乙卯軍需ヲ去リテ衆議院議員ト爲リ、痛ク總理大臣サ

ー、ロバート、ウチルホール(Sir Robert Walpole)ノ政策ニ反對セリ。
(此ノ時、ピットハ、天稟ノ雄辯才譽ヲ振ヒテ、ウチルホールヲ辟易セシメ、ウチルホール爲メニ得意ノ鼻ヲ低クシタリシカバ、其ノ讐敵タルマールボロー公爵夫人「Duchess of Marlborough」ハ、深クピットヲ德トシ、遺産一萬磅ヲ與ヘタリト云フ。)

同四十六年我カ延享三年丙寅内閣交迭スルヤ、ピット、愛蘭會計次長、兼陸軍主計總監陸軍主計總監ノ職ハ、一七五五年(寶曆五年乙亥)マテ有テニ任シ、翌年内務大臣ニ任ス。左レド數月ニシテ内務大臣ノ職ヲ罷メシガ、同五十七年我カ寶曆七年丁丑再々内閣ニ入りテ總理大臣ニ任シ、爾來國會ニ、内閣ニ、至大ノ勢力ヲ有スルニ至レリ。之ヲ第一回ピット政治ト爲ス。氏が政務ノ要衝ニ當リテ、英史最名譽時代ノ一ツハ來レリ。是レヨリ先キ、英佛干戈ヲ交エシガ、茲ニ至リテ、英國ノ政府内部俄カニ活氣ヲ加ヘケレバ、海ニ、陸ニ、連戰連勝、敵終ニ挫折セリ。西半球ニ於テモ及ヒ東洋度度ニ於テモ、英國ノ前ニハ敵ヲ見ズ。版圖日々ニ加ハレリ。是レ即チジョージ二世(George II)ノ治世ヨリ、其ノ崩御ニ至ルマデノ英國ノ狀況ナリ。

既ニシテピット卿(Tort Bie)政權ヲ掌握シ、ピット其ノ職ヲ辭シケレバ、政治世界頓ニ面目ヲ一變シ、復

タ振フテ能ハズ。同六十三年我カ寶曆十三年癸未、英佛和ヲ締ス。左レド、英民一般ニ此ノ締和ヲ不可トセリ。是ニ於テ同六十六具我カ明和三年丙戌、内閣ノ組織變更シ、ロツキンガム侯ノ内閣倒レタルナリ、ビット再ヒ首相ニ任ジ、筆墨皆ト成レリ。之ヲ第二回ビット政治ト爲ス。其ノチャタム伯ニ叙セラレタルハ、正ニ此ノ時ニ在リ。然レドモ此ノ内閣亦組織完全ナラザルヲ以テ、同六十八年我カ明和五年戊子、復タ瓦解セリ。此ノ時ニ當リテ、英國ト、米洲殖民地トノ間ニ、葛藤久シク結レテ解ケズ。ビット、厭々雄辯ヲ振ヒ、學生ノ力ヲ盛シテ、壓制ノ不可ナルヲ論争シタレドモ、政府ハ更ニ其ノ諫ニ従ハズ。遂ニ獨逸ノ端緒ヲ開キ、英米分離ノ果ヲ結ヒタルコソ是非ナケレ。

此ノ葛藤ノ未ダ起ラザルヤ、ビットノ人望少シク凋衰セルカ如クナリシガ、茲ニ至リテ、其ノ人望頓ニ加倍シ、ビット出テズンハ、若生ヲ如何セント迄ニ叫バル、ニ至レリ。左レド、惜ムベシ、氏久シク世ニ生存スルヲ能ハズ。同七十八年我カ安永七年戊戌、四月八日、米國獨立ノ問題ヲ貴族院ニ論スルニ當リテ、卒然病ヲ起シ、翌月十一日遂ニ黄泉ノ客ト爲レリ。享年七十一歳ナリ。

ビットノ議論ハ、恰カモ良醫ノ藥石ノ如シ。回生起死ノ策之ヲ捨テ、他ニ求ムベキナシ。左レバ内閣ハ千思萬考ノ末、遂ニ印紙條例廢止案ヲ議會ニ提出シ、同時ニ又英國ハ如何ナル場合ニ於テモ殖民地ヲ統治スベキ權アルヲ主張セリ。此ノ結末ノ句頗ル主角アリ、且ツ課税ノ權モ其

英政府印紙條例ヲ廢ス

ノ中ニ含ムニ似タリト雖モ、畢竟只反對黨印紙條例ノ廢止ヲ反對スル黨ヲ慰諭スルガ爲メノ言ニ過ギザルベシ。然レドモ國會ニ於テハ、猶不可ヲ唱フルモノ多シ、議論百出ノ末、衆議院ニ於テハ、百六十七ニ對スル二百七十五ノ少多數ヲ以テ、貴族院ニ於テハ、七十一ニ對スル百五ノ少多數ヲ以テ、辛フシテ通過スルヲ得タリ。而シテ反對黨ハ言ヘラク「是レ英國ノ主權ヲ汚損スルノ舉ナリ」ト。

ハンクロフト著『合衆國史』ニ云ク。當時衆議院ハ、可否ヲ決スルニ先テ米人ノ意向ヲ明カニセント欲シ、之ヲ已レノ法廷ニ召シテ審問ス。フランクリンモ亦其ノ中ニ在リ。氏ガ智識ノ豊富ナル、證明ノ正確ナル、深ク議員ヲ感動セリ。……議員遂ニ廢止論ニ左袒セリト。

印紙條例廢止ノ報ノ殖民地ニ達スルヤ、殖民地ノ人民ハ、喜デ手ノ舞ヒ、足ノ踏ムヲ知ラズ。マサチユセツツノ議會ハ、王ニ向テ感謝狀ヲ奉ラントノ議ヲ決シ、新約克、ヴァージニア、メリーランドノ議會ニ於テハ、ビツ

米國獨立ノ原因

トノ肖像ヲ建設セントノ説行ハレタリキ。

(印紙條例ニ關スル顛末ハ右ニ記スルカ如シ。爾來殖民地ト本國トノ間ニ相續テ爭論ヲ生シ、遂ニ戰亂ヲ墮スニ至レリ。左レドソノ顛末ハ之ヲ次編ニ譲リ、左ニフランクリン、及ヒバトラー、ヘンリーノ小傳ヲ掲ゲテ、本章ノ局ヲ結バン。)

フランクリン

ベンジャミン・フランクリン(Benjamin Franklin)ハ、一千七百六年 我カ寶永三年丙戌 マサチユセツ州波士敦府ニ生ル。父ハモト英國ノリサムプトンシア州人ナリシガ、信教ノ自由ヲ享ケント欲シテ、遠ク米洲殖民地ニ移住シ、石鹼製造業、及ヒ蠟燭製造業ニ從事ス。子女十七人アリ。ベンジャミンハ、其ノ第十五ニ當リ、移住後第二十五年ニ生レタリ。夙ニ讀書ヲ好ム。故ニ宣教師ト爲サントノ目的ヲ以テ學校ニ入ラシム。然レトモ、家貧シクシテ、久シク學資ヲ給スルヲ能ハザルニ由リ、在學僅ニ二年ニシテ退キ、父ヲ助ケテ蠟燭ノ心ヲ剪リ、又ハ脂肪ヲ模型内ニ注ギ、斯

クテ又二年ヲ過シヌ。十二歳ノ時、兄ジョーナス(James)印刷業ヲ開キケレバ、ベンジャミンハ、其ノ徒弟ト爲リテ、専ラ印刷ニ從事ス。此ノ業ハ、讀書ニ縁ノ近キ者ナレバ、頗ル氏ノ性癖ニ適好シタリ。左レバ其ノ給料ヲ貯蓄シテ之ヲ書籍費ニ充テ、寸暇ヲ偷ミテ卷ヲ繕クヲ無上ノ快樂ト爲シ、續々書籍ヲ購フテ之ヲ講習セリ。氏ノ自傳(The Autobiography of Benjamin Franklin)ニ據ルニ、當時講習セシ書籍ハ、數多アレド、氏ニ最モ感動ヲ與ヘ、其ノ將來ニ大影響ヲ及ホシタルハ、プルタークノ『英雄傳』(Plutarch's Lives)及ヒ魯敏遜漂流記ノ著者デユフナー(Deloe)ノ筆ニ成リタル『計畫論』(An Essay on Projects)并ヒマサー博士(Dr. Mather) 州有名ノ神學者コトノ『善行論』(An Essay to do Good)ノ三書ナリシト云フ。フランクリン漸ク印刷ノ事務ニ熟練シ、讀書力モ亦漸ク上達シケルコゾ、更ニ進ミテ數編ノ歌曲ヲ草シ、舍兄ニ謀リテ之ヲ印刷ニ附シ、試ニ之ヲ公ニセシニ、其ノ内一編ハ頗ル喝采ヲ博シ、發賣額意外ニ多カ

リットツ。左レド偶々數年前ノ發兌ニ係レル『觀察者』(Spectator) 英國有名ノ文學者 アヤソン (Addison) 及ヒメナール (Steele) 等ノ筆ニ成リタル雜誌ナリ。兩三號ヲ得テ之ヲ通讀スルニ其ノ文章ノ巧妙ナル氏ヲシテ覺エズ快ト叫バシメシカハ氏ハ是レヨリ一切韻文ヲ廢シ更ニ散文ヲ作ルコト心ヲ專ラニシタリ。氏ノ自傳ニ據ルニ「予ガ拙劣ナル詩人ト爲ルヲ免カレシハ『觀察者』ノ賜ナリ」ト言ヘリ。

十六歳ノトキロック (Locke) 英國有名ナル哲學者 『悟性論』(Essay on the Human Understanding) ロヤル港 イサナニセツル州ニ在リ 某々著『思考術』(The Art of Thinking) 『政府論』(Treatise on Civil Government) セノフチン (Xenophon) 希臘有名ノ政治家、將軍 『ソクラテス傳』(Memorabilia of Socrates) ナ讀ミテ哲學ノ思想ヲ養ヒ、ソクラテスノ論法ヲ用ユルコトヲ習ヒ得、此ノ時ヨリ懷疑家ト爲レリ。其ノ頃、舍兄ハ、波士敦府ニ新聞社ヲ設ケテ、日刊新聞ヲ刊行シ文學ニ名アル人々數名ヲ招聘シケリ。フランクリンハ、竊カニ是レ等ノ文學者ト競争セント思ヒ立ナケレハ、先ツ一編ノ論文ヲ作リテ故サラニ平

生ノ筆勢ヲ避ケ、匿名ヲ以テ同新聞社ニ寄セシガ、讀者一人トシテ之ヲ頌讚セザルモノナカリシカバ、是レヨリ、フランクリン其ノ朋友間ニ敬重セラレ、其ノ才能ノ拔群ナルヲ感賞セラル、ニ至レリ。

是ノ時ニ當リテ、舍兄ハ、偶々新聞紙上ニ載セタル一論文ノ爲メニ罪ヲ得テ、一箇月間ノ禁錮ニ處セラレシカバ、フランクリン、暫ラシ社務ヲ代理シ、夙ル事務ヲ整頓セシメタリ。左レド舍兄ハ、本來氏ヲ友愛スベキ筈ナルニ却テ其ノ伎倆ヲ妬ミ、兎角氏ノ進路ニ障礙ヲ與ヘシカバ、止ムヲ得ズシテ彼レト分離シ、瑣少ノ金ヲ懷ニシテ費府ニ赴キ、印刷家ケーマー (Keimer) ノ店ニ僱ハレテ印刷ニ從事シ、豫テ相愛スルリッド嬢 (Miss Read) ト婚ヲ結ビヌ。

結婚ノ後、英京倫敦ニ赴キテ職業ヲ求ム、然レトモ眞ノ孤立單行ニシテ一人ノ朋友ナク、一人ノ共ニ謀ルベキモノナケレバ、先ツ印刷家パルマー (Palmer) ノ店ニ一時傭ノ職工ト爲リテ職ニ就キ、又其ノ囑託ニ

應シテ國立教辨妄ヲ著ハシ、ニ頗ル世人ノ喝采ヲ博シ、同店ノ信用ヲ得タリ。此ノ時氏ハ例ノ如ク非常ノ節儉ヲ行ヒ、他ノ職工ガ麥酒ノ爲メニ、毎週一圓二十五錢乃至一圓五十錢ヲ費ス中ニ在リテ只水ヲ飲ミ、又常食トシテハ粥ヲ啜リ、若クハ焙麵包ブレイパン又ハ瑣少ノ乳油ミルクヲ用ヰ、而シテ同輩ノ爲メニ『亞米利加水族』ト嘲ラル、チモ厭ハザリキ。斯ノ如ク、一方ニ於テハ非常ノ儉約ヲ行ヒツ、又一方ニ於テハ其ノ植字ノ極メテ迅速ナルト、其ノ勉強不屈ナルトニ由リテ僱主ニ信任セラレ、最モ急速ヲ要スル事業、又ハ最モ精好ヲ要スル事業ハ、凡テ一手ニ引キ受クルコト爲レルニツ、久シカラズシテ若干ノ金錢ヲ貯蓄スルヲ得タリ。

倫敦ニ在ルコト一年半ニシテ再ヒ費府ニ歸リ、ゲーマールノ店ニ僱ハル此ノ時、フランクリンハ、社務ヲ管理シ、ミヅカラ墨汁インクヲ製造シ、傍ラ五名ノ門弟ヲ教フルナド、所謂『萬能家』ユニバーサリストナリキ。氏曰ク、當時米洲ニハ、一人

ノ鑄字師ナカリシヲ以テ、活字ノ不足スル毎ニ、予ハミヅカラ之ヲ製シタリト。管ニ之ノミナラズ、コウ、ワヤトセ州ヨリ紙幣印刷ノ事ヲ託セラレシカバ、氏ハ直ニ銅版印刷機ヲ造リ、且ツ種々ノ裝飾ト、花飾文字トヲ彫刻セリ。米洲ニ於テ銅版印刷機ヲ造ルハ、之ヲ嚆矢ト爲ス。一千七百三十二年我カ幕保十是レヨリ先キ、氏ハ、ゲーマールト分離シ、獨立シテ印刷業ヲ開キ、新聞紙ヲ發行シケルガ、茲ニ至リテ、有名ナル『プリア、リチャヤーズ、アルマナツク』Richard's Almanackノ名ヲ發行ス。此ノ雜誌ハ、二十五年ノ間連續シタルモノニシテ、其ノ中ニ載セタル俚諺ノ如キハ、彼ノ國ノ俗間ニ普チク流布スルニ至レリ。今其ノ重モナルモノヲ左ニ掲グ。

汝ハ生命ヲ愛スルカ。然ラハ時間ヲ浪費スルコト勿レ。時間ハ生命ヲ造ル元素ナリ。時間チ一タビ失ヘバ決シテ恢復スルコト能ハズ。吾人ハ、常ニ充分ニ時間アリト云フモ、時ニ臨ミテ充分ニ少ナキヲ悟ルナリ。

米國獨立ノ原因

助力令狀印紙條例

時間果シテ萬物中ノ最モ貴重ナルモノナラバ、之ヲ浪費スルハ、浪費ノ最モ大ナルモノト謂ハザルベカラズ。

器具ヲ執ルルハ、手套ヲ脱セヨ。手套ヲ着ケタル猶ハ、鼠ヲ捕ヘザルヲ思ヘ。事業ヲ驅使セヨ。事業ニ驅使セラレト勿レ。

(他ハ略ス。羽化生著ハス所ノ「國民飭戒」等ニ就テ見ルベシ。)

一千七百六十五年 我カ明和二年乙酉 フランクリン再ヒ倫敦ニ赴キ、數年ノ間同地ニ足ヲ駐ム。然ルニ英國政府ハ、此ノ年ヲ以テ、彼ノ惡ムベキ印紙條例ヲ發行シ、痛ク米洲殖民地ヲ窘メケレバ、殖民地十三州ノ人民ハ、大ニ其ノ不法ヲ怒リ、激昂一ト方ナラズ。氏ハ英國ニ在リテ、自國ノ爲メニ畢生ノ力ヲ竭シ、遂ニ政府ヲシテ翌年ヲ以テ之ヲ廢セシメタリ。然レドモ爾來英國政府ハ、益々壓制苛虐ノ法ヲ實施シ、マカ殖民地ノ人民ハ頻リニ抵抗ヲ試ミ、兩國ノ間ノ爭論益々烈シキヲ加ヘシカバ、氏ハ到底道理ノミニニ訴ヘ難キヲ察シ、遂ニ本國ニ歸リテ、自由代議士オピニオンノ中ニ加ハレリ。氏ハ英國ニ留マルト十年ナリキ。

氏カ歸國ノ途ニ就クヤ、尙船中ニ在ルニ當リテ、既コレキヤメントンノ戰爭破裂シ、全國鼎沸ノ勢ヲ爲シヌ。左レバ國ニ歸ルヤ否ヤ、一千七百七十五年 我カ安永四年乙未 五月六日ヲ以テ、大陸聯合議會ノ議員ニ選ハレ、ワフア別ニ傳アリ、リソン別ニ傳アリ、ジョン、アマムス上、ロウヤ、シヤ、アマン同、ロバート、アル、リザ、ギングストン同ト共ニ有名ナル獨立ノ檄文ノ編纂委員ト爲リ、他ノ五十四名士ト共ニ、生命財産ノ危險ヲ冒シテ之ニ記名關印シタリ。

氏ハ固ヨリ、政治家ニシテ、軍人ユアラザルガ故ニ、革命戰ノ間、内ニ居リテ專ラ文事ヲ司レリ。今其ノ重モナルモノヲ舉レバ、(第一)新政府第一ノ方策、即チ所謂「十三州盟約」ノ條款ヲ草スル事、(第二)ペンシルヴァニア氏ノ居地ノ防衛ノ爲メニ民兵ヲ募集スル事、(第三)遞信大臣ノ司ルベキ職務ヲ負擔スル事、(第四)華盛頓ノ陣營ヲ訪フテ相共ニ百般ノ機務ヲ談合スル事等是レナリ。

戰爭第二年^{一七七一}末ニ、或ル大國ト好チ通シ、其ノ助力ヲ仰グノ必要ニ迫リケレバ、氏ハ使命ヲ帶ビテ佛國ニ赴ク。此ノ時佛國政府ハ、已レ若シ氏ノ要求ニ從ハ、英國ノ感情ヲ傷ケンコト恐レテ、狐疑躊躇シタリ。然レドモ、氏ハ既ニ英國オツクスフナード大學ヨリ法學博士ノ學位ヲ受ケ、學者トシテ、政治家トシテ、發明者トシテ、歐羅巴全洲ニ雷名ヲ轟カシタルノ身ヲ持チナガラ、氏が學位ヲ受ケシハ、此氣ノ發明ヲ以テ雷名ヲ轟カシタルニ由リナリ。其ノ事ハ、後文ニ述ブベシ。佛國人民ニ對スルニ謙遜遜讓ヲ旨トシ、宛ナガラ平々凡々タル一殖民ノ如ク、殊ニ矍鑠トシテ壯者モ及バザルホドノ勇氣ヲ存スルサマハ、七十餘歲ノ老人トハ思フベクモアラザリシカバ、佛國ノ官民遂ニ深ク感動セラレ、其ノ需ニ應シテ米洲ト條約ヲ結ビ、且ツ其ノ應援トシテ軍艦十七艘、陸軍四千人ヲ同地ニ送り、デスタン伯(D'Estains)ヲシテ指揮ノ任ヲ司ラシメリ。合衆國カ獨立國ト爲ルヲ得タルハ、此ノ一舉ニ在リト謂フモ不可ナカルベシ。左レバ、フランクリンノ功ハ、決シ

テ華盛頓ノ下ニ在ラザルナリ。

媾和ノ後、氏ハジョン、アマムス^{別ニ傳アリ}、ジョーン、マエー^{同トマス、マフア}、ソノ上ヘンリ、ローレンス^{同ト共ニ英國ト平和ノ條約ヲ結ビ、氏又}普國ト條約ヲ結ブ。此ノ普米條約ノ中ニハ、捕拿船^{戰時敵國ノ通商ヲ妨ケンガ爲メニ敵船ヲ捕フベキ權利ヲ有スル私船ヲ禁ズルノ條項ヲ挿入シタリ。華盛頓之ヲ評シテ曰ク。此ノ條約ハ、國ト國トノ談判上ニ一新面目ヲ生セリ。蓋シ古來獨立國互相ノ}間ニ締結セシ條約中ノ最モ寛大ナルモノナリト。

フランクリンガ使命ヲ全フシテ米國ニ歸ルヤ、貴賤貧富爭フテ氏ヲ歡迎シ、敬意ヲ表シタリキ。歸國ノ後、僅ニ一月ニシテ、ペンシルヴァニア州會ノ議長ニ選ハレ、合衆國憲法制定會開クルニ及ビテ、マタ其ノ會員ニ選ハル。此ノ時ニ當リテ、各州選出ノ會員互ニ自家ノ意見ヲ固執シ、議論區々ト爲リテ、到底一定スベキノ期ナキガ如シ。是ニ於テ、フランクリンハ、毎日開會ニ先ナテ必ラズ祈禱會ヲ開キ、神慮ヲ仰グベ

シトノ議ヲ呈シ、遂ニ其ノ議ニ決セシメ、是レヨリ議事頓ニ圓滑ヲ致シ、和氣洋々ノ間ニ議局ヲ結ベリトゾ。是レ亦氏ノ功トコソ謂フベケレ。

是レヨリ先キ、フランクリン五十歳ニシテ始メテ物理學ヲ修メ、而シテ其ノ晩學ニモ拘ハラズ、一ニハ天稟ノ才ニ由リ、又一ニハ勉強不屈ノ功ニ由リテ、電氣ニ關スル一大發明ヲ爲シ、以テ後世ヲ益セリ。今其ノ發明ニ就テ簡單ニ述ブヘシ。

抑モ往昔ハ電氣ノ性質ヲ詳ニスルモノナク、只ミレタスノセリズ (Thales) ト云ヘル人^{希臘ノ哲學者}琥珀ヲ摩擦スルキハ、他ノ物体ヲ吸引スルノ力ヲ生スト云フヲ發見シタルノミ。降リテ近世ニ至ルマデ、學者皆宇宙萬物ノ中ニ電氣ヲ導クモノト、導カザルモノアリト誤想シ、而シテ萬物ハ悉ク導體ナル事、并ニ只之ヲ導クニ多少ノ度アルヲ知ラ

ザリキ。佛國ノ電氣學者デユ、フエー(DuRoi)ノ如キハ、始メテ電氣ハ極微ノ流体ニシテ、最モ堅實ナル物体ニモ浸入スト説キ、且ツ之ニ二種アリトノ説ヲ唱ヘテ言ヘテク。一ハ多ク玻璃ヨリ發生スルガ故ニ、之ヲ玻璃質電氣ト名ケ、一ハ始メテ樹脂ヨリ發生シタルヲ知レルガ故ニ、之ヲ樹脂質電氣ト名ク。而シテ二者共ニ元素ニシテ、且ツ同種ノ分子互ニ相反衝シ、好テ異種ノ分子ヲ引クモノナリト。然レトモ、デユ、フエーモ猶未タ電氣ハ萬物ノ具有スル所タルヲ知ラザルナリ。フランクリン出テ、始メテ其ノ萬物ニ在ラザルナキヲ發見シ、殊ニ其ノ只一種ノ元素タルヲ知レリ。氏曰ク、電氣ハ宇宙間ニ散在スル單一ノ流体ニシテ、有機無機ノ物体多少皆此ノ氣ヲ包含セザルハナシ。然レドモ平素靜止ノ狀況ニ於テハ、其ノ存在ノ徵候ヲ呈ハサザルナリト。此ノ理論ニ據ルキハ、電氣ノ發動スルハ、摩擦物ト被摩擦物トノ含メ、ル電氣ノ分量ニ多少ノ差アルヨリ起ルモノナリ。而シテ氏ハ、電氣ノ

稍々多クシテ、此レヨリ彼レニ溢ル、チ積極ト名ケ、稍々少ナクシテ彼レヨリ此レニ受クルヲ消極ト名ケ。電氣ニ積極消極ノ名アルハ氏ヨリ始マレリ。

初メ蘇國ノ電氣學者スベンズ博士(Dr. Spence)ト云ヘル人、波士敦ニ來リテ氏ニ或ル電氣上ノ試験ヲ示シケレバ、氏ハ且ツ驚キ、且ツ喜ヒテ爾來益々其ノ研究ニ心ヲ潜メ、且ツ其ノ發明ノ原因ニ就テ、ミヅカラ問チ起シテ曰ク、電氣ハ起電体ヲ摩擦スルヨリ、其ノ中ニ發助スルモノカ、將タ摩擦ノ際、他ヨリ傳ハリ來レルモノカト。此ノ問題ヲ決定セシメ、ソノガ爲メニ、自己ノ身体ニ電氣ヲ引キ、之ヲ起電体ヲラシメント勉メリ。然ルニ電氣ヲ自己ノ身体ニ引クハ固ヨリ容易ナレド、之ガ爲メニ其ノ身、發電体ト爲リタルノ徵候ヲ呈ハサズ。猶相續テ試験ヲ行ヒタルノ末、遂ニ左ノ原理ヲ確知シタリ。

電氣ノ分子ハ物質ヲ引クト雖モ、分子ト分子トハ、互ニ相反衝スル

ナリ。

但シ物質ノ分子モ亦互ニ相反衝シ、而シテ電氣ヲ發動スルナリ。

茲ニ例ニ由リテ之ヲ簡説セン。兩箇ノ物体アリ。其ノ儘ニ置クキハ其ノ物体ヨリ電氣ノ逃レ去ルベキヤウナシ。左レハ物質ノ量ト電氣ノ量ト正サシク相平均シ、兩物体ノ中ニ存スル力モ亦相平均スルヲ以テ互ニ相引クコトナク、又相反衝スルコトナシト雖モ、今若シ手若クハ乾燥シタル絹片ヲ以テ是レ等ノ兩物体ノ其ノ一——蠟製ノ棒、若クハ玻璃ノ圓筒——ヲ摩擦スルキハ、電氣ノ量漸ク増加スルヲ以テ、之ニ導子ヲ觸レシムルヤ否ヤ、此ノ増シタル部分ハ、直ニ導子ニ傳ハルベシ。蓋ニ然ルノミナラズ、斯ク電氣ヲ發セル物体ハ、其ノ電氣充滿シタルニ由リ、他ノ物体ノ最モ接近セル端ヨリ、其ノ電氣ノ一部ヲ反衝シ、之ヲシテ消極電氣ヲラシムルナラン。乙体ノ電氣既ニ消極ト爲ルヤ、此ノ体ハ忽チ吸引力ヲ加フルガ故

三、甲体ヲ已レノ方ニ引クベシ。斯クテ甲乙兩体相會スル時ハ、甲ニ於ケル餘剩ノ電氣ハ、乙ニ流傳シ、而シテ兩体共ニ過度ノ電氣ヲ有スルニ至ル。故ニ其ノ結果トシテ兩体互ニ相反衝スベキナリ。フランクリン既ニ以上ノ試験ニ好成績ヲ得タリシカバ、更ニ進ミテ雷電ハ電氣ト同一物ナリヤ否ヤヲ確定セント欲シ、專ラ意ヲ此ノ點ニ注ギヌ。氏以爲ラク、尖体ハ電氣ヲ引衝スルノ力非常ニ強シト。然レドモ其ノ何故ニ然ルヤヲ知ラズ。只想像スラク、予ガ確知スル原則ニ據レバ、必ラズ斯ク推斷セザルヲ得ザルナリ。何トナレバ、此ノ原則ニ據レバ、電氣ノ分子ハ、互ニ相反衝スルガ故ニ、一方ニ於テハ餘剩ノ分子ヲ物体ノ内部ヨリ外部ニ驅逐シ、次テ又尖端若クハ其ノ他隆起シタル部分ニ驅逐シ、遂ニ此ノ部分ヨリ非常ノ力ヲ以テ逃レ去ラザルヲ得ザラシムルニ、又一方ニ於テハ、尖体ハ電氣ヲ中心ニ引クノ力、扁体ヨリモ強ケレバナリト。氏又以爲ラク、此ノ想像ハ、亦之ヲ雷電ニ應

用スルヲ得ベキヤ否ヤハ今未ダ明ナラズ。然レトモ其ノ他ノ諸點ニ於テ、電氣ト雷電ト相符合スルヨリ推スルハ、願フニ亦相符合スルナラント。早晚其ノ如何ヲ確知セント思考シケルニ、恰モ好シ、費府ニ一尖塔建設セラル、ノ期近キニ在リケレバ、竊カニ指ヲ屈シテ其ノ竣功ヲ待チタリキ。一日偶々童子ガ紙鳶ヲ揚グルヲ見テ以爲ラク。此ノ紙鳶コソ予ガ試験ニ供スベキ、屈竟ノ品ナラント。乃チ絹製ノ大手巾ヲ執リ、之ニ二箇ノ條ヲ張リテ骨ト爲シ、サテ雷雨ノ日ヲ待チ、近郊ニ出テ、小舎ノ傍ニ於テ、此ノ自製ノ紙鳶ヲ高ク空中ニ飛揚セシメタリ。實ニ一千七百五十二年^{我カ寶曆二年壬申}六月ナリ。雖テ空中ニ飛揚スルヤ、其ノ系^{紙條}ノ下端ニ鍵ヲ結ヒ付ク、又絹糸——即チ電氣ノ不導體タル絹糸——ヲ以テ此鍵ヲ柱ニ結ヒ付ケ、斯クテ、氏ハ小舎ノ内ニ入りテ、其成績如何ト窺ヒシニ、少遷アリテ、今迄弛ミ居リシ紙鳶ノ系^{即チ麻糸ハ俄カニ直立スルノミカ、宛ナガラ電氣ヲ含ミタルガ爲メニ、相互ニ相反衝ス}

ルガ如キノ觀相ヲ呈セシニゾ、氏ハ直ニ我が指節ヲ鍵ノ傍ニ差出セ
ルニ、鍵ハ果シテ電火ヲ發シタリ。左レバ、流石謹直無二ノフランクリ
ンモ、我が名ノ不朽ニ傳ハルベキヲ信シテ、思ハズ歎聲ヲ發シテ喜ビ、
予ハ今死スルモ遺憾ナシトノ感ヲ起セリト云フ。

爾來氏ハ雷電ヲ我が家ニ引キテ、電氣ニ關スル種々ノ試驗ヲ行ヒ、遂
ニ前記ノ發明ヲ實地ニ應用シテ、避雷針ヲ發明シタリ。此ノ發明ノ始
メテ世上ニ流布スルヤ、全歐理學社會ノ眼ハ一ニ此ノ機械ニ注ギ、甲
譽メ、乙駁シテ、殆ント際限ナキガ如クナリキ。既ニシテ議論ニ議論ヲ
盡シ、試驗ニ試驗ヲ累テタルノ末、遂ニ氏ヲ大發明者ノ列ニ加フル
トハ爲リヌ。

一千七百九十年^{我カ寛政二年庚戌} フランクリン病ヲ没ス。享年八十四歳。噫々氏
ノ如キハ、眞ニ不世出ノ人傑ト謂フベク、眞ニ後進ノ好模範ト謂フベ
シ。貧賤ノ家ニ生レテ、夙ニ刻苦勉勵ヲ以テ身ヲ立テ、名ヲ顯ハシ、學問

ニ、政治ニ、徳義ニ、古今ニ擢テ、身ヲ利シ、自國ヲ利シ、併セテ天下後世ヲ
利セリ。豈偉ナラズヤ。
(フランクリンノ傳ハ、羽化生著「萬國發明家列傳」ニ據ル。)

パトリック、
ヘンリー

パトリック、ヘンリー(Patrick Henry)ハ、一千七百三十六年^{我カ元文九年丙辰} ヲ
ジョア州ニ生ル。幼時學校ノ束縛ヲ嫌忌シ、讀書ノ煩ハシキニ堪ヘズ、
修業ノ時間來レバ、釣具ヲ携ヘテ、寂寥タル溪流ノ上ニ光陰ヲ空シフ
シ。若クハ山野ニ出テ、狩獵ニ奔走スルヲ常トス。故ニ教育ノ程度甚
低ク、僅ニ希臘語羅旬語ノ初步ニ達シ、數學ノ門戸ヲ窺ヒタルニ過ギ
ズ。然レモ人ト爲リ、聰敏ニシテ、概括ノ力ニ富ミ、懸河ノ辨、萬人ニ超絶セ
ルヲ以テ、教育ノ不足ヲ補フテ餘リアリタリ。年十八、妻ヲ娶リ、商業ニ
従事ス。左レド損益相償ハザルニ依リ、止メテ農業ニ従事ス。亦利スル
所アラズ。是ニ於テ法律ノ書ヲ繕キ、之ヲ修ル。六週忽チ辯護士トシ

米國獨立戰ノ原因

テ社會ニ現ハレ、慧眼以テ世態人情ノ機微ヲ研究シテ得ル所甚多シ。』
 一千七百六十三年^{我カ寶曆十三年癸未}十二月、ヴァーシニアニ於テ、英王ノ特權ト、
 立法官^{州ノ立}ノ職權トノ間ニ、始メテ衝突ヲ來セリ。抑モ同州ニ於テハ、
 久シク烟草ヲ以テ流通媒介物トシ、法律ノ認ムル所ナリキ。然レドモ
 往々戦争、又ハ不作等ノ事アリテ、不便少ナカラザルカ故ニ、立法官ハ、
 更ニ金錢ヲ以テ之ニ代用スルヲ許シ、烟草一封^{ポンド}ニ付、二片^{ペンス}ノ割合ヲ
 以テ通用セシムルコト爲セリ。左レバ一般人民ハ、頗ル便利ヲ得テ喜
 ビシガ、獨リ國立教會ノ僧侶ハ、已レ等常ニ年給トシテ、烟草ノ定額ヲ
 受領スルガ故ニ、今回ノ法律ヲ不便トシテ、甚不服ヲ懷キ、倫敦僧正シ
 ヤーロツク(Sherlock)ノ手ヲ經、王ニ請フテ此ノ法ヲ無効ヲラシメタリ。
 是ニ於テ、ヴァーシニアノ一僧モリーリー(Marty)ハ、損害要償ノ訴ヲ起シ、
 烟草ノ時價ト、其ノ立法官ガ定メタル價(即チ一封ニ付二片)トノ間ノ
 差ヲ償ハレシコトヲ要ム。蓋シ此ノ訴ヤ、遂ニ之ヲ視ルルハ、瑣々タル訴

ニ似タリ。然レドモ細ニ之ヲ考察スルルハ、重大ノ訴ト謂ハザルベカ
 ラズ。何トナレバ、其ノ勝敗ハ、則チ人民ノ權利ト、王ノ特權トノ勝敗ナ
 レバナリ。パトリック、ヘンリー時ニ年紀僅ニ二十七。尙無名人ナリ。
 然レドモ適々其ノ雄辯ヲ知レル人アリテ、之ヲ勸メケレバ、氏遂ニ人
 民ノ辯護士トシテ法廷ニ現ハレタリ。
 法廷ノ開クルヤ、苟シモヴァーシニアノ人民タラザモ、一人トシ
 テ其ノ勝敗如何ヲ掛慮セザルハナク、傍聽席ハ非常ノ雜沓ヲ極メタ
 リ。モリーリー、陪審ノ召喚ヲ拒ミテ言ヘラク。無智ノ凡俗焉ソ信ヲ置ク
 ニ足ラン。ヘンリー言ヘラク。否々、彼レ等ハ、凡テ誠實ノ人ナリ。宜シク
 之ニ陪審ヲ命スベシト。判事ハ、ヘンリーノ意見ヲ容レテ、陪審ヲ命セ
 リ。ソモヘンリーノ地位タルヤ、取モ直サズ、王ト相對峙スルモノナレ
 バ、甚不便ノ地位タリ。然レモ、ヘンリーハ、毫モ屈スル色ナク、例ノ懸河
 ノ辯ヲ振テ、殖民地ヨリ發シタル法ノ正當ニシテ有効ナルヲ論シ、

ア、シニア州ガ王ト國會英國ノ國會トニ關係ナク、自家ノ法律ヲ制定シ得
 ベキヲ説キ、又此ノ法ノ正理ヲ稱ヘルヲ証シ、次ニ民ノ父母ト稱スベ
 キ仁君ノ性行ヲ述ヘ、而シテ最後ニ断定スラク、凡テ善法良律ヲ無効ト
 スル王ヲ虐主ト謂フ。虐主ハ、民ノ爲メニ服從セラル、ノ權利ヲ失ヒ
 タルモノナリト。

(羽化生曰ク、孟子、齊宣ノ問ニ答フル湯武論ニ似タリ。倫理、快稿。)

此ノ時、反對黨ハ、ヘンリーヲ目シテ『謀叛人』ト唱ヘ、傍聴人ノ中ニモ亦
 『謀叛人々々々』ト叫ブモノ四五名アリタリキ。ヘンリー尋テ英王ガ殖
 民地制法ノ事ニ與カルノ權ナキヲ論シ、陪審亦僧侶ノ要求ニ應スベ
 カラサルノ判決ヲ爲シテ、茲ニ論局ヲ結ヒヌ。
 ヘンリーノ此議論ハ、獨リヴァア、シニア州ニ應用スヘキノミニ止
 マラズ、兼テ殖民地全躰ニ應用スベキガ故ニ、各殖民地ハ漸ク之カ
 爲メニ感情ヲ喚起セラレ、獨立戰ノ基礎漸ク固キヲ致セリ。

同六十五年我カ明和二年巳酉英政府ガ印紙條例ヲ發布スルヤ、ヘンリー、ヴァー
 ジニア州會ニ於テ痛ク之ニ抵抗シ、輿論ヲ刺衝シタリ。本文既述ベ
 タルガ如シ。

同七十四年我カ安永三年甲午大陸聯合議會始テ費府ニ開ケ、殖民地第一流ノ名
 士多ク之ニ會シ、ヘンリー亦其ノ中ニ在リ。偶々英將後ニ詳ナリ波士
 敦ヲ砲撃シタリトノ浮説、費府ニ達シケレバ、其翌朝、開會ノ式ヲ行フ
 ニ際シ、彼ノ風評全ク無根ナリシ事ノ既ニ明白ト爲リタルニモ拘ラ
 ズ、議員ノ苦慮オノツカラ其容貌ニ顯ハレタリ。席定マリ、開會ノ祈禱
 既ニ畢ルヤ、ヘンリー徐カニ起テテ、一場ノ演説ヲ述ブ、而シテ發言ノ
 當初ハ、問題ノ重大ナルニ連レテ稍々遅々タリシガ、漸ク佳境ニ入ル
 ニ從テ、其ノ辯舌宛ナガラ、江河ヲ決スルガ如ク、縱横自在ニシテ、更ニ
 淀々所ナカリキ。

(ハンクローフトハ、之ヲ評シテ人間以上ノ演説ト言ヘリ。)

ヘンリー此ノ演説ニ於テ述ブラク。英國ノ壓制ハ殖民地ヲシテ遠近大小悉ク團結シテ一體同身ト爲ラシメタリ。故ニ自今ヴァージニア人、ペンシルヴァニア人、新約克人、新英蘭人ト言フガ如キ區別ハ一切アルベカラズ。予ハヴァージニア人ニアラズ、亞米利加人ナリト。演説畢ルヤ、議員ハ氏ガ雄辯ノ無双ナルニ驚キ、其ノ議論ノ公明正大ナルニ感動セラレタリ。

同七十五年我が安永四年乙未四月、米人始メテ英軍トレキシントンニ戰フ。時コ

ヘンリーハ、華盛頓別ニ傳アリシフアーンソン同ランドルフ同ハミルトン同

等ト共ニ革命黨ノ領袖ナリキ。是レヨリ凡ソ一ヶ月前、即チ同年ノ三

月、ヘンリーハ、ヴァージニア州會ニ於テ左ノ演説ヲ試ミタリ。有名ナル

『予ニ自由ヲ與ヘヨ、否ラザレバ、死ヲ與ヘヨ』ノ演説是レナリ。

議長閣下 凡ソ空シキ望ノ爲メニ感ハサルハ、人性ノ常ナレバ、原文ヲ直譯スレバ、凡ソ希望ノ幻影ニベキ處。兎角人ハ雄義ナル真理ヲ等閑ニ附シ、シーレンメ(Sirene)ノ歌ニ耳ヲ傾ケ、心ヲ奪ハレテ、已レガ身

ノ獸ニ變セラル、ヲモ悟ラザル、ナキニアラズ。(羽化生曰ク。シーレンハ、希臘神代紀ニ在ル三箇ノ海洋

女神ナリ。一チアグロフ(Agirope)ト云フ、二チピシノー(Pisnoe)ト云フ、三チセルキシエロフ

(Thekopia)ト云フ。一説ニ、一チバセノーフト名ケ、二チリツニアト名ケ、三チリウコ、四チ里近傍ノ一

小島ニ住ス。其ノ音聲極メテ美シク、聽ク者感賞ノ餘リニ恍惚トシテ心ヲ奪ハレ、遂ニ餓死スルニ至レリトゾ。茲處ニテハ、マトイツク、ヘンリー、古事ヲ假リ來リテ、人間報ホスレバ、空望ノ爲メニ感ハサル、

是非ノ所在ヲ誤ルニ至リ易キヲ説クナリ。然カハアレド、斯ノ如キハ、自由ノ爲メニ努力シ、自由ノ爲メニ奮戦スル智者ノ爲スベキ所ナランヤ。彼ノ眼ヲ持チナガラニ、已レガ現世ノ濟度ト密着ノ關係アル事物

ヲ見ズ、耳ヲ持チナガラニ之ヲ聞カザル輩ノ如キハ、吾人ノ甘シテ齒スベキモノナランヤ。予ノ一身曰

一言ハバ、予ハ真理ノ全部ヲ知悉セント欲スルガ故ニ、之ヲ知悉スルガ爲メニ、如何ニ精神ヲ苦ムルトモ、之ヲ厭ハザルナリ。——最モ惡シク、不便ナル真理ト雖モ、之ヲ知リテ防禦ノ策ヲ施サント欲スルナリ。

抑モ予ニハ、只一箇ノ燈火アリテ予ヲ照導ス。一箇ノ燈火トハ何ソヤ。經驗ノ燈火是レナリ。願フニ將來ヲ慮ラント思ハハ、既往ニ鑑ムルノ外アルベカラズ。既往ヲ捨テ、他ニ鑑ムベキ者アリト云フハ、予ノ知

ラザル所ナリ。サテ予ハ既往ニ鑑ミテ、最近十年間ニ於ケル英國内閣ノ動靜ヲ察スルニ、彼ノ紳士内閣等ガ已レ等ヲ慰メンガ爲メニ、將々英國議會ヲ慰メンガ爲メニ、行フタル事項ニ於テ是認スベキモノアリ

シヤ否ヤ。予ノ見ル所ニテハ、一モ是認スベキモノナカリキ。若シ之アリキト云フ人アラバ、予ハ其ノ人ニ就テ其ノ理由ヲ札サント欲スルナリ。夫レ斯ノ如シ。然ルニ近日内閣ガ我レ々々ノ請願ヲ受理シタルハ實ニ怪ムベシ。或ハ我レ々々ヲ欺カンガ爲メニ、伴リテ微笑ヲ含メルニハアラサルカ。果シテ然ラハ、諸君請フ容易ク信スルコト勿レ。恐ラクハ閣奎ニ掛ケラレン。諸君ヨ。彼レ等ノ甘言(直譯スレハ接吻)ニ欺カル、コト勿レ。ミソカラ心ニ問ヘ。彼レ等ガ斯クモ懇ニ我レ々々ノ請願ヲ受理シタルハ、必定我カ米洲ノ天地ヲ黠淡タラシムベキ戰爭ノ準備ニハアラザルカト。噫々海陸軍豈親愛和樂スルニ必要ナランヤ。ソモ我レ々々ハ飽ク迄モ腕力ヲ斥ケ、平和ヲ保タント期スルナリ。左ルニ彼レ等ノ舉動ハ右ニ述アルガ如シ。警戒セザルベケンヤ。

諸君。海陸軍ハ交戦征服ノ器具ニシテ、世ノ帝王タルモノガ依頼スベキ最後ノ談判ナルコトヲ注意セラレヨ。予ハ敢テ諸君ニ問ハン。英國ガ今回軍隊ヲ送り越セル目的ハ、若シ我レ々々ヲ屈服スルニアラズト爲サバ何ノ爲メナリヤ。予ハ其ノ理由ヲ見出スニ苦シムナリ。否、諸君ト雖モ、恐ラクハ見出し能ハザルベシ。且タ大不列顛國ハ、今此ノ米洲ニ無敵ノ海陸軍ヲ派遣セザルヲ得ザルホドノ如何ナル敵アリヤ。願フニアラザルベシ。然ラバ彼ノ海陸軍ハ、我レ々々ニ敵對セシムルガ爲メナラザルヲ得ンヤ。彼レ等ハ、英國內閣ガ久シク鍛錬シツトアリタル鐵鎖モヲ我レ々々ヲ緊シク束縛センガ爲メニ送り越セルモノナリ。

而シテ我レ々々ハ、如何ナル手段ニ由リテ之ヲ禦グベキヤ。或ハ議論ニ脈ヘンカ。諸君。議論ハ、最近十年間屢々之ヲ試ミタルニアラズヤ。然ラバ他ニ用ユベキ新手段アリヤ。否々最早用非盡シタリ。我レ々々ハ手段ノ有ラン限リヲ用非タレドモ凡テ寸効ナカリキ。我レ々々ハ諸君ヲテ嘆願センカ。既ニサマ々々ノ言語ヲ用非盡シタルヲ如何セン。

諸君ヨ。予ハ切ニ望ム。最早ミソカラ欺クコト勿レ。諸君ヨ。我レ々々ハ、今將ニ來リツトアル彼ノ暴風雨ヲ避ケント欲シテ百方手段ヲ盡シタリ。我レ々々ハ請願シタリ。リモンズツレツツド 争フタリ。嘆願シタリ。王座ノ前ニ俯伏シ、畏クモ陛下ガ内閣及ヒ議會ノ仲裁者ト爲リ給ヒテ、其ノ壓制ノ手ヲ捉ヘラレンコトヲ懇願シ奉リタリキ。左ルニ、我レ々々ノ請願ハ蔑視セラレ、我レ々々ノ論争ハ、適々彼レ等ノ亂暴侮辱ヲ増シ、我レ々々ノ嘆願ハ、墜テ、顧ミラレズ。而シテ我レ々々ハ、玉座ノ下ヨリ激返サレタリ。

從來ノ事既ニ斯ノ如シ。此ノ後如何ニ平和親睦ヲ望ムトモ、到底無益ナルベク、最早望ヲ風スベキ餘地ナキナリ。是ヲ以テ我レ々々若シ自由ヲラント欲スルナラバ、——若シ無量ノ價值アル特權、即チ我レ々々ガ之ヲ奪ハレザラントテ長ク争ヒツトアリタル此ノ特權ヲ無垢ニ保存セント欲スルナラバ、——若シ彼ノ我レ々々ガ長ク關係シ、且ツ光榮アル目的ヲ達スルマデハ、決シテ中止セザラント心ニ誓ヒタル實キ争ヒナ中

米國獨立戰ノ原因

止スルガ如ク卑劣ノ舉動ヲ爲スナク、飽ク迄モ持續セント欲スルナラバ、我レ々々ハ千戈ニ訴ヘザルベカラズ。予ハ更ニ反復ス。諸君ヨ。我レ々々ハ千戈ニ訴ヘザルベカラス。我レ々々ハ兵端ヲ開キ、軍神ニ訴フルコトノ外、他ニ用ユベキ手段ナキナリ。

或ハ官ヘラク。我レ々々ハ微弱ナリ。斯ル恐ルベキ艱難ニ抵抗スルニ適セズト。然ラバ何レノ日ニ強盛ト爲ルベキヤ。次週カ。次年カ。抑モ英國ノ爲メニ全ク挫折セリレ、家々月々英國守兵ノ警衛セザルナキノ曉ニ至リテ始メテ強盛ト爲ルベキカ。將タ我レ々々ハ、優柔不斷ニ由リテ強盛ト爲ルベキカ。徒ニ懶眼ヲ食リ、妄想ニ欺カレツ、敵ノ爲メニ手足ヲ縛セラルニ由リテ、充分ニ拒反スルコトヲ得ベキカ。

諸君。我レ々々若シ天賦ノ手段ヲ適當ニ用非タランニハ、決シテ微弱ト謂フベカラズ。三百萬ノ人民心ヲ一ニシテ、神聖ナル自由ノ爲メニ兵器ヲ手ニシタランニハ、敵軍如何ニ強シトモ、何ソ恐ル、ニ足ラン。諸君。我レ々々ハ、孤軍以テ戦フモノト思フベカラズ。彼ノ國民ノ運命ヲ支配シ給フ所ノ上帝ハ、正義ヲ惠マレ、而シテ必ラズ我レ々々ニ味方スベキ朋友ヲ與ヘ給フナラン。

諸君。戰場ハ獨リ強者ノモノ出ヅベキ所ニアラズ。活潑、奇賢、剛勇ナル者モ亦茲ニ出ヅベシ。我レ々々ハ、最早戦場ニ出ルコトノ外、他ニ用ユベキ手段ナキナリ。此ノ期ニ臨ミテ卑怯ノ心ヲ起シ、戰場ヲ避ケントスルモ既ニ晩シ。避クベカラザルヲ強テ避ケントシタランニハ、悲ムベシ、彼等ニ蹂躪セラレテ奴隷

ノ憂目ヲ見ルナラン！我レ々々ノ鐘鐵ハ、既ニ解ヘ鍊テ波士敦ノ平野ニ鳴ラントス。到底戦争ハ免カルベキニアラズ。——之ヲシテ來ラシメヨ。諸君。徒ニ之ヲ延バストモ何ノ益アラシ。

(此ノ時、平和々々ト叫ブ者アリケレバ)

紳士ノ中ニハ平和！平和！ト叫バル、モノアレドモ、——最早平和ノ望ハ盡キ果テタリ。否、戦争ハ實ニ始マリタリ！次回ノ北風ハ、必ラズ我レ々々ノ耳竅ニ軍聲ヲ達スルナラン！我カ同胞ハ既ニ戰場ニ在リ、諸君何ソ徒ニ躊躇セラル、ヤ。空シク茲ニ居リタレバトテ、何ノ獲ル所アラシヤ。生命ハ奴隷ノ辱ヲ受クルチ厭ハザルマデニ惜シギヤ。將タ平和ハ、犠牲ヲ甘ンズルマデニ樂シギヤ。嗚々天ヨ！庶幾ハクハ我カ同胞ノ此ノ腐魂ヲ改メラレヨ！他人ハイザ知ラズ、予ハ祈禱ス。——庶幾ハクハ予ニ自由ヲ與ヘラレヨ。否ラザレバ予ニ死ヲ與ヘラレヨ！(此ノ演説ハ、羽化生著「雄辯法」ニ據ル)

同七十六年 我カ安永 五年丙申 シフアーン 別ニ傳 等諸有志者、獨立ノ檄文ヲ草シタルノ後、ヘンリー選バレテ、ヴァーノン州ノ知事ニ任ス。是レ獨立後同州知事ノ初ナリ。爾來再任シテ常ニ其ノ職ニ在リキ。

合衆國ノ既ニ獨立スルヤ、氏ハ、シフアーン等ト同シク、地方分權ノ說ヲ執リテ、彼ノハミルトン等中央集權ノ說ニ激シク反對シタリ。左

レド此ノ事ハ後文ニ述ブベシ。

同八十五年 我カ大明五年乙巳 華盛頓氏ニ國務卿タランコトヲ勸ム。氏辞シテ受

ケズ。同九十九年 我カ寛政十一年巳未 卒ス。

第三章 獨立戰ノ近因

(其二)英政府新稅ヲ賦課ス—波士敦虐殺

附華盛頓ノ傳。ジフアーンソンノ傳

是ノ時ニ當リテ、英國ノ愛ハ、政治家棟梁ノ才ニ乏シキニ在ラズシテ、環固ナル内閣ヲ組織シ能ハザルニ在リ。苟シモ内閣ノ組織其ノ宜シキニ稱ハンカ、此ノ黄金時代ノ政機ヲ巧ニ運轉スルハ敢テ難シト爲サズ。苟クモ内閣ノ組織其ノ宜シキニ稱ハサランカ、百ノピットアリト雖モ、如何トモスルヲ能ハザルナリ。

一千七百六十六年 我カ明和三年丙戌 ロッキンガム侯ノ内閣倒レ、「米國ノ友」ト稱セ

英國内閣ノ組織其ノ宜シキニ稱ハズ

有名無實ノピット内閣

ラレタル偉人ピット復タ總理大臣ノ椅子ヲ占ム。前ニ述ヘシ如ク、ピット、名義上ニ於テハ、掌櫃官ニシテ、總理大臣タル公總理大臣タリ。ピットハ實際上ニ於テ、總理大臣ノ權ヲ握レルナリ。故ニ其ノ外觀上ヨリ言フキハ、英米間

ノ調和ハ永續ナ期スベキニ似タリ。然レモ當時ピットハ、病勢日々ニ激シキヲ加ヘテ、恢復ノ望殆ント絶ニ、政務ノ頻繁ニ任スルヲ能ハズ。止ム

ヲ得ズシテ郷里ニ退隱シ、大藏大臣チャールズ、タウンゼンド (Charles Townshend) 首相ノ職ヲ攝行セリ。此ノ人ハ雄辯達智ノ才ヲ備ヘ、衆議院ニ

無限ノ勢力ヲ有セリト雖モ、惜ムベシ、其ノ主義一貫セズシテ、政治家タルノ見識ニ乏シク、(バーク [Burke] ノ批評ニ從ヘバ) 徒ニ反對黨ノ歡心ヲ

買ハント欲シテ、自他ノ信用ヲ失フヲ多シ。今ヤ前内閣ガ印紙條例廢止

ノ舉ノ、議會多數ノ意向ニ反スルヲ見、且ツ竹馬ノ友グレンヴヰルノ爲

メニ、果斷ニ乏シキヲ非難セラレシカバ、奮テ前者ト異軀同心ノ一策ヲ

行ハント決セリ。以爲ラシ。此策ハ、物議ヲ招クヲ少ナクシテ、利益ヲ收ムルヲ多キモノナリト。

英政府新稅ノ
殖民地ニ課ス

同六十七年我カ開和
四年丁亥クウンセン、英國ヨリ米洲ニ輸出セル茶、玻璃紙、顏料ニ租稅ヲ課スベキ議案ヲ議會ニ提出ス。是レ等ノ物品ハ、殖民只之ヲ英國ノミヨリ購求シ得ベク、其ノ課稅ハ、皆彼レ等ノ負擔タルベキガ故ニ、其ノ必ラズ默從セザルベキハ、鏡ニ懸ケテ見ルガ如シ。然ルニ議會ノ熟睡ハ、人意ノ表ニ出テ、將來口ヲ極メテ此ノ策ヲ非難シタル人々ノ其ノ中ニ在リシニモ拘ハラズ、易々トシテ之ヲ議決シタリシカバ、六月二十九日、英王遂ニ允可セリ。議會ハ亦同時ニ他ノ條例ヲ議決シ、此ノ條例ニ由リテ稅關吏ノ邸宅ヲ各殖民地ニ建設シ、又他ノ規則ヲ設ケテ、租稅徵收ヲ嚴ニセリ。

米人此ノ舉ニ
反對ス

此ノ條例可決ノ報ノ米ニ達スルヤ、反對ノ諸元素復々運動ニ着手シ、諸種ノ印刷物ハ、口ヲ極メテ、其ノ人民ノ自由ヲ侵害スルヲ説キ、就中デツキンソン (Dickinson) ノ筆ニ成リタル『ペンシルヴァニア農夫ノ書牘』(Letters of a Pennsylvania Farmer) ノ如キハ、最モ之ヲ痛論セリ。マサチユセ

ツツ州ノ議會ハ、翌六十八年我カ開和
五年戊子一月ヲ以テ總集會ヲ開キ、英王陛下

ニ對シテ一編ノ請願書ヲ草シ、平易ノ語氣ノ中ニ「殖民ハ、自己ノ同意シタル上ナラデハ、租稅ヲ課セラル、トナキノ權利ヲ有スル」旨ヲ主張セリ。議會マサチユセ
ツツ州會ハ、又檄ヲ各殖民地ニ飛シテ其ノ協心同力ヲ促ガセリ。『英國内閣ハ、此ノ飛檄ノ報ニ接シテ頗ル戒嚴スル所アリ。知事ベアナード (Bernard) ニ訓令ヲ下シ、州會ノ決議ヲ改メシメ、且ツ曰ク、州會若シ命ヲ用マサチユセ
ツツ州會キズンバ之ヲ解散セヨ」ト。然ルニ州會ハ、毫モ知事ノ命ヲ用キズ、同年六月十七ニ對スル九十二ノ多數ヲ以テ、以前ノ決議ヲ確定シタリシカバ知事遂ニ之ヲ解散セリ。』知事又各州會ニ前者マサチユセ
ツツ州會ト反對ノ檄ヲ飛シ、マサチユセツツ州會ノ行爲ノ不法ニシテ不穩ナルヲ論シ、決シテ之ト聯絡スルコトナカルベキヲ勸告セシガ、各州會ハ中心ヨリ、マサチユセツツ州會ト同意ナルヲ以テ、毫モ知事ノ勸告ニ從ハズ、却テ之ヲ詰リテ曰ク、足下請フ吾人ノ動作ニ干涉スルコト勿レ。吾人ノ行爲ヲ指示

波士敦人民ノ
激昂(其一)

スルコト勿レト。

此ノ時、波士敦ニ於テハ、激昂ノ原因續生セリ。會、數名ノ收稅吏、英國ヨリ來着シ、其ノ一人ハ、單桅船リバーチー號ニ在リ。此ノ船ハ、熱心ナル愛國者ジョン、ハンコック(John Hancock)ノ所有ニシテ、マデーラ大西洋中ニ在ル葡國所屬ノ一島リ、葡萄酒ヲ積ミ來レルモノナリ。彼ノ吏員ハ、租稅徵收ノ職ヲ行ハントスルニ當リ、人民ハ之ヲ憎ムノ極、之ヲ船室内ニ監禁シ、夜中ニ積荷ヲ悉ク上陸セシメケレバ、彼レ毫モ職ヲ行フ能ハズ。收稅吏等怒リテ其ノ船ヲ有罪トシ、之ヲ抑留ス。人民之ヲ聞テ、憤激動搖シ、稅關所屬ノ一船ニ火ヲ放チシカバ、收稅吏等恐レテ、軍艦ロムニ一號此ノ時俄然波士敦ニ現ニ逃レタル英國軍艦ナリタリ。州會ハ、大ニ此ノ暴動ヲ不當トシ、政府ニ其ノ處罰ヲ託ス。然レドモ犯罪者ノ誰レナルヲ明カニシ能ハズシテ止ミス。

波士敦人民ノ
激昂(其二)

人民ノ激昂ハ、暫ニ之ニ止マラズ、更ニ一層激昂ノ度ヲ高ムベキ事コソ起レリ。其ノ頃、二聯隊ノ英兵、新約克ヨリ來リテ波士敦ニ駐屯スルトノ報頻リナリシカバ、波士敦ノ人民復ク非常ニ沸騰シ、臨時市會ヲ開キテ、委員ヲ選ビ、知事ヲ訪フテ、評判ノ虛實ヲ質サシメ、州會召集ノ事ヲ請ハシム。然ルニ知事ハ、其ノ評判實ナリト答ヘ、本國ノ訓令ヲ待タザレバ、請求ニ應シ難シト言ヘリ。是ニ於テ、人民更ニ一策ヲ按出シ、諸市府ニ說キテ各々代表者ヲ指名セシメ、此ノ代表者ヲ以テ代用議會ヲ組織シ、名ヲ佛軍ニ備フルニ借リテ令ヲ發スラク。凡テ住民ハ、州法ニ從テ、各自ニ銃一挺、彈藥若干ヲ準備スベシト。九月初旬ニ至リ、各市府(一箇ヲ除ク)皆代表者ヲ召集シテ州會ヲ開キ、直ニ其ノ三名ヲ知事ノ許ニ送リテ議會ヲ召集セシメ、且ツ曰ク、我カ集會ハ決シテミヅカラ官職的性質ヲ執レルニアラズ。只方今多事危急ノ際、平和ヲ全フシ秩序ヲ保ツノ良法ヲ講セント欲シテ相會セルナリト。然ルニ知事ハ使節ヲ拒絕シ、集會ヲ認可セズ。剩ヘ其ノ翌日ヲ以テ、直ニ解散ヲ命セシカバ、集會怒リテ其ノ命ニ應セズ。然レドモ平穩ヲ旨トシテ毫モ過激ノ行ヲ爲サズ。只陛下ニ上ルベキ

米國獨立戰ノ原因

暴徒鎮定條例

一編ノ請願書ヲ準備シ、具ニ疾苦ノ實況ヲ載セ、五日間會議ヲ爲シタルノ後、ミヅカラ解散セリ。此ノ集會ハ、實ニ輓近無比ノ平穩ナルモノナリキ。既ニシテ英軍ハ來着セリ。是レヨリ先キ、英政府ハ、豫メ、殖民ノ激シク抵抗スベキヲ察シテ、所謂「暴徒鎮定條例」ナルモノヲ實施スルガ爲メニ、兵ヲ米洲ニ送り、先ツ之ヲ新約克ニ實施シタリ。此ノ條例ニ據レハ、殖民ハ、住所及ヒ必須品ヲ此ノ兵ニ給セザルベカラズ。左レハ殖民ハ、之ヲ以テ已レ等ヲ奴隸ニスルノ舉ト爲シ、新約克州會ハ、之ニ不服ヲ唱ヘシカド、知事固ク執リテ聽カザリシガ、今ヤ波士敦ニ於テモ亦彼ノ集會ハ、之ヲ疾苦トシテ英王陛下ニ請願書ヲ捧呈シタルコトモ拘ハラズ、英軍ハ早ヤ來着シタリシカバ、市會及ヒ一般住民ハ、憤怒ノ念ニ堪エズシテ、飲食住宅ヲ備ヘ肯ンセズ。知事依リテ市會々場ノ一部ヲ軍營ニ充テ、市役所及ヒ州廳ヲ寄宿舍ニ充テケレバ、人民ノ不平ハ益加レリキ。

殖民一切英國ノ物品ヲ輸入セザルベキヲ約ス

華盛頓此ノ約東ニ力ヲ場ス

英國議會殖民ノ舉動ヲ非難ス

殖民今ハ一切英國ノ物品ヲ輸入セザルベキヲ約セリ。抑モ米人ハ、日用百般ノ便利奢侈ニ屬スル物品ヲ英國ニ仰グガ故ニ、悉ク之ヲ廢スルハ、非常ノ困難ヲ感セザルヲ得ズ。况ンヤ商家ノ如キハ、衰滅ノ禍ヲ醸サハルヲ得ザルヲヤ、是ヲ以テ、此ノ議始メテ出テ、ヨリ、久シク實際ニ行ハレザリシガ、既ニ、マサチユセツツ州ハ、一千七百六十八年我カ明和五年戊子月ヲ以テ、斷然之ヲ實行シ、ヴァージニア州モ亦直ニ其ノ例ニ倣ヘリ。知事ボットトート卿(Lord Botetourt)州會ヲ解散シテ、百方之ヲ妨碍セント勉メタレドモ、徒勞ナリキ。是ノ時ニ當リテ、華盛頓本埠ノ末ハ、熱心ニ此ノ策ヲ贊成シテ、其ノ實行ニ力ヲ竭セリ。氏ノ書翰ニ據ルニ、氏ハ既ニ干戈ノ到底動カサルベカラザルヲ前知シタルガ如シ。其ノ他ノ殖民地モ亦二州ノ先例ニ倣ヘリ。

同六十九年我カ明和六年己丑初、此ノ舉動ノ報、英國議會ノ耳朶ニ觸ル、ヤ、議會ノ大多數ハ、大ニ此ノ舉動ヲ非難シ、兩院共ニ決議スラシ。此ノ舉ハ、憲法

米國獨立戰ノ原因

ニ背キ、國法ヲ蔑ニシ、大不列顛國王ト、議會トノ權利ヲ蹂躪スル者ナリト。又マサチニセツツ州會ノ飛檄ト、波士敦集會、及ヒ其處置トヲ以テ、陛下ノ神聖ヲ汚辱シ、政府ノ權力ヲ篡奪シタリト爲シ、貴族ハ王ニ奏メ曰ク、マサチニセツツ灣ノ人民ハ叛徒ナレバ、須ラクヘンリト入世ノ條例第三十五號ニ基キテ、之ヲ英國ニ召喚シ、特別委員ノ審問ニ附スベシ。陛下願ハクハ勅ヲ下サレンコトナト。此ノ上奏ト、同院ノ決議トガ衆議院ニ下附セラル、ヤ、衆議院ニ於テハ、熱心以テ之ニ反對スルモノ一人アリ。知事、パウノール(Powell)是レナリ、此ノ人ハ、殖民地ノ事情ヲ熟知シ、其ノ愛國ノ衷情ニ同感ヲ懷ケルガ故ニ、内閣ガ無用ノ干涉ヲ爲シテ、彼レ等ヲ奮激セシムルヲ不可トシ、言ヘラク。殖民ハ決シテ本國ニ叛クモノニアラズ。然レドモ、モト自由ヲ得ンガ爲メニ、遠ク萬里ノ波濤ヲ超エタル人々ノ集合ナレバ、其ノ自由ヲ妨碍シテ、之ガ感情ヲ傷クルハ策ヲ得タルモノニアラザルナリト。左レド短見無情ノ議員ハ、馬耳東風然トシテ

パウノールノ諫ヲ等閑ニ附シ、六十五ニ對スル百六十一ノ多數ヲ以テ貴族院ノ決議案ト上奏書トナ可決シタリ。

此ノ時ニ際シテ、内閣復タ交迭シ、ノース卿(Lord North)首相ノ椅子ヲ占ム。

此ノ内閣ハ、永ク運繼シ、而カモ徹頭徹尾多事ニ苦メラレタリ。卿、人ト爲リ、雄辯多智、特ニ議會ニ辯舌ヲ闘ハセ、議會ヲ整理スルノ術ニ長セリ。然レドモ性果斷ニ乏シク、根本的革新ヲ爲シテ以テ舊弊ヲ一洗スルヲ能ハズ。徒ニ『小刀細工』ヲ施シテ以テ一時ヲ彌縫スルニ過キザレバ、此ノ危機ニ出テ、事ヲ處スルニハ、勿論不適任ノ人ト謂フベキナリ。サテ新任大臣ノ多數ハ、殖民地ニ一步ヲ讓リテ其ノ歡心ヲ得ント欲シ、ノース卿自身モ亦此ノ策ヲ是トセリ。故ニ若シ其ノ意向ヲ飽ク迄モ貫徹シ、一切ノ租稅ヲ廢止スルカ、若クハ不平ノ起ルベカラザルノ方法ヲ用井テ之ヲ課シクランニハ、革命ノ亂、或ハ之ヲ未然ニ防クヲ得クリシナラン。然ルニ内閣ハ姑息ノ策ヲ行ヒタルヲ以テ、其處置ハ敢テ寛大ト稱スルヲ得ズ、又敢テ強硬ト稱スルヲ得ズ、管ニ政

英政府、稅近
賦課ノ租稅ヲ
廢シ獨リ茶稅
ヲ存ス

英政府新稅ヲ賦課スル波士敦處殺

府ノ薄弱ヲ暴露シタルコソ情ケナケレ。
ソハ姑ラク置キ、新内閣ハ、殖民地ノ租稅ヲ輕減スルニ意アリ。英國商人
モ亦米人不輸入策ノ爲メニ痛ク損害ヲ蒙ムリタルヲ以テ、頻リニ輕減
ヲ請願シケレバ、我カ明和二千七百六十八年五年戊子英國ヨリ米洲へノ輸出額二
百三十七萬八千磅、内茶十三萬二千磅。然ルニ翌六十九年我カ明和ニハ、一
縮シテ、輸出額百六十三萬四千磅、内茶四萬四千磅ト爲レリ。政府ハ遂ニ
同七十年我カ明和三月五日、晚近賦課ノ租稅ヲ以テ、通商の原則ニ反シ、本
國ノ製造上ニ害アリト爲シテ一切之ヲ廢シ、獨リ茶稅ノミヲ存セリ。而
シテ其ノ理由トスル所ハ、英政府ニ課稅ノ權アルヲ證スルニ在リ。噫々
此ノ舉ノ如キハ、眞ニ自家撞着ト謂フベシ。畢竟彼此兩方ノ非難ヲ招ク
ニ過ギザルノミ。左レバ、彼ノグレンヅナルノ如キモ、其ノ矛盾ノ政策タ
ルヲ譏リテ、論争スラク。政府ハ飽ク迄モ強硬手段ヲ執ルガ、否ラズンバ
租稅ヲ全廢セザルベカラズト。又議員ノ中ニハ、政府ガ歩ヲ讓リタルヲ

殖民地ノ感情

非トシ、官民共同ノ力ヲ以テ、課稅ヲ實施セザルベカラズト論ゼリ。パウ
ノール知事ハ、茶稅廢止說ヲ議會ニ提出シタレドモ、議會ハ百四十二ニ
對スル二百四ノ多數ヲ以テ之ヲ否決シ、政府ノ議案ヲ可決シタリ。
此ノ報ノ殖民地ニ達スルヤ、殖民或ハ聊カ愁眉ヲ開クモノナキニアラ
ズ。然レドモ熱心ナル愛國者ノ異議ヲ唱フル所ハ、課稅ノ是非ニ在リテ、
其ノ多寡ニアラザルガ故ニ、其ノ一部茶稅ヲ存スルハ、全部ヲ存スルニ均
シト爲シテ、更ニ承服ノ色ヲ顯ハサズ。加フルニ「叛徒」糺彈ノ事ハ、ダトヒ
之ヲ實際ニ行ハザルモ、其ノ風評ハ忽チ殖民地一般ニ傳播シタルヲ以
テ、人心之ガ爲メニ恟々タリ。マサチユセツツ議會ハ、更ニ一層大膽ナル
決議ヲ爲シテ曰ク「英國議會ハ、米洲ノ爲メニ法ヲ制スベキノ權ナシト
偶々英政府ハ、知事判事ノ俸給ヲ州會議定ノ外ニ置キシカバ、マサチユ
セツツ州會亦烈シク之ヲ争ヒシニ、政府ハ斷然同議會ヲケムブリツチ
ニ移シ、永ク停會ヲ命シケレバ、其ノ不平ハ益々其ノ度ヲ高メタリ。ソレサ

米國獨立戰ノ原因

へアルニ、英兵既ニ米洲ニ來着シケレバ、彼レト云ヒ、此レト云ヒ、殖民ハ
憤怒ニ堪ユル能ハザリキ。

〔波士敦虐殺〕

偶々此ノ時、波士敦——即チ抗官ノ本源、且ツ中心タル波士敦——ニ於
テ一事變ヲ生シ、爲メニ米人ノ怒ヲ頂點ニ近ツケ、調和ノ望ヲ殆ント絶
無ノ境ニ陥ラシメタリ。是ヨリ先キ、一千七百六十八年<sup>我カ明和
五年戊子</sup>ノ秋ヨリ
住民ト駐屯兵トノ間ニ爭論絶エズ。然レドモ未ダ公安ヲ害スル迄ニハ
至ラザリシガ、同七十年<sup>我カ明和
七年庚寅</sup>三月五日ノ夕ニ及ビテ二三ノ少年ト數
名ノ兵卒ト兵營近傍ニ相闘ヒ、少年叶ハシト逃ケ出スヲ、兵卒ハ勢ニ乘
シテ追ヒ廻ハリケレバ、住民ノ驚愕ハ一ト方ナラズ。教會ハ鐘ヲ鳴ラシ
テ警報ヲ傳へ、多數ノ賤民ハ、税關ヲ奪ヒテ番兵ニ侮辱ヲ加フ。駐屯士官
ノ一人ナルプレストン大尉(Captain Preston)ハ、急ニ部下ノ兵ヲ率ヰテ番
兵ニ應援シ、賤民ヲ解散セント勉ム。然レドモ賤民ハ益々怒リテ石ヲ飛

ハシ、擲射物ヲ投シテ止マズ。然ル間ニ兵卒ノ一人、群衆ノ中ニ砲ヲ放ツ
ヤ否ヤ、自餘ノ兵卒モ亦之ニ倣フテ同シク砲ヲ放チケレバ、賤民ノ撃チ
殺サル、モノ四名、傷チ負フモノ數名アリ。人々恐レテ一時解散シタリ
シガ、幾モナクシテ復タ他ノ市街ニ集マリケレバ、駐屯兵ハ太鼓ヲ撃チ
テ闘爭ヲ令シ、更ニ再ヒ修羅場ヲ現出シテ混雜動搖言ハシ方ナカリキ。
左レバ住民ハ會議ヲ開キテ、撤兵ヲ知事ニ請ヒ、知事亦參事會ヲ開キテ
此ノ事ヲ審議セシガ、公安ノ爲メニ撤スベシト論スル者多數ナリシカ
バ、乃チ兵ヲウヰリアム堡ニ移シ、又プレストン大尉ヲ捕ヘテ其ノ罪ヲ
問ヒ、税關ニ在リテ、彼レガ部下ニ屬シタル兵ハ、悉ク之ヲ監禁セリ。
其ノ後數日、波士敦ノ有志ハ、彼ノ殉難者ノ爲メニ厚キ葬式ヲ營ミテ、人
心ヲ喚起シ、殖民地ノ諸新聞紙ハ、口ヲ極メテ英兵ノ不法ヲ難詰セリ。プレ
レストン等ノ審判ハ、十月ニ延期シ、サミュエル、アダムスニ其辨護ノ任
ヲ囑セシガ、期ニ先チテ、公衆ノ怒稍々薄ラギケレバ、プレストント、六名

ノ兵卒トハ、放免セラレ、二名ノ兵卒ノミ殺人犯ノ刑ニ處セラレタリ。
 サミユール、アダムス(Samuel Adams)ハ、一千七百二十二年我カ革命生レ、一千八百二十三年我カ革命死ス
七年三寅米津愛國者ノ一人ナリ。後、大陸聯合會議員ト爲リテ、熱心ニ獨立ヲ主張セリ。

英政府海軍省
 内ニ米津事務
 局ヲ設ク

英政府又密賣取締ノ法ヲ嚴ニセンガ爲ニ、波士救海軍事務局ヲ設ク。同
 局ノ小吏ハ、固ヨリ長官ノ鼻息ヲ窺フ。ナ旨トセルガ故ニ、格外ニ法網ヲ
 密ニシ、爲ニ益々殖民ノ感情ヲ傷ヒタリ。此事務局ヨリ派出セル軍艦「ガ
 スパー」號ハ、ロード、アイランドノ沖ニ碇泊シテ、禁賣品ノ調査ニ汲々ト
 シ、通行ノ飛脚船ニ追テ、無益ニ旗ヲ卸サシムルヲ以テ、更ニ感情ヲ傷ヒ
 シガ、一千七百七十二年我カ安永元年三辰六月九日ノ黄昏、殖民地ノ定期飛脚船「ア
 ロヴヂデンス」號、數名ノ客ヲ乗セ、旗ヲ翻ヘシテ來ルヤ、「ガスパ」艦長
 マツデントン中尉(Lieutenant Dunnington)ハ、之レニ旗ヲ卸セト命シ、其躊躇
 スルヲ憤リテ、忽チ之ニ砲ヲ放チ、且ツ之ヲ追フ。時適々滿潮ニ垂ントス。
 「アロヴヂデンス」號ハ「ガスパ」ヲ淺瀬ニ誘引セントノ目的ヲ以テ、漸

英國軍艦、米
 船ト葛藤ヲ生

ク陸地ニ接近セリ。按ノ如ク、「ガスパ」ハ、「アロヴヂデンス」ト相距ルコト凡
 シ七哩ノ處ニ於テ淺瀬ニ乗上ケシカバ、「アロヴヂデンス」ハ、其ノ慮ニ乘
 シテ急ニ若港ニ協議ノ末、翌朝二時、一團ノ人民、兵器ヲ携ヘテ數艘ノ鯨
 獵船ニ乗シ、「ガスパ」ヲ目掛ケテ進ミケルニ、「ガスパ」艦長淺瀬ニ乘リ掛
 ケテ進退谷マリツ、アリケレバ、乃チ同艦ニ乘リ遷リテ、艦長及ヒ水夫
 チ擒ニシ、同艦ト積載品トヲ悉ク焚キ棄テタリ。

英政府ノ執拗

英政府ハ猶執拗ニモ、殖民地ノ人心ヲ壓服セント欲セリ。從來マサチニ
 セツツ灣ノ州會ハ、王命ヲ受ケテ來任セル判事及ヒ自餘司法吏員ニ海
 給ヲ授ケタリシガ、一千七百七十二年我カ安永元年三辰初、英政府ハ彼レ等ノ威
 權ヲ高カラシメンガ爲メニ増俸ヲ命シ、其ノ費用ハ勿論殖民ノ負擔ヲ
 ラシメシカバ、波士救ノ住民之ヲ聞キテ、其ノ不條理ヲ憤リ、且ツ之ヨリ
 危難ノ生センコトヲ恐レ、十月二十五日、會議ノ末、一篇ノ請願書ヲ知事ニ

米津獨立戰ノ原因

呈シテ、増俸取消ヲ乞フ。是レヨリ先キ、波士敦知事サー、フランシス、ベル
 ナード (Sir Francis Bernard) ハ、一千七百七十年 我カ明和七年庚寅 ナリテ職ヲ罷メ、ハッ
 ナンソン (Hutchinson) 其ノ後任ヲ襲ギシガ、ハッナンソン已レガ地位ノ危
 フカラソノヲ恐レテ請願書ヲ却下シケルニゾ、波士敦ノ人民ハ、更ニ委
 員ヲ選ビテ、危難ノ起レル場合ニ處スルノ法ヲ議定シ、再ヒ衆人ヲ會シ
 テ之ヲ報告セシム。委員ハ、報告書中ニ堂々タル議論ヲ挿入シ、殖民ハ、一
 個人トシテ、公民トシテ、基督教徒トシテ、某々ノ權利ヲ有スル旨ヲ書キ
 記シテ、之ヲ波士敦住民ノ前ニ朗讀シ、且ツ之ヲ印刷ニ附シテ、州内一般
 ニ配布シタリシカバ、人心之ガ爲メニ益々喚起セラレ、苟クモ壓制者ノ
 手ガ自由ノ木ヨリ美菓ヲ奪ハントシツ、アル間ハ、決シテ熟睡セザル
 ベク、決シテ放心セザルベシト誓ヘリ。既ニシテ翌七十三年 我カ安永三年癸巳 一月
 ニ至リ、州會ノ開クルヤ、知事ハ、淺墓ニモ、主權ノ王ト國會トニ在ルチ喋
 々シ、主權者ノ制定シタル法律ニハ、默從セザルベカラザル旨ヲ述べタ

波士敦人民ノ激昂

リシガ、此ノ言忽チ一箇ノ引火奴ト爲リテ、憤怒ノ熱度ヲ高メ、州會ハ、波
 士敦人民ノ誓約ヲ檢束セズ、却テ之レヲ認許シ、英國議會ハ、殖民地ニ
 租稅ヲ賦課シ、殖民地ノ爲メニ法律ヲ制定スベキ權利ナント宣言シタ
 リ。

ヴァージニア州ニ於テモ、亦一般ノ氣餒ハ、マサチユセツ州ニ同シ
 而シテパトリック、ヘンリー、華盛頓、ジョン、ワシントン、リチャード、ヘンリー
 ー、リー等實ニ之ガ牛耳ヲ執レリ。

ヴァージニア州ノ状況

華盛頓

華盛頓 (Washington) 名ハジョージ (George)。一千七百三十二年 我カ享保十二年壬子
 月二十二日、ヴァージニア州ウエストモアランド郡ニ生ル。其ノ先、英
 國ノ人。祖父ジョン、ワシントン (John Washington) ノ時、十七世紀ノ中葉
 ニ、始メテ米洲ニ來リテ、此ノ郡ニ住ス。家産頗ル富メリ。父チアウガヌ

米國獨立戰ノ原因

ナン、ワシントン (Augustin Washington) ト云フ。氏ハ其第二子ナリ。異母兄チローレンス、ワシントン (Lawrence Washington) ト云フ。シヨージ六歳ノ時、一日、父之レニ新調ノ手斧ヲ與フ。氏欣喜雀躍措クコト能ハズ。頑是ナキ童子ノ常トシテ、嬉シキガ儘ニ諸物ヲ切斷シ、何氣ナク、父ノ愛玩セル櫻樹ヲ伐採シタリ。父ノ他ヨリ歸ヘリ來ルヤ、愛樹ノ伐採セラレタルヲ見テ大ニ怒リ、婢僕ヲ召シ集メテ何者ノ所爲ナルカナ詰問セシガ、偶、シヨージハ父ノ此ノ言ヲ聞キテ大ニ驚キ、我カ非ナリヤコトヲ悟リテ後悔ニ堪エズ。忸怩トシテ父ニ向テ叫ブラク。父上ヨ、其ノ犯罪者ハ兒ナリ。兒ハ實ニ父君ノ櫻樹ヲ伐採シタリ。兒ハ之レヲ包ムニ忍ビズ。敢ヘテ謝ス。ト言未ダ畢ラザルニ、父ハ双手ヲ開キテ、ロヨロシキ懐キ、兩眼ニ涙ヲ浮ベテ言ヘラク。噫、我カ最愛ノ兒ヨ、手ハ、我が子ナシテ虚言者タラシメヨリハ、寧ロ千萬ノ櫻樹ヲ失フヲ優レリトス。我カ子ニシテ虚言者タラザランカ。金生樹豈惜ムニ足ランヤ。ト。

夫レ此ノ父ニシテ此ノ子アリ。華盛頓ノ他日アルハ、偶然ニアラザルナリ。蓋シシヨージハ、オサナゴ、ロニ以爲ラク。眞實チ白サハ、必ラズ嚴責チ蒙ムラン。ト。然ルモ猶非チ飾ルニ忍ビズ。悔悟ノ体ヲ顯ハシテ以テ罪ヲ待ツ。諺ニ云ク。小兒ハ大人ノ父ナリ。ト。氏ガ誠實忠直ノ士タルベキコトハ、夙ニ幼時ノ舉動ニ於テ明ナリ。

華盛頓幼時群兒ト戰鬪ノ遊戯ヲ爲スニ、必ラズ一方ノ大將タラザルコトナク、又必ラズ敵軍ヲ破リテ勝利ヲ博セザルコトナシ。群兒ノ間ニ爭論アル毎ニ、彼此共ニ言ヘラク。シヨージハ、許ニ行キテ、理否曲直ノ判決ヲ乞ハント。シヨージガ聰明公平ノ信用ヲ彼レ等ノ間ニ得ルコト斯ノ如シ。シヨージ十一歳ノ時、父ヲ失フ。ソモ當時ヴァージニアノ富家ハ、其ノ子チ英國ニ留學セシムルヲ常トス。ローレンス前ニ言ヒシ如ク、シヨージノ異母兄ナリ。シヨージ十四歳。ノ如キモ亦タ同國ニ留學セタリ。然ルニシヨージハ、早ク父ニ別レタルヲ以テ、然カスルコト能ハザリキ。初メ近隣ノ小學校ニ入り

テ普通ノ學ヲ修メ、稍長スルニ及ヒテ、專門學校ニ入リテ數學ヲ修ム。『神童』ニ云ク、華盛頓ノ學校ニ在ルヤ、讀書、算術、及ヒ其ノ他ノ諸學科ヨリ跳超、角力、游泳、乘馬、擬戰等ニ至ルマデ、一トシテ衆生ニ卓絶セザルハナク、時間ヲ正シクシ、紀律ヲ守リ、何事ニ拘ハラズ、必ラズ其濫與ヲ究メント希ヘリ。氏亦遊戲ヲ好マザルコアラズ。然レドモ勉強ノ時間來レバ、刻苦勵精シテ心身ヲ之ニ委テ、困難ニ遭フモ毫モ挫折スルコトナシ。氏ハ書籍器具ヲ殊ニ鄭重ニ取扱ヒテ、未ダ嘗テ汚損セシメザリシヲ以テ、百五十餘年ノ星霜ヲ經タルノ今日、現ニ保存シアリテ、殆ント新調ノ如シト云フ。

華盛頓ハ、斯ノ如ク、學校的利益ヲ蒙ルコト多カラズ。然レドモ才德兼備ノ賢人ヲ母ニ持テ、其ノ薰陶ヲ受ケテ人ト成リタルハ、無上ノ幸福ナリキ。

華盛頓十六歳ノ時、測量師ト爲リ、フェアファックス卿(Lord Fairfax)ノ

部下ニ、ヴァーヂニア州ノイザリン、チツキ部落ノ測量ニ從事シ、其ノ製圖ノ精確美麗ヲ以テ評判ヲ得タリ。卿ハ家兄ローレンスガ妻ノ伯父ナリ。是レヨリ先キ、ローレンスハ數年ノ間、英國ノ海軍士官タリ。華盛頓竊カニ海軍ニ從事セシコトヲ熱望シタリシガ、十四歳ノ時、愈之ニ從事セント決セリ。會、氏ガ少尉試補トシテ從事スベキ軍艦來リテ、ボトマツク河上ニ在リ。氏既ニ旅裝ヲ整ヘ、將ニ發途ニ就カントス。左レド母ガ不滿ノ色アルヲ見テ、忍デ之ヲ辭シタリレガ、茲ニ至リテ、櫛風沐雨以テヴァーヂニア邊境ノ荒野ニ測量ニ從事スルコト三年。其ノ測量ノ精確ニシテ一点ノ誤ナキコトハ、今猶信ヲ買フニ足ルト云フ。

既ニシテ、ヴァーヂニア州民兵ノ少佐ニ任シ、副將ノ一人トシテ其ノ指揮ヲ司ル。是レ氏ガ軍人社會ニ入レルノ濫觴トス。時ニ年十九。其ノ後二年ヲ經過シ、一千七百五十三年、我カ寶曆三年癸酉英佛兩國殖民地經界ノ事ヨリ争ヲ生シ、加拿陀ノ佛人將ニ英國ノ殖民地ヲ襲ハントス。是ニ於

テ英國ハ、華盛頓ヲ使節ト爲シ、オハイオ河畔ナル佛堡ニ至リテ談判セシム。華盛頓年紀二十一。山林沼澤ヲ跋渉シ、雨雪ノ爲メニ河水ノ漲リタルヲ渡リテ辛クシテ佛將ノ下ニ達シ、茲ニ談判ヲ開ク。然レ佛將既ニ意ヲ攻撃ニ決シ、復タ說破スベカラズ。船艦既ニ出發ノ準備ノ整ヘルヲ指示シテ曰ク、春ノ來ルヲ待テテ、オハイオ河ヲ通航シ、到ル處英軍ヲ擊破セン。下、華盛頓要領ヲ得ズシテ歸ル。左レド此ノ行ニ由リテ、詳ニ佛軍ノ状態ヲ視察シ、密ニ敵領ノ地理ヲ探檢シタルガ故ニ其ノ得ル所決シテ小少ナラザリシト云フ。華盛頓、ヴァージニアニ歸リテ、今回ノ旅行日記ヲ草シ、之ヲ世ニ公ニス。

同五十四年我カ寶曆四年甲戌英佛愈、殖民地ニ於テ干戈ヲ交ユ。英軍ハ、オハイオ河畔ノ諸堡ヨリ佛軍ヲ逐ハントス。華盛頓ノ官ヲ進メテ中佐ニ任シ、追討軍ノ司令官ヲ命ス。華盛頓年少ヲ以テ辭シテ受ケス。依リテ司令ノ任ヲフライ大佐 (Colonel Fry) ニ命シ、華盛頓ヲシテ之ガ副官ヲラシ

ム。左レド幾モナクシテ、フライハ曠野ニ死シケレバ、華盛頓遂ニ司令官ニ任セリ。爾來防禦ノ術ニ當リテ、連戰數年ニ涉リ、其ノ間、時ニ或ハ飢寒ニ迫リテ士卒ト共ニ倒レントシ、或ハ彈丸雨注ノ中ニ入りテ四タビ衣服ヲ貫カレ、ニタビ馬ヲ射殺サル、等ノ事アリント雖モ、剛毅果斷、遂ニ敵軍ヲ壓倒シ、殖民地ノ名譽ヲ宇内ニ輝カシタド。

華盛頓ノ凱旋スルヤ、一鄉舉ツテ之ヲ歡迎シ、州會議員ニ選ブ。既ニシテ州會ニ其ノ椅子ヲ占ムルヤ、議長ハ起テテ、ヴァージニア州ノ名ヲ以テ氏ノ軍功ヲ感謝ス。謙遜ナル華盛頓ハ、起テテ答辭ヲ述ヘントス。レドモ、一語ヲ發スルコト能ハズ。只赤面戰慄スルノミ。其ノ無邪氣ニシテ功ニ誇ルノ心ナキヤ想フベシ。議長謝シテ曰ク、坐セヨ。華盛頓君ヨ足下ノ謙遜ハ、足下ノ勇氣ト相伯仲シ、滔々ノ雄辯ニ優レリト。同五十八年我カ寶曆八年戊寅病ヲ以テ、ヴァージニア軍ノ司令官ヲ辭セリ。偶々家兄ロレンス没ス。華盛頓依リテ、ヴァージニア州、ヴァージン

山麓ノ土地ヲ嗣ギ妻ヲ娶リテ家事ヲ整理シ、益々節制、忍耐、果斷、克己、注意ノ五徳ヲ養ヘリ。此ノ五徳ハ、氏ガ終生特得ノ長所ト稱スベキモノナリ。

一千七百六十五年^{我カ明和二年乙酉}英國政府ガ夫ノ惡ムベキ印紙條例ヲ發行スルヤ、氏ハ其ノ殖民ノ自由ヲ害スルヲ甚シキヲ論シ、又英國ガ課稅ノ不法ナルヲ憎ミテ、一切其ノ物品ヲ購買セザラン、^{我カ安永三年甲午}トテ主張シタリ。當時氏ハ既ニ開戰ノ止ムベカラザルヲ察知シタリトゾ。

同七十四年^{我カ安永三年甲午}大陸聯合議會ノ費府ニ會スルヤ、氏又タ、^{我カ安永四年乙未}シア州選出代議士ノ一人ト爲リ、同七十五年^{我カ安永四年乙未}革命ノ亂ノ起ルヤ、氏ハ推サレテ陸軍大元帥ノ印綬ヲ帶ブ。是ノ時ニ當リテ、部下ノ兵士ハ、殆ント操練ノ何物タルヲ知ラズ、銃砲彈藥ノ備更ニナカリシト雖モ、氏ハ勇氣忍耐ノ二者ヲ楯甲トシテ、艱苦ヲ凌ギ、兵及ニ血ヌラズシテ波士敦ヲ占領セリ。

爾來七年ノ苦戰ニ、兵士飢ウルモ食ヲ得ルヲ能ハズ、寒ユルモ衣ヲ得ルヲ能ハズ。跣足、氷雪ノ上ニ血痕ヲ遺セシヲアリ、疲倦殆ント一步ヲモ行クニ堪エザリシヲアリ。而シテ聯合議會ハ、支給ノ道ヲ失ヒ、將軍チャールス、リー (Charles Lee) ナルモノハ、華盛頓ト議會トヲ離間シタリト雖モ、華盛頓ノ不屈不撓ニシテ制馭ノ才ニ長ケタル、相續テ、英將ハウ (How) シリントン (Clinton) ハーゴイン (Burgoyne) ニ勝チ、最後ニ、コーンウナリス (Cornwallis) ナ降ラシメ、遂ニ米國ノ獨立ヲ全フシ、素志ヲ貫クヲ得タリ。

一千七百八十三年^{我カ天明三年癸卯}英米和ヲ媾シテ後、華盛頓ノ雷名益々天下ニ轟キ、衆望ヲ一身ニ負擔ス。此ノ時ニ當リテ、華盛頓若シ帝王タラント欲セバ、或ハ易々タルベシ。然レドモ氏ノ目的トスル所ハ、單ニ國利民福ニ在リテ、一點ノ野心ヲ其ノ間ニ插ムヲナシ。故ニ國憲ヲ立テ、政府ノ基礎ヲ固フスルヤ、民間ニ退キテ農業ニ從事シ、再ヒ政治ニ喙ヲ

容レザラントシタリ。然リト雖モ、合衆國ノ人民如何ソ氏ノ退隱ヲ許
 ス可ケン。固ク請テ大統領ノ任ヲ委テシカバ、同八十九年我カ寛政
元年巳酉止ム
 ナ得ズシテ第一世大統領ノ職ニ就キ、小心翼々トシテ能ク泰平ノ治
 ナ施セリ。既ニシテ四年ノ任期满チシカド、人民猶氏ノ留任ヲ請フテ
 止マザリシカバ、同九十三年我カ寛政
五年癸丑更ニ再ヒ大統領ニ選ハレ、同九十
 七年我カ寛政
九年丁巳至ルマデ前後八年ノ間職務ニ執掌シ、然ル後辞シテ、
 アイノン山麓ナル郷里ニ閑日月ヲ樂メリ。
 佛國ノ愛國者ラ、フアエツト別ニ傳
アリ會テ華盛頓ヲ其ノ郷里ニ訪フ。時ニ
 氏居ラズ。ラ、フアエツト、氏ノ母堂ニ語ルニ、氏ノ勳勞功德ヲ以テス。母
 堂曰ク、「シヨーシ即チ華
盛頓幼ニシテ善良ナル童子ナリキ。其ノ今日アルハ
 怪ムニ足ラザルナリ」ト。古語ニ云ク。忠臣ハ孝子ノ門ニ出ツ。華盛頓、家
 ニ在テ至孝。故ニ國ニ勉ムル誠忠ナリ。純白雪ノ如シトハ夫レ氏ノ謂
 ヒカ。

一千七百九十九年我カ寛政十
一年己未十二月十四日、華盛頓遠逝ス。享年六十八。米
 國ノ人民皆悲ミテ父ヲ喪ヒタルガ如クナリント云フ。

凡ソ華盛頓ヲ評スル人、世ニ少ナカラズ。然レトモ其ノ評ノ適切ニ
 シテ穩當ナル、願フコ、シフア別ニ傳
アリトソ別ニ傳
アリノ右ニ出ルモノナカルベ
 シ。左ニシフア別ニ傳
アリトソ別ニ傳
アリノ評スル所ヲ掲ゲテ、本傳ノ局ヲ結ハシ。

「華盛頓人ト爲リ、大志剛毅、然レドモ古今ヲ通シテ第一流ト稱スル

トナ得ズ。其ノ觀察ノ力ハ、ニュートン英國最モ有名
ナル物理學者(Newton) ベーコン英國最モ有名
ナル哲學者(Bacon)

ニ至リテハ、決シテ之ガ下ニ在ラズ。其斷定ノ力ハ、想像工夫ノ之ヲ助

クルナキヲ以テ、迅速チ欠クノ弊アリ。左レド其ノ決スル所誤謬甚

少ナシ。蓋シ氏ノ最モ便益ヲ受クルハ、軍事會議ニ在リ。此ノ場合ニ

於テハ、諸説ヲ參考シテ、其ノ最モ善キモノヲ擇ブガ故ニ、其ノ戰畧

ノ卓絶セル、古今ノ名將其ノ右ニ出ルト能ハズ。然レドモ不幸ニシ

シフア別ニ傳
アリトソ
 評ス

テ交戦ノ半途ニシテ事情ノ變更スルアルトハ、臨機應變ノ才ニ乏シキガ故ニ、往々敗衄ノ災ニ陥ルヲアリ。其ノ膽力ハ最モ強クシテ、恐ル、コトヲ知ラズ。是ヲ以テ危難身ニ迫ルトモ、泰然自若トシテ、毫モ動ズル所ナシ。蓋シ華盛頓ノ華盛頓タル所以ハ、細心深慮ニ在リ。辞ヲ換ヘテ言ヘバ、各種ノ事情ヲ量リ、各種ノ緣故ヲ詳ニスルコトアラザレバ、決シテ一事ヲ行ハザルニ在リ。凡ソ可否ノ決定シ難キ間ハ、ミヅカラ制シテ行ハズ。然レモ一旦可ト決定スル以上ハ、斷乎トシテ之ヲ行ヒ、百難ニ逢フモ毫モ挫折セズ。其ノ德義ハ純白ニシテ、一黠ノ瑕瑾ナク、其ノ正義ノ念ハ硬直ニシテ寸毫モ屈撓スルコトナシ。利益ノ情モ、親戚朋友ノ愛モ、將々憎惡ノ念モ、氏ノ決心ヲ變スルコト能ハズ。要スルニ、氏ハ大人、善人、賢者ト謂ハザルベカラズ。……説キテ得テ妙ナリト謂フベシ。

ジフアーンソン

トマス、ジフアーンソン (Thomas Jefferson) ハ、一千七百四十三年 我カ實保三年癸亥 今ノ合衆國ヴァージニア州シャドウエルニ生ル。幼時穎悟。七歳ノ時、アルベマール郡 ヴァージニア州ニ在リ ノ一小學校ニ入テ、嶄然頭角ヲ見ハシ、一ヲ聞テ十ヲ知ルノ才アリ。教師之ヲ奇トシ、課程以外ニ亦佛語、古典語ヲモ授ケタリ。十七歳ノ時、「ウヰリアム、及ヒメリー大學」 當時ヴァージニアノ首府タル、ウヰリアムスバークニ在リ ニ入リテ高尙ノ學科ヲ修ム。此ノ際、氏ノ苦學勉強ナル、毎日十二時間乃至十五時間ノ多キヲ讀書ニ費シ、當時殖民地ノ幼稚ナル大學ガ授ケ得ベキメケノ有ラン限リナ叩キテ、曾テ神童ト稱セラレシ實ヲ全フシタリ。其ノ後二年、業ヲ卒ヘテ學位ヲ受ケ、爾來心ヲ法律ニ潛メ、二十四歳ノ時、辯護士ト爲レリ。氏ガ辯護士ト爲ルヤ、直ニ第一流辯護士ノ中ニ加ハレリ。

氏、人ト爲リ、豪邁卓絶、慷慨ニシテ氣節ヲ尚ブ。其ノ政治論ニ於ケル、純平タル共和主義ヲ操持シ、社會ヲシテ自由平等ノ眞理ヲ認メシメン

「チ希望セリ。故ニ人ニ對シテ『ミスター』君、氏ト云フガ如シノ稱呼ヲ用ユルヲ屑トセズ。況ンヤ陛下、殿下、閣下等ノ稱呼ヲ用井、若クハ族稱、勳爵ノ制ヲ行フニ於テチヤ。又氏ハ當時米洲殖民地ニ流行セル賣奴ノ制ヲ不可トシ、公然、説ヲ爲シテ曰ク、予ハ、神ガ正理ヲ好マセ給フヲ想起スル毎ニ、我カ邦ノ爲メニ戰慄セザルヲ得ズ。何トナレバ、賣奴ノ制ハ、政治上ヨリ論スルモ、將々德義上ヨリ論スルモ、決シテ許スベキモノニアラザレバナリ」ト。氏ハ夙ニ殖民地議會ヲシテ奴隸解放ノ權利ヲ其ノ主人ニ與ヘシメント勉メタリ。然レトモ議會ハ猶其ノ眞理ヲ認ムルノ力ニ乏キヲ以テ、氏ノ意見ハ行ハレザリキ。

氏ハ最モ文章ニ長シ、其ノ動作極メテ敏捷活潑ナリ。故ニ其ノ未ダ一回ノ演説ヲモ爲ササルニ、既ニ推サレテ政黨ノ首領ト爲レリ。

一千七百七十三年我カ安永二年癸巳シフアーンソン、パトリック、ヘンリー別ニ傳及ヒ自餘ノ愛國者ト共ニ有名ナル通信委員會ヲ組織シ、其ノ翌年「亞米

利加權利略論」ト題スル一編ヲ費府ナル議會ニ提出セリ。同論ノ主旨

ハ、不法ノ租稅ニ抵抗スベキ權利ヲ痛論シタルモノニシテ、頗ル獨立

ノ檄文ニ似タリ。偶、英國政治社會ノ泰斗ト稱セラレタル雄辯及ヒ文

章ノ大家第百十三頁參看パード、一讀シテ之ヲ激賞シ、僅ニ數語ヲ訂正シテ割

鬮ニ附セリ。當時費府議會ハ、猶姑息ノ意見ヲ持シ、本國ト平和ヲ保ク

ンヲ望ミタルヲ以テ、此ノ急進策ヲ採用セザリキ。左レド、ゾアード

ニア州ニハ、パトリック、ヘンリー第百一頁參看ランドルフ第一回大陸聯

リチャード、ヘンリー、米國獨立發議者華盛頓等ノ人々起リテ、抵抗ノ精神

一般ニ普及シタルガ故ニ、喜デ氏ノ策ヲ採用シ、其考案ニ從テ軍勢ヲ

募リ、又氏ハ華盛頓ヲ推シテ、之ニ大元帥ノ任ヲ委ナリ。是レヨリ、ゾ

ファーンソンノ名聲一時ニ震ヒ、各殖民地ヨリ雲集セル名士中ノ最モ

堪能ナル、最モ活潑ナル、將々最モ重要ナルモノ、一人ト爲レリ。氏ハ

演説ヲ爲シ、辨論ニ答ヘ、他人ニ勸告シ、委員トシテ勉メ、不屈不撓ノ勇

氣ヲ以テ重大ナル時務ニ處シ、又貴重ナル獨立ノ檄文ニ由リテ、普ク
 シ、一般ノ人民ヲ鼓舞奮進セシメタリ。
 一千七百七十六年我カ安永五年丙申米洲殖民地始メテ有名ナル獨立ノ檄文ヲ
 發シ、亞米利加合衆國ト稱ス。此ノ獨立ノ檄文ハ、全クシフアーンソ
 人ノ筆ニ成リタルモノニシテ、其ノ議論ノ精確ナル、文詞ノ絶妙ナル、
 今日尙古今名文中ノ一ニ加ハリ、近世政治史中最モ重要ナル書而ト
 セラル、モノナリ、氏ハ當時五首領前ニ記セシ、パトリック、ヘンリー以
 下ノ四人ト、シフアーンソントヲ指ス。中ノ年
 少者タリト雖モ、現ニ議會ノ議長タリ。且ツ最モ文才ニ富メルヲ以テ、
 諸議員ノ要求ニ應ジテ、此ノ檄文ヲ草シ、而シテ雄辯ノ名アルジョ
 アダムス別ニ傳
 アリヲシテ之ヲ議場ニ朗讀セシメタリ。
 爾來シフアーンソハ、聯合議會ヲ去リ、ヴァージニア州會ニ出デ、舊
 法ヲ變廢シ、新法ヲ制定スルヲニ勉メタリ。抑モヴァージニア州ハ、數
 多ノ傲慢ナル舊家ノ移住セル處ニシテ、何事ヲ問ハズ、己レ等ノ特權

ト矛盾ノ、恐レアルモノハ、痛ク之ニ抵抗スルヲ常トス。シフアーンソ
 亦閱閱ノ舊家タリ。然レドモ自由平等ノ新主義ヲ旨トシ、筆ニ、口ニ、他
 シ迄モ之ヲ主張シケレバ、遂ニ能ク流弊ヲ打破シテ、新主義ヲ行ハレ
 シムルヲ得タリ。氏ガ實行シタル改革中ノ重モナルモノヲ擧レバ、(第
 一信教ノ自由ヲ固フシ、第二財產ノ所有、及ヒ
 相續ニ關シ、夫ノ舊來英國ニ行ハル、貴族的ノ法律習慣等、凡テ共和
 政治ニ適應セザル者ヲ廢スル事是レナリ。氏ハ又ヴァージニア州ニ
 於ケル高等及ヒ尋常ノ教育ニ關シ、完全ナル學制ヲ行ハレシメタリ。
 獨立戰爭ノ當初、氏ハ、パトリック、ヘンリーニ、襲ギテ、ヴァージニア州
 ノ知事ニ任シ、爾來和局ヲ結ブ迄、此ノ最モ艱難多事ノ際ニ當リテ、常
 ニ此ノ職ニ在リ。其ノ軍人ニ、コアラザルヲ以テ、屢々敵軍ノ爲メニ生命
 ヲ危フスルヲアルモ、毫モ意ニ介セザリキ。

一千七百八十三年我カ天明三年癸卯講和條約締結ノ事、并ニ各國カ合衆國ノ獨

立テ認許シタル事ヲ國會ニ報告シ、翌年ノ會期ニ、又聯邦通貨制度議案ヲ提出シ、英國ニ行ハル、磅、志、片ノ制ヲ廢シテ、更ラニ便利ナル十位制度ヲ用ヰントノ意見ヲ述ベシカ、多數ノ贊成ヲ得テ、忽マテ實行セラレ、又一千八百年^{我カ寛政十二年庚申}以後、賣奴ノ制ヲ全廢スベシトノ意見ヲ提出セシニ、是レ亦其ノ採用スル所ト爲レリ。

既ニシテ、フアンクリン^{別ニ傳アリ}ニ代リテ、佛國駐劄全權公使ニ任シ、巴理ニ在リテ、有名ナル『ヴァーシーニア記』(Notes on Virginia)ヲ著ハシテ、歐洲全土ノ注意ヲ促カシ、喝采ヲ博シタリ。蓋シ同書ハ、氏ガ著書中ノ最モ精好ナルモノナリ。

一千七百八十九年^{我カ寛政元年巳酉}、シフアーンソノ本國ニ歸ルヤ、適、本國ノ人民ハ、華盛頓ヲ大統領ニ選ビ、氏ヲ國務卿ニ選ヘリ。國務卿ハ、大統領ノ次ニ位スル所ノ重任ニシテ、今日ニ至リテハ、大統領ヨリモ却テ重要視セラル、モノナリ。

抑合衆國ニ於テハ、從來黨派心ナルモノアラザリシガ、茲ニ至リテ聊カ其ノ萌芽ヲ見ハセリ。今其ノ原因ヲ尋スルニ、同國ニハ、獨立戰ノ當初ヨリ、フエデラリスト^{盟約黨}呼ヘル舊キ黨派有テ、王權黨ニ反對シ、遂ニ自國ノ獨立ヲ遂グルヲ得タルヲ以テ、爾來アレキサンダー、ハミルトン^{別ニ傳アリ}ヲ其ノ首領ニ戴キ、常ニ盟約政府^{合衆國ノ大政府ヲ云フ}ヲ贊成シ、其ノ維持者タリシガ、今ヤ同黨ノ中、新ニ一派ヲ生シ、シフアーンソヲ推シテ其ノ首領ニ仰ゲリ。此ノ新黨ハ、各州ヲ以テ、一ノ大政府ヨリモ寧ロ重シト爲シ、可及的大政府ノ權力ヲ制限セント企圖スルモノニシテ、今現ニデモクラット黨ト云ヒテ、レバブリカン黨ト相對峙シ、合衆國政治界ニ大元素ヲ組織スルモノ、嚆矢ナリ。夫レ斯ノ如ク同黨ノ首領シフアーンソハ、ハミルトント全ク反對ノ意見ヲ執リテ、各州ニ權利アルヲ信シ、大政府ノ憲法ヲ非トシテ論争セシカバ、是レヨリ双方ノ間ニ頗ル軋轢ノ精神ヲ喚起シ、其ノ極終ニ黨派心却テ愛國心ヲ壓倒セ

ントスルニ至レリ。

華盛頓、大統領タルヲ八年。其ノ第二任期一任期ハ四年ナリノ満ツルヤ、復ヒ職ニ就クヲ固辭シタリ。是ノ時ニ當リテ、華氏ヲ除クノ外、全國ニ最モ名ヲ知ラレタルハ、ジョソ、アダムスト、ゴフアーンソントノ二氏ナリシカバ、世人ノ目睫ハ一ニ二氏ニ注ギシガ、アダムス遂ニ最多數ノ投票ヲ得テ、大統領ニ當選シ、ゴフアーンシハ、副統領ニ當選セリ。

ゴフアーンソング副統領タリシ四年ノ間ハ、別ニ何事モナカリキ。既ニシテ次回選舉期ノ來ルヤ、氏ハ陪舊ノ活潑ナル運動ヲ爲シテ、遂ニ第三世大統領ニ當選スルヲ得、爾來八年即チ二任期ノ間ハ、全國ノ元首トシテ尊崇セラレ、米國政治家多シト雖モ、氏ヲ敬重シテ、之ニ上位ヲ讓ラザルモノナカリキ。氏ガ大統領ノ職ニ就クヤ、直ニ數多ノ改革ヲ行ヒ、殊ニ虚飾ヲ省キ、節儉ヲ旨トセリ。今其ノ一二ノ例ヲ舉ンニ、從來ノ大統領ハ、四頭立ノ馬車ニ乘リテ、就任ノ式場ニ臨ミシニ、氏ハ單騎之ニ

赴キテ、一人ノ馭者スラ從ハシメズ。又從來ノ大統領ハ、ミヅカテ國會ニ出テ、正式ノ演說ヲ試ミシニ、氏ハ報告書ヲ以テ之ニ換フルナド、所謂『ゴフアーンソンの質朴』ヲ實行シタリ。

ゴフアーンソング大統領タリシ第一期ノ間、即チアーンロン、バーア別ニ傳アリガ副統領タリシ間、一ニ於ル大事件ハ、ルイシアナナ佛國ヨリ購買シタルコ在リ。ルイシアナハ、合衆國聯邦ノ一ナリ。抑モルイシアナハ、合衆國東隣ノ大部落ニシテ、ミスシツピー河畔ヨリ、ロツキー山麓ニ延長シ、其ノ廣袤、合衆國ト伯仲ノ間ニ居リ、久シク佛國ノ占領スル所タリ。然ルニ佛帝拿破崙ガ合衆國ニ向テ、此ノ地ヲ一千五百萬弗ニ賣却セント申出ルニ際シ、國會ハ會期中ニアラザリシカバ、ゴフアーンソン以爲ラク、若シ臨時會ヲ召集シテ之ガ議ニ附スルキハ、議會ハ恐ラクハ購買ノ説ニ反對スルナラシ。否、假リニ一步ヲ讓リテ、之ニ反對スルヲナシトスルモ、英國ハ夙ニ佛國ヨリ之ヲ奪フノ計畫アルヲ以テ、時機ヲ誤タハ臍ヲ噬

トモ及ブコナカラン」ト。依リテ輿論ノ攻撃ヲ物トモセズ、悉ク責ヲ一身ニ負擔シ、斷然之ヲ購買シタリ。果セルカナ、多數ノ人民ハ、一時ノ間、痛ク此ノ處置ヲ非難シタリト雖モ、其ノ極遂ニ最大國益ノ一タルヲ悟レリ。

シフアトソンガ大統領タリシ第二期ノ間ニ於ケル大事件ハ、(第一)アイロン、バーノ審判、(第二)英國トノ葛藤ト爲ス。前既ニ述ベシ如ク、アイロン、バーハ、シフアトソンガ第一期ニ際シテ副統領タリ。故ニ今回ノ選舉ニ多數ヲ制シテ大統領ヲラント企テタリキ。然ルニ其ノ計畫管ニ書餅ニ屬シタルノミナラズ、併セテ副統領ノ椅子ヲサヘ、ジョージワクリントン (George Clinton) ノ爲メニ占メラレシカバ、其ノ遺恨遺ル瀬ナク、他ニ惡法ヲ構ヘテ以テ合衆國ノ政柄ヲ握ラント欲シ、故サラニ墨西哥ニ暴動ヲ起シテ、合衆國ト、西班牙トノ間ニ葛藤ヲ生セシメ、且ツ其他合衆國ヲ諸種ノ艱難危險ニ陥ラシメケレバ、政府ハ、遂ニバー

ヲ捕ヘテ之ヲ糾問セリ。バー、證據不充分ヲ以テ放免セラレタリト雖、爾來法律上ニ於テハ青天白日ノ身タルニモ拘ハラズ、輿論ハ之ヲ疎ミ賤シテ社會ニ容レザルニ至レリ。

又此ノ任期ノ間ニ、合衆國ハ、諸外國ト隙ヲ生シ、外國貿易ニ頗ル影響ヲ及ホシ、財政ヲ困難ナラシメタリト雖モ、就中其ノ罅隙ノ最モ大ナルハ、英國交渉事件トス。當時英國ハ一旦我カ臣民タリシモノハ、限リナク我カ臣民ナリトノ辭說ヲ口實トシテ、恣ニ大洋ニ於テ、米船ノ中ヲ搜索シ、米國水夫ヲ引致シ、之ヲ兵役ニ服セシムルモノ其ノ數ヲ知ラズ。剩ヘ一千八百七年^{我カ文化四年丁卯}六月英船リチャード號ハ、米船チエサビーク號ニ火ヲ放テテ、船内ニ闖入シ、米人四名ヲ脱營兵ナリト稱シテ引致シタリシカバ、合衆國民ハ、之ヲ聞キテ大ニ怒リ、問罪ノ師、起ササルベカラズト唱フルモノ多シ。是ニ於テ大統領シフアトソンハ、英艦ノ米國沿海内ニ來ルヲ禁シ、又出港停止條例ヲ發シ、凡テ米船ガ本

國ノ港灣ヲ離ル、コトヲ禁セシガ此ノ條例ノ爲メニ、外國貿易ニ障
碍ヲ興ヘシカバ、頗ル輿論ノ物議ヲ招キ、久シカラズシテ之ヲ廢シタ
リ。

一千八百九年 我カ文化
六年巳巳 シフアーソン、大統領ノ任期满ツルヤ、直ニ政治

界ヲ去リテ、ヴァーシニア州モンチセロニ退キ、ヴァーシニア大學創

立ノ事ニ多量ノ思考ト金錢トヲ費シツ、開日月ヲ送レリ。(同大學其

ノ後、愈、開設セラレ、氏ハ其ノ父ト呼ハレタリ)

一千八百二十六年 我カ文政
九年丙戌 病ヲ卒ス。卒スルニ臨ミテ言ヘラク、予ハ予

ノ靈魂ヲ上帝ニ託シ、予ノ娘ヲ我ガ邦ニ託ス」ト。

ヘンリー、リー (Henry Lee) リチャード、ヘンリー、ハ、
ニ、ワートン、別ナリ 一千七百五十六年 我カ寶曆
六年丙子 ヲ

アーシニア州ニ生マル。米國獨立戰ノ起ルヤ、同州騎兵六中隊長ノ一

人トシテ大尉ニ任シ、勇氣熟練ノ二者ニ由リテ少佐ニ昇任シ、特別軍

團ノ長ニ補セラル。英將コーンウチナリス 後ニ傳
アリ ノ來着シ、米將グリーン

(Greene) ノ退去スルヤ、第八編第
一章參看 リ、米軍ノ後衛トシテ、能ク敵軍ヲ防ギ、

武功アリ、爾來累進シテ將軍ニ任シ、戰爭ノ終ニ至ル迄、常ニ兵馬ノ間

ニ奔走シ、盡ス所少ナカラズ。

平和ノ後、代議士院議長ニ選バレ、一千七百九十二年 我カ寬政
四年壬子 ヲ

ニア州ノ知事ニ任シ、同九十九年 我カ寬政十
一年巳未 國會議員ニ選バル。シフアー

ソンガ大統領ノ椅子ヲ占ムルニ及ビ、リー職ヲ辭シテ退隱シ、悠々ト

シテ餘命ヲ送り、一千八百十八年 我カ文政
元年戊寅 死セリ。

第四章 獨立戰ノ近因

(其三) 波士敦人民、船載ノ茶ヲ海ニ投ス 英

政府、波士敦港ヲ封鎖ス 第一回大陸聯合

議會費府ニ會ス 〓 ハミルトンノ傳

各殖民地、聯合運動ノ必要ヲ感ス

本國ト分離ノ志起ル

東印度會社國會ニ愁訴ス

波士敦人民、拍賣ノ茶ヲ海ニ投ス

一五四

今ヤ獨立ノ精神ハ、マサチユセツツ州ヨリ漸ク他ノ地方ニ傳播シ、各州到ル處此ノ精神ノ爲ニ鼓舞セラレザルハナク、其ノ重モナル人々ハ互ニ氣脈ヲ通シテ以テ將來ノ方針如何ヲ協議セリ。而シテ國會ノ一舉一動ハ、益々彼レ等ノ感情ヲ一ナラシメ、相提携ノ聯合運動ニ着手スルノ必要ヲ感セシメタリ。然レ當時猶多數ノ人々ハ、只課稅ヲ以テ不條理ト爲シ、之ニ抵抗スルノミニ止マリテ、未ダ本國ト分離スルノ志ヲ起サザリシガ、偶々一令ノ爲メニ痛ク憤激シ、遂ニ悉ク分離ノ志ヲ決スルニ至レリ。予ガ纂キニ『印度蠶食戰史』ノ中ニ叙述セシ如ク、當時東印度會社ハ、マイソアノハイメー、アリ汗(Hyder Ali Khan)及ビハイデラバッドノナイザム、アリ(Nizam Ali)ト戰チ交ヒ、一七六七年乃至一七六九年ニ在リ殊ニ孟加拉ニ於テ飢饉一七七〇年ニ在リアリシガ爲メニ、財政頗ル困難ヲ極メケレバ、國會ニ向テ之ヲ愁訴シ、且ツ言ヘラク、近來米洲殖民地ノ人心不穩ナルヲ以テ、茶ノ賣レ行キ甚宜シカラズ。空ク倉庫ノ中ニ堆積セルモノ凡ソ一千七百萬封ポンドアリ。願ハク

ノリス卿ノ不
明、遂ニ大
去ラシム

米人ノ決心

三艘ノ茶船波
士敦港ニ着ス

ハ此ノ茶稅ヲ悉ク本國ニ納メ、茶ヲ殖民地ニ輸出セン。然ルレハ、同地ニ於テ、納稅ノ煩累ヲ免カル、カ故ニ、其ノ賣レ行キモオノツカラ宜シカラント。然ルニ、總理大臣ノリス卿(Lord North)一七七〇年一月就職。同八月、庸劣ニ在リ。先見ノ明ニ乏シク、米人ガ茶稅ヲ納メ肯ンセザル所以ノモノハ、其ノ不條理ナルニ在リテ、其ノ輕重コアラザルヲ悟ルヲ能ハズ。指令スラク、東印度會社ハ、須ラシ總稅額ノ四分ノ三ヲ英政府ニ納ムヘシ。他ノ四分ノ一、即チ每封三片ポンドノ稅ハ、英政府之ヲ米人ニ課セン。殖民地ノ租稅ヲ免除スルガ如キハ、王命ニ背クヲ以テ、許容シ難シト。此ノ評判ノ米洲ニ達スルヤ、殖民ハ大ニ驚キテ以爲ラク、若シ一旦此ノ茶ヲ各地ニ陸揚ゲセシムルナラハ、恐ラクハ其ノ賣買ヲ止ムルヲ能ハザラント。依リテ之ニ妨碍ヲ與ヘテ陸揚ゲヲ爲シ得ザラシメント決セリ。

十一月ニ至リ、東印度會社ヨリ愈々三艘ノ船ニ茶ヲ積ミ來リテ、將ニ波

米國獨立戰ノ原因

一五五

士敦ニ入港セントス。此ノ報、同港ニ達シケレバ、人民ノ動搖一ト方ナラズ。三々五々隊ヲ組ミテ、代理商ヲ脅迫ス。代理商恐レテ、ウヰリアム堡ニ逃ル。幾モナクシテ、茶ハ若港シケレバ、波士敦、及ヒ近隣ノ人民無慮五千人相會シテ、船舶ヲ逐ヒ還スベキノ議ヲ決シ、代理商、及ヒ其ノ他船舶ニ關係アル人々ニ其ノ旨ヲ傳フ。三人ノ船長ハ、茶ノ損失ヲ蒙ムルコトナクシテ退クヲ得策トシ、決議ノ旨ニ從ハントス。然レドモ、知事ハ固ヨリ壓制ヲ行フコト恠レタルヲ以テ、此ノ圓滑手段ヲ是認セズ。而シテ税關ハ船舶ノ解纜ニ必要ナル出港狀ヲ下附セズ、知事亦船舶ノウヰリアム堡ヲ通航スルコト必要ナル認可ヲ與ヘザルガ故ニ、船長等如何トモ爲シ難ク、心ナラズモ港内ニ碇泊セリ。

波士敦ノ人民
茶ヲ海ニ投ス

是レヨリ先キ、波士敦人民等ノ集會ニ「茶ヲ海ニ投セヨ」ト叫ブ者一人アリ。而カモ他ニ賛成者ナキヲ以テ、其ノ事行ハレサリシガ、今ヤ知事ガ船舶ノ出港ヲ許サザルト聞キテ、人民等ハ最早堪ユルヲ能ハズ、四五十名

ノ人々、其ノ面色ヲ黒クシテ印度人ニ扮シ、鯨波ヲ掲グテ急ニ茶船ノ碇泊セル埠頭ニ進ミ、一体ノ護衛ヲ置キテ以テ船舶ヨリノ攻撃ニ備ヘツ、船中ニ侵入シテ茶箱三百四十二箇ヲ毀テ、茶ヲ取り出シテ、之ヲ海中ニ投セリ。此ノ間、群民ハ黙々トシテ、海岸ヨリ現場ヲ目撃セシガ、事終ルヤ否ヤ、悠々トシテ各自ノ家ニ歸レリ。又ポール、リヰヰリア(Paul Revere) 彫刻師ニシテ、愛國者ナリ。一七三五年(我カ享保二十年乙卯)生シ、一八一八年(我カ文政元年戊寅)死ス。ハ、直ニ出發シテ、此ノ事件ヲ新約克及ヒ費府ニ報セリ。

又此ノ時、新約克ニ來着セル茶船ハ、總計二艘ナリシガ、其ノ一艘ハ、米人入港ヲ拒ミテ之ヲ送り還ヘセリ。他ノ一艘ニハ、自餘ノ物品ヲ積ミタリト稱シテ、竊カニ茶箱十八箇ヲ交ヘシガ、米人之ヲ發見シテ、船渠ニ投セリ。「チャールストン」南カロライナ州ニ於テハ、茶ノ陸揚ケヲ許シタリ。然レドモ其ノ卑濕ノ害中ニ積ミ置カル、間ニ紛失シテ一箱ヲモ存セズ。願フニ、何者カ之ヲ奪ヒ去リシナルベシ。費府ニ向ヒタル茶船ハ、既

ニ四哩ノ處ニ接近セル時船長適々府民ガ其ノ陸揚ヲ許サザルヲ
 悟リタレバ、強テ陸揚ヲ爲スノ危険ナルヲ慮リ、直ニ英國ニ向テ歸帆
 シタリ。アンナポリスメリーランド州ニ於テハ、船一ト茶箱ト共ニ米人ノ爲メ
 ニ燒キ棄テラレ、船主モ亦米人ノ怒ヲ和ラケンカ爲メニ、彼レ等ヲ佐
 ケテ火ヲ注ゲリ。

英政府、波士敦港ヲ封鎖ス

既ニシテ殖民ガ茶ノ陸揚ゲヲ許サザリシトノ報英國ニ達シケレバ、王
 ト國會トハ、大ニ其ノ不法ヲ憤リテ之ヲ威迫セント欲シ、就中波士敦ハ
 匪行ノ本源ナレバ、痛ク之ヲ罰シテ、他ノ鑑戒ト爲サント欲セリ。左レバ
 此ノ議案ノ國會ニ出ルヤ、國會ハ、一ニ對スル四ノ割合ヲ以テ之ヲ通過
 シ、波士敦ヲ封鎖シテ、一切貿易ヲ禁止スル事、マサチユセツツ州ノ政廳
 チ同港ヨリサレムニ移ス事ヲ議決シ、而シテマサチユセツツハ、其ノ消
 却シタル茶ニ對シテ賠償ヲ中シ出テタルニモ拘ハラズ、猶懲戒ノ爲メ
 ニ其ノ特許狀ヲ廢シ、其ノ特權ヲ奪フノ法律ヲ議定セリ。所謂港議案是

自餘ノ苛法酷律ヲ施行ス

レナリ。當時國會ハ推想スラク。波士敦ハ必ラズ閉口頓首シテ悔悟謝罪
 スルナラント。

國會ハ更ニ一步ヲ進メテ、其ノ他各種ノ苛法酷律ヲ議定セリ。其ノ一
 ナ新定兵士宿泊法ト爲ス。此ノ法ニ據レバ、凡テ殖民地ニ於テハ、民費
 ナ以テ兵士ヲ宿泊セシメザルヲ得ザルナリ。其ノ二ナ同法ニ附屬ス
 ルモノト爲ス。此ノ法ニ據レバ、前法ヲ施行スルニ當リ、タトヒ兵士等
 亂暴ノ舉ヲ行クモノアリトモ、之ヲ責罰スルノ權ハ本國ニ存シ、殖民
 地ハ之ヲ如何トモスルヲ能ハズ。蓋シ此ノ一項ハ、擅横ノ處置ヲ獎勵
 スルモノト謂フベク、殖民ヲシテ文武官ノ暴戾ニ堪エザラシムベキ
 モノナリ。其ノ三ナクニベツク條例ト爲ス。此ノ法ニ由リテ、在加拿陀
 ノ天主教徒ニ非常ノ恩典ヲ與ヘ、一朝英國ト米洲殖民地トノ間ニ爭
 亂起ルノ曉、彼レ等ヲシテ心ヲ本國ニ寄セシメントセリ。此ノ令一々
 ビ出テ、ヨリ、人民ノ心裏ニ潜伏セル宗教爭論熱再ヒ發揮シテ顯熱

ト爲ルニ至レリ。

以上諸令ハ、英國ノ國會ニ於テスラ、無用ノ虐政トシテ異議ヲ唱フルモノ少ナカラズ。况ンヤ米國ニ於テヤ。左レバ英政府ノ此ノ處置ハ、殖民ノ憤怒ヲ深カラシメ、怨恨ヲシテ骨髓ニ徹底セシメタルモノナリ。

殖民地凡テ波士敦ニ同情ナシ

殖民地到ル處波士敦ニ同情ヲ懷カザルハナク、サレム府ノ如キハ、現ニ政廳所在ノ地ト爲ルベキノ好運ニ際會シツ、隣地波士敦ノ不幸ト爲ルベキ事ヲ了承スルニ忍ビズト云ヒテ之ヲ固辭シ、マールブルヘツド亦マサ亦マサツツ州ノ如キハ、無料ヲ以テ、我が港ヲ波士敦商人ノ使用ニ供セリ。ソモ、波士敦多數ノ人民ハ、平素貿易ノ間ニ奔走シテ生計ヲ營ムモノナルニ、今ヤ貿易ノ路塞ガリタルヨリ、オノヅカラ職業ヲ失ヒ、飢餓ニ迫リケレバ、新英蘭ハ、之ニ日用品ヲ送り、南カロライナハ、米二百樽ヲ給シ、又他ニ八百樽ヲ給スベキヲ約シ、北カロライナハ、金二千磅ヲ、釀ノ之ヲ送り、而シ

ゲージ將軍ノ武斷歴制

テ皆一樣ニ獎勵スラク。正理ヲ執リテ撓マザレ。一握ノ茶ニダモ租稅ヲ拂ハザレト。ヴァーヂニア、及ヒメリーランドモ亦相競フテ、波士敦ニ助力シ、華盛頓其ノ人ノ如キハ、有志會ノ牛耳ヲ執リテ、ミヅカフ五十磅ヲ義捐セリ。其ノ他、殖民地西境ノ農民等ハ、一百三十七桶ノ麵包粉ヲ贈リ、加拿大シエベツクノ英人、佛人ハ、一千桶以上ノ小麥ヲ贈リ、倫敦ノ都人士スラモ十五萬弗ノ金ヲ釀シテ之ニ贈レリ。而シテ波士敦人民ハ、此ノ困厄ノ際ト雖モ、更ニ一人ノ暴動ヲ起シ、不穩ノ舉動ヲ爲スモノナカリキ。此ノ時、ゲージ將軍(General Gage)ハ英政府ヨリ亞米利加駐在軍ニ任セラレ、且ツハツチンソンニ代リテ、マサチユセツツ州ノ知事ニ任セラレシガ、人ト爲リ、頑愚ニシテ波士敦人民ヲ馭スルノ道ヲ知ラズ。只文武ノ二權ヲ振ヒテ之ヲ壓迫セント謀リシガバ波士敦人民ハ更ニ一層ノ激昂ヲ加ヘケリ。

當時全殖民地相謀リテ、大陸聯合議會ヲ費府ニ開クノ議ヲ決シ、而シテ各州共ニ同會ニ出席セシムベキノ代議士ヲ選定スルヲニ忙ハシカリキ。彼ノ有名ナルアレキサンダー、ハミルトンガ波士敦ノ集會ニ頭角ヲ現ハシタルハ正ニ此ノ時ニ在リ。

ハミルトン

我カ寶曆
七年丁丑

西印度諸島ノ一ナルチヅヰス島ニ生ル。父ハ蘇格蘭人タリ。母

ハ佛國基督新教徒ノ女ニシテ、容色才能兼備セリ。ハミルトン尙襁褓

ニ在ルノ日、母ハ既ニ此ノ世ヲ去リ、父ハ貧困ニシテ養育ノ責ニ任スル

ヲ能ハズ。故ニ外戚ノ爲メニ養ハレテ人ト成レリ。左レド氏ガ英邁ノ

資稟ハ夙ニ幼時ノ舉動ニ顯ハレ、世人一見、其ノ異常ノ人タルヲ知レ

リ。年十二、一商家ニ入ル。然レドモ性、區々タル牙籌ノ業ニ適セズ。且ツ

固ヨリ之ニ堪ユベキニアラズ。一友童ニ書ヲ與ヘテ曰ク、予ハ寧ロ一

命ヲ危フスルトモ、高ク現在ノ地上ヨリ飛ハントス。現在ノ地位ハ、予

ニ宿望ヲ達スルノ機會ヲ與フベキモノニアラズ。予ハ將來ノ爲メニ手段ヲ備ヘント欲スルナリト。是ニ於テ事業ノ餘暇ヲ以テ、アルターク (Plutarch) ノ『英雄傳』(“Lives”) 及ヒポープ (Pope) 等諸氏ノ著書ヲ讀ミ、又頻リニ文章ヲ草シ、颶風西印度ニ吹クノ文ヲ公ニシテ、頗ル世人ノ注意ヲ惹キ、親戚ヲシテ、奇才久シク糞土ニ埋没セシムベカラズトノ感情ヲ起サシメタリ。一千七百七十二年 我カ安永元年壬辰 突然波士敦ニ舟行シ、同地ヨリ又新約克ニ赴ケリ。新約克ハ氏ガ生涯ノ居住地ト爲セシ所ナリ

當時ハミルトンノ主眼トスル所ハ學問ノ上達ニ在リ。故ニ此ノ機會ニ乘シテ、學校ニ入りテ、刻苦勉勵シ、歲餘再ヒ新約克ニ歸リテ、キング大學 今ノコロネビア大學 ニ入ル。時ニ年紀僅ニ十六。然レモ既ニ他人ノ先ヲ制スルノ志ヲ存シ、大學正科ノ外、又一教師ニ就キテ諸科ヲ修メ、頃刻ノ間ニ累リニ昇級シクリシカバ、同地ノ人民、舌ヲ捲キテ驚嘆スラク。嗟々那

ノ西印度少年ハ、早晚雷名ヲ轟カスノ日アラント。
居ル。二年ニシテ波士敦ニ遊ブ。是ノ時ニ際シ英國ガ殖民地ヲ待遇
スルノ法甚其ノ宜シキヲ失ヒ、殖民地到ル處不平ノ聲ヲ滿クサザル
ハナク、波士敦ノ市民モ亦正ニ激昂ノ度ヲ高メテ、郊外ニ大集會ヲ開
キ、新約克ニ迫リテ、自餘ノ殖民地ト共ニ聯合議會設置ノ準備ヲ整ヘ
シメントス。左レバ、ハミルトンハ、辯士ノ所論如何ヲ叩キテ然後爲ス
所アラント欲シ、集會ノ中ニ加ハリタリ。左レド失望セザルヲ得ザリ
キ。何トナレバ辯士ノ説ク所、肝腎ノ要点ニ論及セザレハナリ。是ニ於
テ氏ミヅカラ辯士ノ遺漏ヲ補ハント欲シ、敢テ群集ヲ押シ分ケテ演
壇ニ登リシカバ、群集ノ人々ハ此ノ屬弱少年ノ大膽ナルニ驚キ、其ノ
瞳孔ハ一ニ彼レニ注ゲリ。サテハミルトンハ、瞬間ノ猶豫ヲ爲シタル
後、艦ヲ懸河ノ雄辯ヲ振テ、其他ノ辯士カ言ヒ及バザル所ヲ論究シ、勉
メテ正理ヲ説キ、感情ニ訴ヘシカバ、人々其ノ卓識ニ感動セラレテ覺

エズ愉ト呼ビ、快ト唱ヘ、氏ガ他邦ノ一少年ナルヲ打忘レタリ。之ヲ氏
ガ世界ニ名ヲ知ラレタルノ嚆矢トス。

氏亦『殖民ノ權利』ト題スル論文ヲ草シテ、續々之ヲ發行シ、殖民地勤王
黨ノ各機關雜誌ヲ攻撃シタリシガ、其ノ議論學識一點ノ間隙ナク、決
シテ十七歳ノ少年ガ爲シ得ヘキモノニアラズ。左レバ勤王黨ノ人々
ハ以爲ラシ。是レ必ラズ反對黨領袖ノ草スル所ナラント。豈圖ランヤ、
其ノ筆者ハ則チ一童子ハミルトンナリケルニツ、氏ハ是レヨリ愈々
敵味方ノ間ニ其ノ名ヲ知ラル、ニ至レリ。爾來氏ハ續々英國攻撃論
ヲ草シ、又ハ公會ニ於テ演説ヲ試ミ、又其ノ餘暇ヲ以テ軍事ヲ學ビ、演
習ヲ行ヒ、同胞ノ爲メニ心身ヲ獻セントノ覺悟ヲ極メ、同胞モ亦氏ニ
感激セラレテ、遂ニ義旗ヲ舉グルニ至レリ。

一千七百七十六年 我カ安永五年丙申 ハミルトン未マダ十九歳ニ滿クズ、身ヲ挺
シテ軍籍ニ入り、砲兵隊ヲ指揮セシガ、其ノ訓練ノ周到ナル、老功ノ將

士モ三合ヲ避クベカリシカバ、グリーン將軍 (General Greene) 感賞措ク
能ハズ。之ヲ華盛頓將軍ニ紹介セタリ。次デロング、アイランド、ホワイ
ト、ブレインズ、ツレントン、プリンストンノ戦ニ、相續テ軍功ヲ顯ハシケ
レバ、其ノ翌年^{一七七七年}中佐ニ擢テラレ、華盛頓裨將ノ一人ト爲レリ。
華盛頓モ亦氏ノ才畧ヲ看破シ、秘書官ニ舉ゲテ樞機ニ與カラシメ、軍
隊ノ進退措置、一ニ氏ニ諮詢セリ。亦以テ氏ガ華盛頓ニ信任セラレタ
ルヲ証スベキナリ。

是ノ時ニ當リテ、ハミルトン既ニ深ク國家ノ財政ヲ憂ヒ、屢々意見ヲ
草シテ之ヲ公ニシタリキ。蓋シ氏ハ固ヨリ軍人タルノ伎倆ヲ備ヘザ
ルニアラズ。然レドモ其ノ國家ニ對スルノ功勞ハ、寧ロ政治家トシテ
ノ伎倆ニ在ルナリ。

英米既ニ和ヲ媾シ、天下泰平ニ復スルヤ、ハミルトン、新約克ヨリ選ハ
レテ聯合議會員ノ椅子ヲ占メ、議會中ノ錚々者タリ。左レド當時ノ議

會ハ組織其ノ宜シキニ稱ハズ殊ニ氏ノ議多ク合ハザルヲ以テ、僅々
數月ニシテ職ヲ辭シ、辯護ニ從事シテ頗ル名聲ヲ博セリ。

フランクリンガ奴隸廢止會ヲ組織シ、其ノ會長ト爲ルヤ、ハミルトン
亦其ノ會員ニ列シ、凡テ會員タルモノハ、須ラク先ツ自家ノ奴隸ヲ解
放セザルベカラズト主張シタリ。

爾來數年ノ間、議會ノ勢力ハ微弱ヲ極メ、瑣々タル一隊ノ兵士ガ横行
スルアルモ、爲メニ恐嚇侮辱セラレテ、費府ノ正場ヨリ、プリンストン
ニ逐ハル、ホドナリシカバ、ハミルトン此ノ狀況ヲ見テ憂慮ニ堪エ
ズ。以爲ラク、今ヤ邦内各州ニ分裂シ、信用地ニ墜テテ貿易振ハズ。宜シ
ク合衆政府ヲ強盛ナラシメザルベカラズト。依リテミヅカラ率先シ
テ、各州ノ聯合ヲ鞏固恒久ナラシムベキノ運動ヲ爲シ、盟約憲法編制
會議員ニ列シテ、縷々意見ヲ陳述シ、憲法ノ草案成ルニ及ヒテハ、人民
ノ承諾ヲ得ルコトニ勉メ、且ツシエームス、マヂソン (James Madison) 合衆國
第四世

大統領ヨヨシ、シエー (John Jay) 裁判ト共ニ『新約克ガゼット』ト題スル憲法雜誌(後フェデラリスト [Federalist]) 長ト共ニ『改題ス』ヲ發行シテ、大ニ其ノ執ル所ノ憲法論ヲ主張セリ。但シ此ノ雜誌ハ、大半氏ノ筆ニ成レルモノニシテ、其ノ議論ノ高尚卓絶ナル、自他兩黨共ニ賞讃シテ米國憲法ヲ解釋スベキ無双ノ良雜誌トシ、且ツ此ノ雜誌ヲ以テ、氏ガ國ニ盡セル二大功勞ノ一ト爲スモノナリ。而シテ彼ノ憲法ガ一般ニ容ラレタルハ、氏ノ力許多ナリト云フ。

然レドモハミルトンノ鴻業ハ財政整理ヲ以テ最トス。若シ夫レ新國ノ破産ヲ防ギ、其ノ信用ヲ復シ、新政府ガ着手スベキ諸項ノ根據ヲ堅固ナラシメタルハ、則チ氏ガ獨リ遂ケタル所ノ功績ト謂ハザルベカラズ。

是レヨリ先キ、ロバート・モリス (Robert Morris) 合衆國ノ既ニ北米銀行ヲ設立シ、公債證書ヲ抵當トシテ、公私ニ貸附ヲ爲シ、又紙幣ヲ發行シテ流

通貨幣ノ不足ヲ補ヒタリ、左レドモハミルトンハ以爲ラシ。此ノ他ニ尙英佛兩國ノ制ニ倣ヒテ、一ノ國立銀行ヲ建設セザルベカラズ。又以爲ラシ。政府ハ宜シク直接ニ紙幣ヲ發行ス可ラズ。強テ之ヲ發行スルハ、惡弊ニ陥リ易カラント。氏ガ先見ノ明カナルコトハ、將來ノ綠背紙幣ニ徴シテ知ルベシ。依リテ國會ノ同意ヲ經テ、一千七百九十一年 我カ寛政三年 亥ヲ以テ國立銀行ヲ建設シタリシガ、果シテ氏ノ豫想ノ如ク、充分ノ効驗ヲ奏シ、信用故ニ復シ、貿易興業再ビ活潑ノ光景トハ爲レリ。但シ氏ハ熱心ナル保護貿易家タリ。

有徳公稱ス。豪傑ノ士ハ、卓然自立、流俗ニ合スルヲ求メズ。是ヲ以テ毀譽相半ス。譽アリテ毀ナキ人ノ如キハ予ノ取ラザル所ナリト。凡ソ非凡ノ政治家ニ讐敵多キハ古今萬國ノ免カレザル所ナリ。ハミルトンノ才識功勞之ヲ妬ム者、之ト意見ヲ異ニスル者固ヨリ多カルベシ。况ンヤ敏捷端嚴、ミツカヲ信スルヲ篤ク、性峻峭、尋常ノ人ヲ包容スルコ

能ハザルニ於テチヤ。夫ノア・イ・ロン、別ニ傳アリノ如キハ、有爲堪能ノ人
 タリシニモ拘ハラズ、ハミルトンハ尙信任スベカラザル人トシテ之
 チ攻撃シタリシカバ、彼レ深ク之ヲ啣メリ。加フルニ、別ニ傳アリノ如キハ、有爲堪能ノ人
 ント大統領選舉ヲ争フニ當リテ、ハミルトンハ、シフ・アイ・ソンチ助
 ケ、別ニ傳アリノ如キハ、有爲堪能ノ人トシテ之ヲ攻撃シタリシカバ、彼レ深ク之ヲ啣メリ。加フルニ、別ニ傳アリノ如キハ、有爲堪能ノ人
 パー大ニ怒リテ、ハミルトンニ其ノ理由ノ説明ヲ求め、尋デ決闘ノ申
 込ヲ爲セリ。是ニ於テ、ハミルトンハ、容易ク申込ヲ承諾シ、遂ニパーノ
 銃丸ニ仆レタリ。時ニ一千八百四年我カ文化元年甲子享年四十七歳ナリ。
 ソモ、ハミルトンハ、米國獨立諸傑中ノ最少者ニシテ、華盛頓ヨリ少カ
 キヲ二十五歳。其ノ他ノ名士ニ比スルニ、二十年乃至十年ノ少者タリ。
 而シテ政治家トシテ、政治家トシテ、法律家トシテ、雄辯家トシテ、殆ン
 ド其ノ類ヲ見ズ。僅々三十年ノ短日月間ニ、絶世ノ功績ヲ奏セリ。豈偉
 ナラズヤ。只夫レ不幸ニシテ、天之ニ年ヲ假サズ、手サ・アイ・ロン、パーニ

第一回大陸聯合議會

假リテ、世ヲ早フセシム。合衆國ノ爲メニ深ク惜ムベキナリ。
 各州既ニ代議士ヲ選定シケレバ、一千七百七十四年我カ安永三年甲午九月五日ヲ
 以テ、費府カーペンタース、ホールニ第一回大陸聯合議會ヲ開キ、相會ス
 ル名士凡テ五十五名。ミナ殖民地第一流ノ偉傑ナリ。今其ノ重モナル人
 々ヲ擧レバ左ノ如シ。但シヨヨイワア州ノミハ、壓制ナル知事マリーチン
 (Martin)ノ妨グル所ト爲リテ、代議士ヲ出ス不能ハザリキ。

- | | | |
|---------------|-------------|---------------|
| ジョージ・ワシントン | バトラー、ヘンリー | リチャード、ヘンリー、ロー |
| エドワード、ラットレツヤ | ジョーン、ラットレツヤ | ガツセン |
| サミュエル、アダマス | ジョーン、アダマス | ロウヤー、シエアマン |
| フザースプーン、ジョン | ジョーン、ジョー | ウヰリアム、イヴンガストン |
| ウヰリアム、イヴンガストン | | |

ウヰリアム、イヴンガストン
 (ウヰリアム、イヴンガストン博士ハ、蘇國不勒斯比得教ノ宣教師ナリ。數年前ヨリ、殖民地ニ來リテ、プリンストン
 學校ノ長タリ。其ノ自由ヲ愛スルノ念、殖民ニ讓ラズ。今ヤ選バレテ此ノ代議士ト爲レルモノナリ。)

米國獨立戰ノ原因

是ニ於テ、ウアーゴアノ代議士ペイトン、ランドルフ (Peyton Randolph) が最高年ナルヲ以テ、之ヲ議長ニ選ビ、ペンシルヴァニアノ代議士チャールズ、タムソン (Charles Thomson) ナ書記ニ選ベリ。ランドルフハ、モト愛蘭ノ人。少時亞米利加ニ來リテ茲ニ永久ノ住宅ヲ定メ、輒近費府クエーカ「商業學校長」タリ。誠實ヲ以テ知ラレタル君子ナリ。愈々議事ニ着手セントシケルニ、或ル人ハ、先ツ祈禱ヲ爲シ然ル後着手スベシト云ヒ、又或ル人ハ代議士各々禮拜ノ法ヲ異ニスルガ故ニ、不可ナリト論シ、二説共ニ贊成者アリテ、未ダ孰レモ決スルコト能ハズ。既コソ、サミユール、アダムスハ、起テテ論スヲク「此ノ期ニ臨ミテハ、又祈禱法ノ異同ヲ問フベキニアラズ。予ハ好デ他人ノ法式ニ從ハント欲ス。諸君請フ予ト意見ヲ同フセラレシヨト」衆議茲ニ一決シ、費府ニ名望アル基督教ノ僧ツーセ上人 (Reve Duché) ナ招キテ、之ニ法教師ノ任ヲ委テ、讚美歌第三十五編ヲ誦ヒテ、熱心ニ議事ニ着手セリ。偶々ゲーロ將軍、波士敦ヲ

砲聲シタリトノ風聲、費府ニ達シ、議員ヲシテ一驚ヲ喫セシム。既ニシテ其ノ虛報ナルヲ明カニシタリト雖モ爾來各議員ノ間ニ同情ノ念ヲ加ヘ、殖民悉ク同胞ナレバ、相提携シテ、共同ノ敵ニ當ラザルベカラズトノ感情ハ、各自ノ心裏ニ烈シク喚發スルコト至レリ。祈禱既ニ終テ告グルヤ、滿場ノ議員悉ク沈黙シ、寂然トシテ人ナキガ如シ。少遷アリテ、パトリック、ヘンリー徐カニ起テ一場ノ演説ヲ試ミシガ、其ノ辨舌ノ流暢ナル、議論ノ適切ナル、深ク衆人ノ心ニ感銘セリ。討議ノ末、委員ヲ選ビテ、之ニ「權利宣言書」ノ起草ヲ托シ、書中殖民ハ生命自由財産ノ權利ノ如キ、天賦ノ諸權ヲ有スルヲ算ヘ、英國ノ人民トシテ、参政ノ權、陪審ノ權、公會ノ權、請願ノ權アル旨ヲ主張シ、彼ノ吾人ノ同意ヲ經ズシテ殖民地ニ常備軍ヲ置キタルガ如キ、并ニ「ヨージ三世ノ即位以來制定セラレタル十一箇ノ法令ノ如キハ、殖民ノ權利ヲ蹂躪セルモノナリト論シ、最後ニ一項ヲ加ヘテ言ヘヲク「我カ米人ハ、斯ル有害

ノ法令政策ニ服従スルヲ能ハズト。

議員ハ、平和手段ニ由リテ、權利ヲ恢復シ、疾苦ヲ救正セント欲シ、相謀リテ「亞米利加協會」ヲ組織シ、其ノ會則ノ中ニ約スラシ。吾人ハ大不列顛、或ハ西印度諸島、若クハ賣奴ノ制ノ行ハル、諸國ト貿易ヲ爲サザルベシ、又英國ノ物品、及ヒ茶ヲ使用セザルベシ。此ノ協會ニ加ハラザル殖民地トモ亦貿易ヲ爲サザラント。

ペンシルヴァニアノ人ジョン、ヂッキンソン (John Dickinson) ハ、囑托ヲ受ケテ、英王ニ充テタル請願書ト、加拿陀人民ニ充テタル檄文トヲ草シ、ヴァージニアノリチャード、ヘンリー、リト、ハ、殖民地人民ニ充テタル記録ヲ草シ、新約克ノジョン、ジャー (John Jay) ハ、英國人民ニ充テタル檄文ヲ草シ、熟議ノ後、之ヲ發送セリ。左レハ英吉利本國ニ於テモ、心アル人々ハ頻リニ之ニ眼ヲ注ギ、チャタム伯^{老ビ}ノ如キハ、口ヲ極メテ米人ヲ頌讚シ、切ニ内閣ニ向テ、彼レ等ノ要求ヲ容レ、手ヲ携ヘテ並ビ行カンヲ望メ

第二編 米國獨立戰ノ第一年

(一千七百七十五年^(我カ安永四年乙未))

第一章 レキシントンノ戰(革命ノ亂始メ

テ破裂ス)

附米將アットナムノ傳

(羽化生曰ク。是レヨリ以下凡テ戰爭ニ關スル記事ハ、卷末ニ掲ゲタル「米國獨立ニ關スル重大事件ノ表」ト參看セラレニテ可ク)

危機漸ク切迫ス

全國聯合議會ガ猶討論熟議シツ、アルニ際シ、波士敦及ヒ其ノ附近ニ於テハ、百事漸ク面目ヲ變更シタリ。即チ人民ハ、武事ノ演習ニ着手シ非

米國獨立戰ノ第一年

一七五

レキシントンノ戰(革命ノ亂始メテ破毀ス)

常駐附人ハ、都鄙到ル處ニ隊伍ヲ組成シ、誓テ曰ク、非常ノ事起ラバ、一分
 時間ヲ過ギズニテ戰備ヲ整ヘント。會々英國内閣ハ、軍用品ヲ米洲ニ送
 ルヲ禁シ、且ツ竊カニ王黨ノ諸知事ニ命シテ、殖民地各武庫ノ中ヨリ、一
 切ノ兵器火藥ヲ掠奪セシム。ゲーショハ、命ヲ奉シテ、夜中竊カニ一隊ノ兵
 卒ヲチャールスタウンニ遣ハシ、武庫ノ火藥ヲ奪ヒテ、之ヲウヰリアム
 堡ニ移セシガ、非常駐附人ハ早クモ此ノ事ヲ聞キ附ケシカバ、急ニ相集
 リテ、各々憤怒ノ色ヲ顯ハシ、知事ヲ面責シテ、再ヒチャールスタウンニ
 還ヘサシメント罵リ、今ニモ一大事ヲ引キ起サンズアリサマナリシニ
 ヲ、其ノ他ノ人々ハ、百方之ヲ慰諭シテ、漸ク事ヲキヲ得タリ。

是レヨリ先キ種々ノ浮説ハ國中ニ傳播セリ、曰ク、英軍不日波士敦ヲ襲
 フベシ。曰ク、同港今現ニ英國艦隊ノ爲メニ砲撃セラル。曰ク、英兵、波士敦
 ノ市街ニ於テ市民ヲ射殺シタリト。マサチユセツツ、及ヒコンチクサカ
 ヲトニ在ル血氣ノ壯士數千名ハ、市塵ヲ棄テ、田圃ヲ後ニシテ、我レ勝ヲ

ゲーショ、推察
ヲ誤ル

ニ救護ニ赴カントス。途ニシテ風評ノ全ク無根ナルヲ悟リ、無事ニ各自
 ノ家ニ歸レリ。然ルニ、マサチユセツツ州ノ知事ゲーショハ、モト腕力一方
 ノ軍人ニシテ、時世ヲ看破スルノ明ニ乏シク、恃ム所ハ武斷壓制ノミニ
 在リテ、自由主義ノ何モノタルヲ知ラズ。彼ノ壯夫等ノ動搖セルヲ見テ
 速了ニモ叛亂ヲ企ツルモノト爲シ、一聯隊ノ兵ニ命シテ、波士敦ト大陸
 トヲ聯絡スル咽喉ノ地ヲ扼セシメ、彼我ノ交通ヲ斷タシメタリ。
 此ノ報忽チ全殖民地ニ擴ガリケレバ、チャールスタウン附近ノ人民ハ
 武庫既ニ火藥ハ奪ハレタレドモヲ占領シテ以テ不虞ニ備ヘ、コウハムシア州ボーツマウ
 スニテハ、未來ノ陸軍少將、ジョーン、サリヴァン(John Sullivan)一中隊ノ兵ヲ
 率ヰテ、堡寨ヲ奪ヒ、火藥一百箱、大砲若干ヲ運ビ去レリ。コウボートロード
アイランド
 州ニテハ、軍艦ノ不在ニ乗ジ、大砲四十四門ヲ奪ヒテ、之ヲプロヴン
 スニ移シ、コンチクサカツト州ニテハ、議會ハ、諸府ニ命シテ、彈藥ノ準備
 チニ倍セシメ、屢々民兵ノ演習ヲ爲サシメタリ。獨リ新英蘭ニ於テ躍起

スルノミニ止マラス、中部及ヒ南部ノ殖民地ニ於テモ、亦頻リニ防備ノ策ヲ講セリ。

殖民ガ斯ノ如ク動搖スルニ際シ、ゲーショハ、調和ノ策ヲ執ラント欲シテ、マサチユセツツ州會ヲサレム府ニ召集シタリシガ、適々同府會ノ激昂セルヲ見テ大ニ驚キ、急ニ召集ノ令ヲ取消シタリ。議會ハ猶集會シタリシガ、何人モ誓約ヲ管理スベキモノナク、開會ヲ指揮スベキモノナキガ故ニ、議員一同、ユンコルドニ移リテ、更ニ一州會ヲ組織シ、而シテ、ジョン・ハンコック(John Hancock)ヲ議長ニ、ベンヤミン・リンコルン(Benjamin Franklin)ヲ書記ニ選ビテ、議事ニ着手セリ。是レ則チ王命ヲ待タスシテ州會ヲ開キタル濫觴ナリ。

サテ此ノ州會ハ、ゲーショニ書ヲ送リテ、國會ガ近日發布セル法令ニ關シ、知事自身ノ壓制手段ニ關シ、并ニ波士敦地峽警衛ニ關シテ不平ヲ訴ヘシニ、ゲーショハ、腹トシテ充耳ノ如ク、州會ノ苦心ヲ水泡ニ歸セシメタリ。

左レバ、州會ハ、更ニ爲ス所アラントノ心ヲ決シ、安全委員ト、供給委員トノ兩委員ヲ選ビテ、甲ハ之ニ附スルニ、必要ノ場合ニ、非常駐附人ヲ召集スベキノ權力ヲ以テシ、乙ハ百種ノ必須品ヲ彼レ等ニ供給スベキノ職任ヲ負ハシメ、次ニアーテマス、ワード(Artemas Ward)ト、セス、ボメロイ(Seth Pomeroy)トノ兩人ヲ將軍ニ任セリ。ボメロイハ、古稀ヲ超エタル老將ニシテ、曾テ佛蘭西、印度戰^{第四十七頁參看}ニ功アリ。ワードハ、裁判官ノ一人ナリ。是ニ於テ、兩將ハ、一萬二千ノ非常駐附人ヲ集メ、他ノ新英蘭諸州ニ勸メテ兵數ヲ二萬ニ滿タシメントス。各州ノ人心恟々トシテ、防備是レ急ナリ。ヴァージョニアニ於テハ、數隊ノ民兵、兵器ヲ研ギテ、操練ヲ行ヒ、華盛頓以下ノ將校ハ、各地ヲ巡回シテ兵ヲ閱セリ。

超エテ翌七十五年^{我力安永四年乙未}一月ニ至リ、是レ等ノ事凡テ英人ノ耳朶ニ觸レシカバ、英人ノ中ニモ、殖民ニ同情ヲ懷クモノ少ナカラズ。殊ニ大陸聯合議會ノ檄文ハ、フランクリン等諸氏^{當時フランクリンハ英國ニ在リ}ノ盡力ニ由リテ、廣ク

英人ノ中ニモ
殖民ニ同情ヲ
懷ク者多シ

ヒツト病ヲ冒シテ殖民ノ爲メニ争フ

英吉利全國ニ流布シケレバ、英人漸ク其ノ事實ヲ聞キ知リテ、我カ政府ノ不法ヲ咎メ、殖民ノ權利ヲ無視スルヲ非難セリ。

偉人チヤタム伯ハ、其ノ身久シク二豎ノ侵ス所ト爲リテ、床中ニ苦惱スルト雖モ、愛民ノ衷情ミヅカラ禁スルヲ能ハズ。復タ米人ノ爲メニ權利ヲ主張セント欲シ、強テ倫敦ニ到リテ、一編ノ議案ヲ國會ニ提出シ、葛藤ヲ解クノ策ヲ呈ス。然レドモ國會ハ依然トシテ前説ヲ固執シ、苟クモ殖民ガ平身低頭シテ先非ヲ謝セザル間ハ、調停ヲ了承セザルノ決心ヲ示セリ。又内閣總理大臣ノリス卿ハ、緩和ノ得策ナルヲ思ハザルニアラザレドモ、性軟弱ニシテ、同僚ノ意見ニ抵抗スルノ勇氣ナク、心ナラズモ、壓制ノ歩ヲ進メ、曩キニ波士敦港令ノ其ノ目的ヲ達スル能ハザリシヨリ、今又更ニ新英蘭制限令ナルモノヲ發シ、此ノ令ニ由リテ、殖民ガノウフアウソドラソ沿岸ニ漁獵ヲ爲スノ權ヲ奪ヘリ。卿又マサチユセツツハ叛亂ノ罪ヲ犯シ、自餘ノ殖民地ハ、共謀及ヒ教唆ノ罪アリト宣言シ、國

新英蘭制限令

會ハ、飽ク迄モ陛下ヲ助ケテ王權守護ノ任ヲ負ハント誓ヘリ。一七七五年二月

第二制限令

翌月三ニ至リ、國會復タ殖民地各州議會ガ大陸聯合議會ノ決議ヲ承認シ、之ヲ支持セント決シタリトノ報ニ接シケレバ、此ノ「不埒」ヲ割センガ爲メニ、第二ノ制限令ヲ發布シ、新約克、デラウエア、北カロライナノ三州ヲ除クノ外、凡テノ殖民地ニ施行スベカラシメタリ。蓋シ國會ガ三州ヲ除キタル所以ノ意ハ、彼レ等ヲ眩惑シテ、心ヲ本國政府ニ寄セシムルニ在リ。然レドモ其ノ心算全ク齟齬シ、三州モ亦他ノ殖民地ト進退チ一ニスルニ至リシコソ笑止ナレ。

ゲージ將軍ニ使用セラル、探偵人等ハ殖民ガコンコルドニ彈藥、及ヒ其ノ他ノ軍用品ヲ貯ヘタル旨ヲ將軍ニ宣告シケレバ、將軍乃チ兵ヲ遣ハシ、擊テ其ノ武庫ヲ陷レント欲シ、最モ秘密ニ其準備ヲ整フ。然レドモ愛國者ノ炯眼ヲ眩マスヲ到底爲シ得ベキニアラズ。安全委員ノ一

レキシントンノ戰將ニ起ラントス

人ウチーレン國手(Dr. Warred) 醫師ニシテ愛國者ナリ。後ニ將軍ト爲ルハ、早クモ之ヲ悟リテ、在レキシントン、ジョン、ハンコックト、サミュエル、アダムストノ許ニ使ヒテ送リテ之ヲ告グシム、時ニ四月十八日ナリ。使者其ノ夜ヲ以テ波士敦ヲ獲セントシケルニ、ゲーショハ、當日ヲ以テ令ヲ出シ、日没ノ後、何人モ府外ニ出ルヲ禁シケレバ、使者ノ二人ナルポール、レザビア(Paul Revere)ウヰリアム、ダウネス(William Dawes)ハ、此ノ令ノ未ダ實行セラレザルニ先チテ既ニ府外ニ出テ、路ヲ異ニシテ進行セリ。又同時ニ北教會ノ塔ヨリ一箇ノ提燈ヲ吊シテ、チャールスタウンノ愛國者ニ非常ヲ示セリ。時辰十時ヲ報シケレバ、英國ノ輕歩兵、及ビ砲兵合セテ八九百名、暗黒ニ乘シテ舟行ケムブリッヂ マサチューセツツ州ニ到リ、同地ヨリ更ニ潛行シテコンコルドニ向ハントス。豈圖ランヤ、米人諸所ニ鐘ヲ鳴ラシ、警砲ヲ放チテ敵ノ襲來ヲ報シケレハ、英ノスミス中佐(Lieutenant Colonel Smith)ハ米人ノ既ニ探知セルヲ悟リテ大ニ驚キ、急ニ使者ニ命シテ、歸リテ、ゲーショニ援兵

レキシントンノ戰

ヲ乞ハシメ、又ピットケアン少佐(Major Pitcairn)ニ命シテ、急行シテ、コンコルドノ二橋ヲ占領セシム。ピットケアン進ンテ、敵ニ逢フ毎ニ之ヲ捕フ。然レモ一人ノ村民逃レテ、レキシントンニ到リテ警報ヲ傳ヘタリ。天明ニ、^{十九}ピットケアン部下ノ兵悉クレキシントンニ着ス。七八十名ノ非常駐附人ハ、他ノ人々ト共ニ草地ニ在リシガ、英軍ノ近ツキ來ルヲ見テ、未ダ其ノ目的ノ何タルヲ詳コスルニ能ハズ。只ハンコック、アダムス サミュエル、アダムスノ二氏ヲ捕ヘンガ爲メニ來レルモノト思考シ、二氏ニ告ゲテ逃レ去ラシム。ピットケアンハ、部下ニ命シテ、留マリテ裝藥ヲ爲サシメ、ミヅカラ馬ヲ進メテ叫ブラク。吶。叛賊ヨ、何ゾ速ニ解散セザル。部下ノ士官モ亦語ヲ次デ叫ブラク。惡徒ヨ、兵器ヲ投シテ解散セヨト。言未タ畢ラザルニ、忽チ一場ノ鬪爭ヲ生シ、彼我頻リニ銃砲ヲ亂撃セリ。少遷アリテ非常駐附人ノ英軍ノ爲メニ射殺サル、モノ七名、傷ヲ被ムルモノ九名。米人一時解散シ、英軍三ツビ手ヲ拍チテ勝利ヲ祝セリ。此ノ戰ニ、英人先